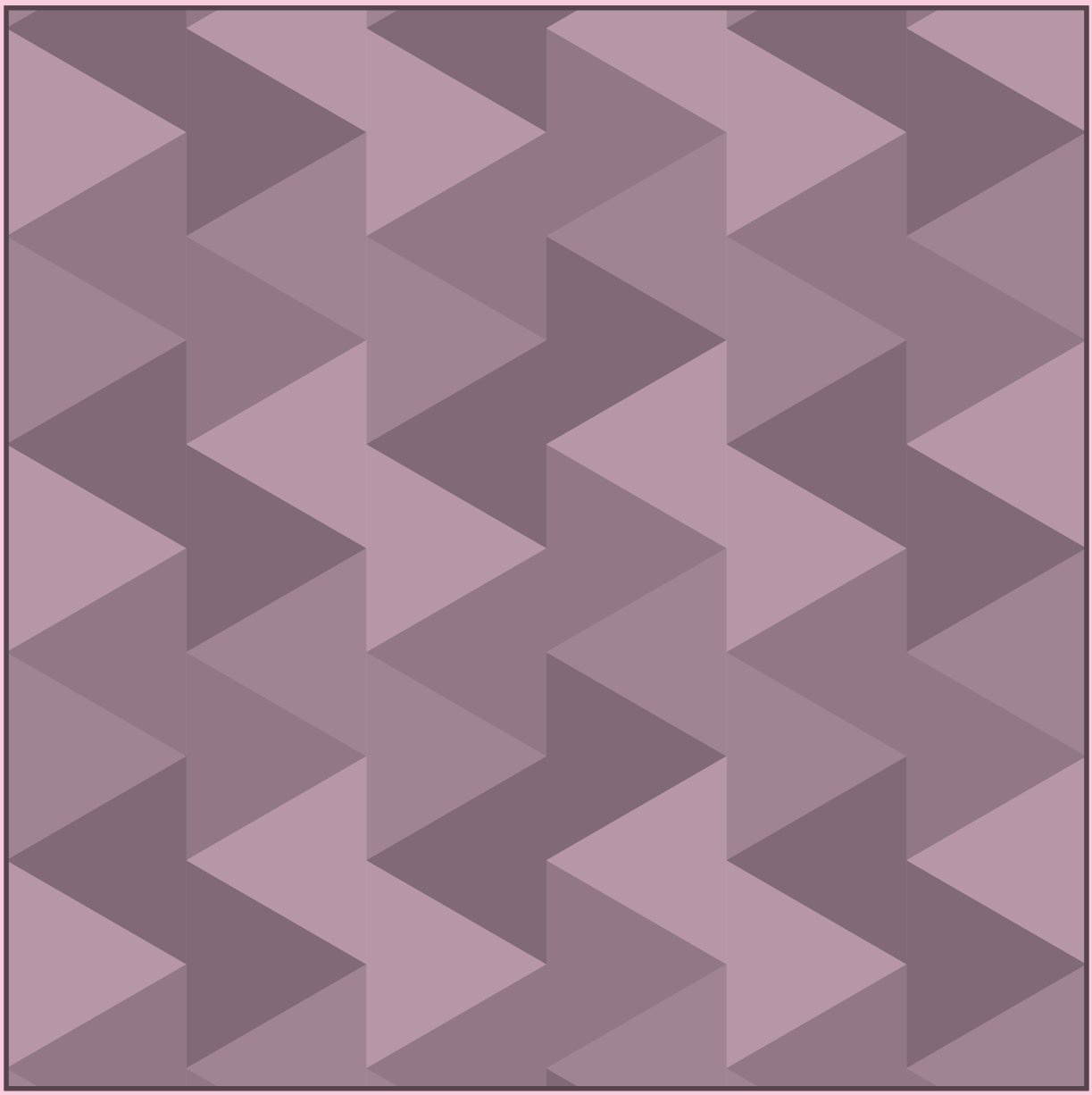
2019年度

シラバス

ドイツ語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

◆シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください◆

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。
目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。
※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合がありますので注意してください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

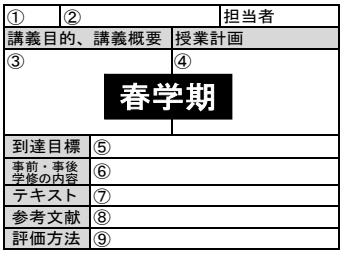
外: 外国語学部	養: 国際教養学部	法: 法学部
独: ドイツ語学科	経: 経済学部	律: 法律学科
英: 英語学科	済: 経済学科	国: 国際関係法学科
仏: フランス語学科	営: 経営学科	総: 総合政策学科
交: 交流文化学科	環: 国際環境経済学科	免: 2013年度以降入学の教職課程登録者
全: ドイツ語学科以外の全学部・全学科		

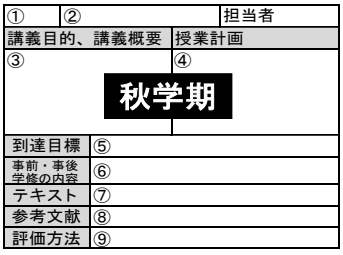
2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度
②入学年度に対応した科目名
③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望
④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。
授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標
⑥事前・事後学修の内容
⑦授業で使用するテキスト
⑧参考文献
⑨評価方法





3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

定員を設けている科目があります。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

③履修登録

学期ごとに第1回目の授業で選考または抽選を行う授業もあるので、必ずシラバスを参照してください。

—— 目 次 ——

ドイツ語学科授業科目（2009 年度以降入学者用）

外国語科目、演習科目 ---------- 2

概論・専門講義・テクスト研究科目 ---------- 4

交流文化論 ---------- 6

外国語学部共通科目 ---------- 7

担当者別シラバス ---------- 9

ドイツ語学科　授業科目(2009～2019年度入学者用)

外国語科目

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
既修	総合ドイツ語Ⅰ	M. ラインデル／堤　那美子	春	ー	1	1	全	9
	総合ドイツ語Ⅱ	M. ラインデル／堤　那美子	秋	ー	1	1	全	9
	総合ドイツ語Ⅲ	D. フジサワ／青山　愛香	春	ー	1	2	全	10
	総合ドイツ語Ⅳ	D. フジサワ／青山　愛香	秋	ー	1	2	全	10
	基礎ドイツ語Ⅰ	M. ビティヒ	春	ー	1	1	全	11
	基礎ドイツ語Ⅱ	M. ビティヒ	秋	ー	1	1	全	11
	応用ドイツ語Ⅰ	A. ヴェルナー	春	ー	1	2	全	12
	応用ドイツ語Ⅱ	A. ヴェルナー	秋	ー	1	2	全	12
未修	総合ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春	ー	1	1	全	13
	総合ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋	ー	1	1	全	13
	総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員	春	ー	1	2	全	14
	総合ドイツ語Ⅳ	各担当教員	秋	ー	1	2	全	14
	基礎ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春	ー	1	1	全	15
	基礎ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋	ー	1	1	全	15
	応用ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春	ー	1	2	全	16
	応用ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋	ー	1	2	全	16
レベルA	中級ドイツ語リーディング a	S. ヴィーク	春	火3	1	2		17
	中級ドイツ語リーディング b	S. ヴィーク	秋	火3	1	2		17
	中級ドイツ語ライティング a	H. W. ラーデケ	春	月3	1	2		18
	中級ドイツ語ライティング b	H. W. ラーデケ	秋	月3	1	2		18
	中級ドイツ語スピーキング a	J. シュトライト	春	木4	1	2		19
	中級ドイツ語スピーキング b	J. シュトライト	秋	木4	1	2		19
	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	H. W. ラーデケ	春	金3	1	2		20
	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	H. W. ラーデケ	秋	金3	1	2		20
レベルB	中級ドイツ語リーディング a	R. ヘニング	春	月4	1	2		21
	中級ドイツ語リーディング b	R. ヘニング	秋	月4	1	2		21
	中級ドイツ語ライティング a	D. オルランド	春	月3	1	2		22
	中級ドイツ語ライティング b	D. オルランド	秋	月3	1	2		22
	中級ドイツ語スピーキング a	H. J. トロル	春	金1	1	2		23
	中級ドイツ語スピーキング b	H. J. トロル	秋	金1	1	2		23
	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	N. カネマツ	春	金2	1	2		24
	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	N. カネマツ	秋	金2	1	2		24
英語		不開講	—	—	1	2		—
英語		不開講	—	—	1	2		—

外国語科目

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
既修・スーパー	総合ドイツ語Ⅴ	K. ニーヴァルダ	春	水1/木3	2	3		25
	総合ドイツ語Ⅵ	K. ニーヴァルダ	秋	水1/木3	2	3		25
	総合ドイツ語Ⅶ	A. ヴェルナー	春	火5/水2	2	3		26
	総合ドイツ語Ⅷ	A. ヴェルナー	秋	火5/水2	2	3		26
標準	総合ドイツ語Ⅴ	各担当教員	春	ー	2	3		27
	総合ドイツ語Ⅵ	各担当教員	秋	ー	2	3		27
	総合ドイツ語Ⅶ	T. カーラー	春	火1/木1	2	3		28
	総合ドイツ語Ⅷ	T. カーラー	秋	火1/木1	2	3		28
	上級ドイツ語リーディング a	D. オルランド	春	月1	2	3		29
	上級ドイツ語リーディング b	D. オルランド	秋	月1	2	3		29
	上級ドイツ語リーディング a	R. ヘニング	春	金2	2	3		30
	上級ドイツ語リーディング b	R. ヘニング	秋	金2	2	3		30
	上級ドイツ語ライティング a	D. フジサワ	春	月3	2	3		31
	上級ドイツ語ライティング b	D. フジサワ	秋	月3	2	3		31
	上級ドイツ語ライティング a	H. W. ラーデケ	春	月2	2	3		32
	上級ドイツ語ライティング b	H. W. ラーデケ	秋	月2	2	3		32
	上級ドイツ語ライティング a	S. メルテンス	春	火2	2	3		33
	上級ドイツ語ライティング b	S. メルテンス	秋	火2	2	3		33
	上級ドイツ語スピーキング a	D. フジサワ	春	月2	2	3		34
	上級ドイツ語スピーキング b	D. フジサワ	秋	月2	2	3		34
	上級ドイツ語スピーキング a	R. メッツィング	春	金2	2	3		35
	上級ドイツ語スピーキング b	R. メッツィング	秋	金2	2	3		35
	上級ドイツ語スピーキング a	S. ヴィーク	春	火2	2	3		36
	上級ドイツ語スピーキング b	S. ヴィーク	秋	火2	2	3		36
	上級ドイツ語リスニング(CAL) a	R. ヘニング	春	月2	2	3		37
	上級ドイツ語リスニング(CAL) b	R. ヘニング	秋	月2	2	3		37
	上級ドイツ語リスニング(CAL) a	S. メルテンス	春	木2	2	3		38
	上級ドイツ語リスニング(CAL) b	S. メルテンス	秋	木2	2	3		38
	中世ドイツ語 a	I. アルブレヒト	春	木2	2	3		39
	中世ドイツ語 b	I. アルブレヒト	秋	木2	2	3		39
	ビジネスドイツ語 a	S. メルテンス	春	木3	2	3		40
	ビジネスドイツ語 b	S. メルテンス	秋	木3	2	3		40
	上級英語	辻田　麻里	春	木3	2	3		41
	上級英語	辻田　麻里	秋	木3	2	3		41

演習科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ドイツ語圏入門Ⅰ	伊豆田　俊輔	春	水3	2	1	全	42
ドイツ語圏入門Ⅱ	伊豆田　俊輔	秋	水3	2	1	全	42
基礎演習Ⅰ	各担当教員	春	水2	2	2	全	43
基礎演習Ⅱ	各担当教員	秋	水2	2	2	全	43
通訳特殊演習	中山　純	春	水3	2	3		44
通訳特殊演習	中山　純	秋	水3	2	3		44
翻訳特殊演習	上田　浩二	春	水3	2	3		45
インターンシップ特殊演習	K. ニーヴァルダ	春	金3	2	2		46
留学準備特殊演習	M. ラインデル	春	水3	2	2		47
外国語教育特殊演習	M. ラインデル	春	月5	2	2		48
外国語教育特殊演習	M. ラインデル	秋	月5	2	2		48
外国語教育特殊演習	上田　浩二	秋	水3	2	3		49

概論・専門講義・テクスト研究科目

語学・文学・思想研究コース

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ドイツ語概論 a	金井　満	春	火1	2	1		50
ドイツ語概論 b	金井　満	秋	火1	2	1		50
ドイツ語圏文学・思想概論 a	渡部　重美	春	水2	2	1		51
ドイツ語圏文学・思想概論 b	渡部　重美	秋	水2	2	1		51
ドイツ語圏の言語 a	黒子　葉子	春	金3	2	2		52
ドイツ語圏の言語 b	黒子　葉子	秋	金3	2	2		52
ドイツ語圏の文学 a	矢羽々　崇	春	火1	2	2		53
ドイツ語圏の文学 b	矢羽々　崇	秋	火1	2	2		53
ドイツ語圏の思想 a	工藤　達也	春	月3	2	2	交	54
ドイツ語圏の思想 b	工藤　達也	秋	月3	2	2	交	54
テクスト研究（語学・(文学)・思想） a	D. フジサワ	春	金2	2	3		55
テクスト研究（語学・(文学)・思想） b	D. フジサワ	秋	金2	2	3		55
テクスト研究（語学・文学・(思想)） a	J. シュトライト	春	月4	2	3		56
テクスト研究（語学・文学・(思想)） b	J. シュトライト	秋	月4	2	3		56
テクスト研究（(語学)・文学・思想） a	M. ラインデル	春	水1	2	3		57
テクスト研究（(語学)・文学・思想） b	M. ラインデル	秋	水1	2	3		57
テクスト研究（語学・文学・(思想)） a	S. ヴィーク	春	木4	2	3		58
テクスト研究（(語学)・文学・思想） b	中川　純子	秋	木2	2	3		59
テクスト研究（(語学)・文学・思想） a	中山　純	春	水4	2	3		60
テクスト研究（(語学)・文学・思想） b	中山　純	秋	水4	2	3		60
テクスト研究（語学・(文学)・思想） a	本橋　右京	春	木2	2	3		61
テクスト研究（語学・(文学)・思想） b	本橋　右京	秋	木2	2	3		61

芸術・文化研究コース

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ドイツ語圏芸術・文化概論 a	山本　淳	春	木1	2	1		62
ドイツ語圏芸術・文化概論 b	山本　淳	秋	木1	2	1		62
ドイツ語圏の美術 a	青山　愛香	春	月3	2	2		63
ドイツ語圏の美術 b	青山　愛香	秋	月3	2	2		63
ドイツ語圏の音楽 a	木村　佐千子	春	金3	2	2		64
ドイツ語圏の音楽 b	木村　佐千子	秋	金3	2	2		64
ドイツ語圏の演劇 a	上田　浩二	春	水4	2	2		65
ドイツ語圏の演劇 b	上田　浩二	秋	水4	2	2		65
ドイツ語圏のメディア文化 a	不開講	—	—	2	2	全	—
ドイツ語圏のメディア文化 b	不開講	—	—	2	2	全	—
テクスト研究（芸術・文化） a	I. アルブレヒト	春	木3	2	3		66
テクスト研究（芸術・文化） b	I. アルブレヒト	秋	木3	2	3		66
テクスト研究（芸術・文化） b	K. ニーヴァルダ	秋	金3	2	3		67
テクスト研究（芸術・文化） a	N. カネマツ	春	金4	2	3		68
テクスト研究（芸術・文化） b	N. カネマツ	秋	金4	2	3		68
テクスト研究（芸術・文化） a	青山　愛香	春	水1	2	3		69
テクスト研究（芸術・文化） b	青山　愛香	秋	水1	2	3		69
テクスト研究（芸術・文化） a	佐藤　恵	春	木2	2	3		70
テクスト研究（芸術・文化） a	髙橋　輝暁	春	水5	2	3		71
テクスト研究（芸術・文化） b	髙橋　輝暁	秋	水5	2	3		71
テクスト研究（芸術・文化） a	前田　智	春	木1	2	3		72
テクスト研究（芸術・文化） b	前田　智	秋	木1	2	3		72

概論・専門講義・テクスト研究科目

現代社会・歴史研究コース

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ドイツ語圏現代社会概論 a	古田　善文	春	金4	2	1		73
ドイツ語圏現代社会概論 b	古田　善文	秋	金4	2	1		73
ドイツ語圏歴史概論 a	古田　善文	春	火4	2	1		74
ドイツ語圏歴史概論 b	古田　善文	秋	火4	2	1		74
ドイツ語圏の政治・経済 a	大重　光太郎	春	月3	2	2	交	75
ドイツ語圏の政治・経済 b	大重　光太郎	秋	月3	2	2	交	75
ドイツ語圏の歴史 a	上村　敏郎	春	金3	2	2	交	76
ドイツ語圏の歴史 b	上村　敏郎	秋	金3	2	2	交	76
ドイツ語圏の地域・環境問題 a	岡村　りら	春	火1	2	2	交	77
ドイツ語圏の地域・環境問題 b	岡村　りら	秋	火1	2	2	交	77
ドイツ語圏とEU a	伊豆田　俊輔	春	金5	2	2	全	78
ドイツ語圏とEU b	伊豆田　俊輔	秋	金5	2	2	全	78
テクスト研究（現代社会・歴史） a	D. フジサワ	春	金3	2	3		79
テクスト研究（現代社会・歴史） b	D. フジサワ	秋	金3	2	3		79
テクスト研究（現代社会・歴史） a	H. W. ラーデケ	春	金2	2	3		80
テクスト研究（現代社会・歴史） b	H. W. ラーデケ	秋	金2	2	3		80
テクスト研究（現代社会・歴史） a	M. ビティヒ	春	月4	2	3		81
テクスト研究（現代社会・歴史） b	M. ビティヒ	秋	月4	2	3		81
テクスト研究（現代社会・歴史） a	R. メッツィング	春	月2	2	3		82
テクスト研究（現代社会・歴史） b	R. メッツィング	秋	月2	2	3		82
テクスト研究（現代社会・歴史） b	S. ヴィーク	秋	木4	2	3		83
テクスト研究（現代社会・歴史） a	T. マイヤー	春	木2	2	3		84
テクスト研究（現代社会・歴史） b	T. マイヤー	秋	木2	2	3		84
テクスト研究（現代社会・歴史） a	秋山　大輔	春	金5	2	3		85
テクスト研究（現代社会・歴史） b	秋山　大輔	秋	金5	2	3		85
テクスト研究（現代社会・歴史） a	井上　周平	春	月5	2	3		86
テクスト研究（現代社会・歴史） b	井上　周平	秋	月5	2	3		86
テクスト研究（現代社会・歴史） a	黒田　多美子	春	木3	2	3		87
テクスト研究（現代社会・歴史） b	黒田　多美子	秋	木3	2	3		87
テクスト研究（現代社会・歴史） a	中川　純子	春	木2	2	3		88

交流文化論

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
交流文化論（航空産業論）	井上　泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	89
交流文化論（ツーリズム特殊講義（紛争事例から学ぶ旅行契約法入門））	花本　広志	春	月3	2	2	交・養・経・法	90
交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	鈴木　涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	91
交流文化論（表象文化論）	高橋　雄一郎	春	火4	2	2	交・養・経・法	92
交流文化論（開発文化論）	北野　収	春	水1	2	2	交・養・経・法	93
交流文化論（食の文化論）	北野　収	春	水2	2	2	交・養・経・法	94
交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義（グローバリゼーションと子ども））	堀　芳枝	春	水2	2	2	交・養・経・法	95
交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	山口　誠	春	木1	2	2	交・養・経・法	96
交流文化論（ツーリズム人類学）	須永　和博	春	木4	2	2	交・養・経・法	97
交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義（東南アジアのナショナリズム、民主主義と平和））	堀　芳枝	春	金1	2	2	交・養・経・法	98
交流文化論（国際会議・イベント事業論）	井上　泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	99
交流文化論（ツーリズム政策論）	井上　泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	100
交流文化論（ツーリズム文化論）	鈴木　涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	101
交流文化論（地域開発論）	北野　収	秋	水1	2	2	交・養・経・法	102
交流文化論（トランスナショナル社会学）	北野　収	秋	水2	2	2	交・養・経・法	103
交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義（グローバル経済とジェンダー））	堀　芳枝	秋	水2	2	2	交・養・経・法	104
交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義（「観る」ことの文化史））	山口　誠	秋	木1	2	2	交・養・経・法	105
交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義（シティズンシップ教育論））	花本　広志	秋	木3	2	2	交・養・経・法	106
交流文化論（旅行・宿泊産業論）	井上　泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	107
交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	須永　和博	秋	木4	2	2	交・養・経・法	108
交流文化論（ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論））	山口　誠	秋	金1	2	2	交・養・経・法	109

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
総合講座	山口　誠	春	水3	2	1	養・経・法	111
総合講座	堀　芳枝	秋	水3	2	1	養・経・法	111
総合講座	永本　哲也	春	月3	2	1	養・経・法	112
総合講座	有信　真美菜	秋	木2	2	1	養・経・法	112
情報科学概論a	呉　浩東	春	月2	2	1	養・経・法	113
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						
(情報処理演習)[総合]	金子　憲一	春	月3	2	1	養・経・法	114
(情報処理演習)[総合]	金子　憲一	春	月4	2	1	養・経・法	114
(情報処理演習)[総合]	金子　憲一	春	木3	2	1	養・経・法	114
(情報処理演習)[英語]	黄　海湘	春	水5	2	1	養・経・法	115
(情報処理演習)[英語]	黄　海湘	秋	水5	2	1	養・経・法	115
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井　満	春	火2	2	1	養・経・法	116
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	金2	2	1	養・経・法	116
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	金3	2	1	養・経・法	116
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井　満	秋	火2	2	1	養・経・法	116
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	金2	2	1	養・経・法	116
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	金3	2	1	養・経・法	116
(応用)情報科学各論	各担当教員						
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山　恵美子	秋	月2	2	1	養・経・法	117
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子　憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	117
(プレゼンテーション中級)	金子　憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	118
(Word中級)	松山　恵美子	春	月1	2	1	養・経・法	119
(Word中級)	松山　恵美子	秋	月1	2	1	養・経・法	119
(Word中級)	金子　憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	119
(Word中級)	金子　憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	119
(Office中級)	松山　恵美子	春	月2	2	1	養・経・法	120
(Office中級)	休講						
(言語情報処理1)【2015年度以前入学者】/(コーパス言語学a)【2016年度以降入学者】	休講						
(言語情報処理2)【2015年度以前入学者】/(コーパス言語学b)【2016年度以降入学者】	休講						
(HTML)情報科学各論	各担当教員						
(HTML初級)	金子　憲一	春	月5	2	1	養・経・法	121
(HTML初級)	金子　憲一	春	木4	2	1	養・経・法	122
(HTML中級)	金子　憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	122
経済原論a	休講						
経済原論b	休講						
社会心理学a	休講						
社会心理学b	休講						

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。
※「情報科学各論(情報処理演習)」は言語が異なる場合でも重複履修はできません。

ドイツ語学科科目シラバス

09 年度以降	総合ドイツ語 I （既修）	担当者	M. ラインデル 堤　那美子

講義目的、講義概要	授業計画
Für diese 既修-Klasse beginnt der Unterricht auf dem Niveau B1 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in mit 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.	1. Lektion 1 (Glückwunsch, Teil A, Teil B) 2. Lektion 1 (Glückwunsch, Teil C, Grammatik) 3. Lektion 1 (Glückwunsch, Teil D, Teil E) 4. Lektion 2 (Viel Spaß, Teil A, Teil B) 5. Lektion 2 (Viel Spaß, Teil C, Grammatik) 6. Lektion 2 (Viel Spaß, Teil D, Teil E), /Test 7. Lektion 3 (Mal was anderes!, Teil A, Teil B) 8. Lektion 3 (Mal was anderes!, Teil C, Grammatik) 9. Lektion 3 (Mal was anderes!, Teil D, Teil E), /Test 10. Lektion 4 (So war's, Teil A, Teil B) 11. Lektion 4 (So war's, Teil C, Grammatik) 12. Lektion 4 (So war's, Teil D, Teil E,) 13. Wiederholung der Lektionen 1-4, /Test 14. Wiederholung der Grammatik, Mündlicher Test

到達目標	ドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の４技能を総合的に習得し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	Ziel B1＋ Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) ＞ 初回授業時までに購入
参考文献	特になし
評価方法	授業中に行う筆記試験 65%、学期末の口頭試験 25%、平常点 10% なお、総合ドイツ語 I の単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅱへ進めません。

09 年度以降	総合ドイツ語Ⅱ （既修）	担当者	M. ラインデル 堤　那美子

講義目的、講義概要	授業計画
Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B1 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in in 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.	1. Lektion 5 (Also gut, geht in Ordnung, Teil A, Teil B) 2. Lektion 5 (Also gut, geht in Ordnung, Teil C, Grammatik) 3. Lektion 5 (Also gut, geht in Ordnung, Teil D, Teil E) 4. Lektion 6 (Gefällt mir, Teil A, Teil B) 5. Lektion 6 (Gefällt mir, Teil C, Grammatik) 6. Lektion 6 (Gefällt mir, Teil D, Teil E), /Test 7. Lektion 7 (Das tut gut!, Teil A, Teil B) 8. Lektion 7 (Das tut gut!, Teil C, Grammatik) 9. Lektion 7 (Das tut gut!, Teil D, Teil E), /Test 10. Lektion 8 (Gut, obwohl …, Teil A, Teil B) 11. Lektion 8 (Gut, obwohl …, Teil C, Grammatik) 12. Lektion 8 (Gut, obwohl …, Teil D, Teil E,) 13. Wiederholung der Lektionen 5-8, /Test 14. Wiederholung der Grammatik, Mündlicher Test

到達目標	ドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の４技能を総合的に習得し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	Ziel B1＋ Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) ＞ 初回授業時までに購入
参考文献	特になし
評価方法	授業中に行う筆記試験 65%、学期末の口頭試験 25%、平常点 10% なお、総合ドイツ語Ⅱの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅲへ進めません。

09 年度以降	総合ドイツ語Ⅲ（既修）	担当者	D．フジサワ 青山　愛香

講義目的、講義概要	授業計画
Für diese 既修-Klasse beginnt der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in mit 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.	1. Lektion 1 (Erlebt, Teil A, Teil B) 2. Lektion 1 (Erlebt, Teil C, Teil D, Teil E) 3. Lektion 1 (Erlebt, Teil F, Teil G) 4. Lektion 2 (Faszination, Teil A, Teil B) 5. Lektion 2 (Faszination, Teil C, Teil D, Teil E) 6. Lektion 2 (Faszination, Teil F, Teil G), /Test 7. Lektion 3 (Vertrautes, Teil A, Teil B) 8. Lektion 3 (Vertrautes, Teil C, Teil D, Teil E) 9. Lektion 3 (Vertrautes, Teil F, Teil G), /Test 10. Lektion 4 (Erwischt, Teil A, Teil B) 11. Lektion 4 (Erwischt, Teil C, Teil D, Teil E) 12. Lektion 4 (Erwischt, Teil F, Teil G) 13. Wiederholung der Lektionen 1-4, /Test 14. Wiederholung der Grammatik, Mündlicher Test

到達目標	ドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の４技能を１年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	Ziel B2 Band 1 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) ＞ 初回授業時までに購入
参考文献	特になし
評価方法	授業中に行う筆記試験 65%、学期末の口頭試験 25%、平常点 10% なお、総合ドイツ語Ⅲの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅳへ進めません。

09 年度以降	総合ドイツ語Ⅳ（既修）	担当者	D．フジサワ 青山　愛香

講義目的、講義概要	授業計画
Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in in 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.	1. Lektion 5 (Eintauchen, Teil A, Teil B) 2. Lektion 5 (Eintauchen, Teil C, Teil D, Teil E) 3. Lektion 5 (Eintauchen, Teil F, Teil G) 4. Lektion 6 (Gewinnen, Teil A, Teil B) 5. Lektion 6 (Gewinnen, Teil C, Teil D, Teil E) 6. Lektion 6 (Gewinnen, Teil F, Teil G), /Test 7. Lektion 7 (Verrückt, Teil A, Teil B) 8. Lektion 7 (Verrückt, Teil C, Teil D, Teil E) 9. Lektion 7 (Verrückt, Teil F, Teil G), /Test 10. Lektion 8 (Risiko, Teil A, Teil B) 11. Lektion 8 (Risiko, Teil C, Teil D, Teil E) 12. Lektion 8 (Risiko, Teil F, Teil G) 13. Wiederholung der Lektionen 5-8, /Test 14. Wiederholung der Grammatik, Mündlicher Test

到達目標	ドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の４技能を１年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	Ziel B2 Band 1 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) ＞ 初回授業時までに購入
参考文献	特になし
評価方法	授業中に行う筆記試験 65%、学期末の口頭試験 25%、平常点 10% なお、総合ドイツ語Ⅳの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅴ～Ⅷへ進めません。

09 年度以降	基礎ドイツ語 I （既修）	担当者	M. ビティヒ

講義目的、講義概要	授業計画
Dieser Unterricht hat - durch Übungen und mündliche und schriftliche Anwendung - die Festigung der Grundgrammatik zum Ziel, darüber hinaus die Vorbereitung auf das B2 Niveau (Niveau B1 ist vorausgesetzt).	Die Übungseinheiten werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist: 1. Personalpronomen, Verben im Präsens 2. *sein* und *haben* im Präsens 3. Verben im Perfekt 4. Bildung des Partizip Perfekt 5. Perfekt mit *sein* und *haben* 6. Verben mit Präfix (trennbar/nicht trennbar) 7. Adjektivdeklination 8. Partizipien als Adjektive 9. Adjektive und Partizipien als Substantive 10. Artikel und Artikelwörter mit Signal-Endung 11. Artikel und Artikelwörter ohne Signal-Endung 12. Passiv: *werden* + Partizip Perfekt 13. Passiv: Präsens, Präteritum, Perfekt, Plusquamperfekt 14. Passiv bei Modalverben

到達目標	ドイツ語の初級文法を中心に、基礎的な能力を習得し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vorbereitung (ca. 90 Minuten) Wiederholung und Hausaufgaben (ca. 90 Minuten)
テキスト	Kopien, werden im Unterricht verteilt
参考文献	PONS Grammatik Kurz & Bündig: Deutsch als Fremdsprache (ISBN: 978-3-12-562693-5)
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit (30%), Hausaufgaben (20%), schriftliche Tests (50%)

09 年度以降	基礎ドイツ語 II （既修）	担当者	M. ビティヒ

講義目的、講義概要	授業計画
Dieser Unterricht hat die Festigung der Grundgrammatik zum Ziel, durch Übungen und mündliche und schriftliche Anwendung, darüber hinaus die Vorbereitung auf das B2 Niveau (Niveau B1 ist vorausgesetzt).	Die Übungseinheiten werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist: 1. Präteritum 2. Unterscheidung zwischen Perfekt und Präteritum 3. Klassen der unregelmäßigen Verben 4. *der*, *das*, *die*; *einer*; *keiner* als Pronomen 5. *welcher? – dieser – jener* 6. *meiner*, *mein(e)s*, *meine* etc. 7. Konjunktiv II: Konditionale Nebensätze 8. Konjunktiv II: Vergangenheit 9. Konjunktiv II: Höfliche Bitten/Fragen; Wünsche 10. Lokale Präpositionen 11. Präpositionen: Direktional-Objekte 12. Konjunktiv I 13. Indirekte Rede: Formen des Konjunktivs 14. Indirekte Rede: Vergangenheit und Zukunft

到達目標	ドイツ語の初級文法を中心に、基礎的な能力を習得し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vorbereitung (ca. 90 Minuten) Wiederholung und Hausaufgaben (ca. 90 Minuten)
テキスト	Kopien, werden im Unterricht verteilt
参考文献	PONS Grammatik Kurz & Bündig: Deutsch als Fremdsprache (ISBN: 978-3-12-562693-5)
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit (30%), Hausaufgaben (20%), schriftliche Tests (50%)

09 年度以降	応用ドイツ語 I （既修）	担当者	A．ヴェルナー

講義目的、講義概要	授業計画
Der Zweck des Unterrichts ist, die Grammatik, aber auch andere grundlegende Fähigkeiten, wie kommunikative Kompetenz, interkulturelles Verstehen, Argumentation mündlicher und schriftlicher Art zu lernen und zu üben. Dabei werden bei der Progression die Kompetenzen der Studierenden berücksichtigt. Niveau B1 ist jedoch vorausgesetzt. Aktive Teilnahme und Bereitschaft zu Partner- und Gruppenarbeit sind nötig.	1. Besprechung des Semesters 2. Grammatische Übungen, Wiederholung 3. Präpositionen 4. Konnektoren 5. Satzverbindungen 6. Modalverben 7. Modalpartikeln 8. Zusammenfassende Übungen 9. Sprachmittel verschiedener Sprachanlässe 10. Entschuldigung 11. Ablehnung-Annahme 12. Einladung-Dank 13. Übungen 14. Abschlussbesprechung, Evaluation

到達目標	ドイツ語の中級文法や読解を中心に、応用的な能力を習得し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	Kopien, werden im Unterricht verteilt
参考文献	Grammatiken und Übungsmaterial auf dem Niveau B2
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit 50%, Präsentationen, Aufgaben, Tests50%

09 年度以降	応用ドイツ語 II （既修）	担当者	A．ヴェルナー

講義目的、講義概要	授業計画
Der Zweck des Unterrichts ist, die Grammatik, aber auch andere grundlegende Fähigkeiten, wie kommunikative Kompetenz, interkulturelles Verstehen, Argumentation mündlicher und schriftlicher Art zu lernen und zu üben. Dabei werden bei der Progression die Kompetenzen der Studierenden berücksichtigt. Niveau B1 ist jedoch vorausgesetzt. Aktive Teilnahme und Bereitschaft zu Partner- und Gruppenarbeit sind nötig.	1. Planung des Semesters 2. Sprachliche Mittel für Mündliches Berichten 3. Präsentationen 4. Schriftliches Arbeiten 5. Schriftliche Präsentationen, usw. 6. Übungen 7. Wissenschaftliches Arbeiten 8. Aufbau einer wissenschaftlichen Arbeit 9. Argumentationen mündlich 10. Argumentationen schriftlich 11. Interkulturelle Übungen 12. Sprachvergleiche 13. Erklärungen der eigenen Kultur 14. Abschlussbesprechung, Evaluation

到達目標	ドイツ語の中級文法や読解を中心に、応用的な能力を習得し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	Kopien, werden im Unterricht verteilt
参考文献	Grammatiken und Übungsmaterial auf dem Niveau B2
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit 50%, Präsentationen, Aufgaben, Tests50%

09 年度以降	総合ドイツ語 I （未修）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ネイティヴ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 I，IIの履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA1レヴェルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修によりGoethe- Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD（Zertifikat Deutsch）に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティヴの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。	1. Lektion 1 (Guten Tag. Mein Name ist ..., Teil A, Teil B) 2. Lektion 1 (Guten Tag. Mein Name ist ..., Teil C, Teil D, Teil E) 3. Lektion 2 (Meine Familie, Teil A, Teil B) 4. Lektion 2 (Meine Familie, Teil C, Teil D, Teil E) / Test 5. Lektion 3 (Essen und Trinken, Teil A, Teil B) 6. Lektion 3 (Essen und Trinken, Teil C, Teil D, Teil E) 7. Lektion 4 (Meine Wohnung, Teil A, Teil B) 8. Lektion 4 (Meine Wohnung, Teil C, Teil D, Teil E) / Test 9. Lektion 5 (Mein Tag, Teil A, Teil B) 10. Lektion 5 (Mein Tag, Teil C, Teil D, Teil E) 11. Lektion 6 (Freizeit, Teil A, Teil B) 12. Lektion 6 (Freizeit, Teil C, Teil D, Teil E) 13. Lektion 7 (Lernen - ein Leben lang, Teil A, Teil B) 14. Lektion 7 (Lernen - ein Leben lang, Teil C, Teil D, Teil E) / Test

到達目標	ドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の４技能を総合的に習得し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	『Schritte international Neu 1 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）＞初回授業時までに購入
参考文献	特になし
評価方法	授業中に行う筆記試験 65%、学期末の口頭試験 25%、平常点 10% なお、総合ドイツ語 I の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 II へ進めません。

09 年度以降	総合ドイツ語 II （未修）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ネイティヴ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 I，IIの履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA1レヴェルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修によりGoethe- Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD（Zertifikat Deutsch）に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティヴの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。	1. Lektion 8 (Beruf und Arbeit, Teil A, Teil B) 2. Lektion 8 (Beruf und Arbeit, Teil C, Teil D, Teil E) 3. Lektion 9 (Unterwegs, Teil A, Teil B) 4. Lektion 9 (Unterwegs, Teil C, Teil D, Teil E) / Test 5. Lektion 10 (Gesundheit und Krankheit, Teil A, Teil B) 6. Lektion 10 (Gesundheit und Krankheit, Teil C, Teil D, Teil E) 7. Lektion 11 (In der Stadt unterwegs, Teil A, Teil B) 8. Lektion 11 (In der Stadt unterwegs, Teil C, Teil D, Teil E) / Test 9. Lektion 12 (Kundenservice, Teil A, Teil B) 10. Lektion 12 (Kundenservice, Teil C, Teil D, Teil E) 11. Lektion 13 (Neue Kleider, Teil A, Teil B) 12. Lektion 13 (Neue Kleider, Teil C, Teil D, Teil E) 13. Lektion 14 (Feste, Teil A, Teil B) 14. Lektion 14 (Feste, Teil C, Teil D, Teil E) / Test

到達目標	ドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の４技能を総合的に習得し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	『Schritte international Neu 2 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）＞初回授業時までに購入
参考文献	特になし
評価方法	授業中に行う筆記試験 65%、学期末の口頭試験 25%、平常点 10% なお、総合ドイツ語 II の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 III へ進めません。

09 年度以降	総合ドイツ語Ⅲ（未修）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ネイティヴ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語Ⅲ, Ⅳの履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA2レヴェルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修によりGoethe- Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD（Zertifikat Deutsch）に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティヴの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。	1. Lektion 1 (Ankommen, Teil A, Teil B) 2. Lektion 1 (Ankommen, Teil C, Teil D, Teil E) 3. Lektion 2 (Zu Hause, Teil A, Teil B) 4. Lektion 2 (Zu Hause, Teil C, Teil D, Teil E) / Test 5. Lektion 3 (Essen und Trinken, Teil A, Teil B) 6. Lektion 3 (Essen und Trinken, Teil C, Teil D, Teil E) 7. Lektion 4 (Arbeitswelt, Teil A, Teil B) 8. Lektion 4 (Arbeitswelt, Teil C, Teil D, Teil E) / Test 9. Lektion 5 (Sport und Fitness, Teil A, Teil B) 10. Lektion 5 (Sport und Fitness, Teil C, Teil D, Teil E) 11. Lektion 6 (Ausbildung und Karriere, Teil A, Teil B) 12. Lektion 6 (Ausbildung und Karriere, Teil C, Teil D, Teil E) 13. Lektion 7 (Feste und Geschenke, Teil A, Teil B) 14. Lektion 7 (Feste und Geschenke, Teil C, Teil D, Teil E) / Test

到達目標	ドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の４技能を１年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	『Schritte international Neu 3 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）＞初回授業時までに購入
参考文献	特になし
評価方法	授業中に行う筆記試験 65%、学期末の口頭試験 25%、平常点 10% なお、総合ドイツ語Ⅲの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅳへ進めません。

09 年度以降	総合ドイツ語Ⅳ（未修）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ネイティヴ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語Ⅲ, Ⅳの履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA2レヴェルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修によりGoethe- Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD（Zertifikat Deutsch）に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティヴの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。	1. Lektion 8 (Am Wochenende, Teil A, Teil B) 2. Lektion 8 (Am Wochenende, Teil C, Teil D, Teil E) 3. Lektion 9 (Meine Sachen, Teil A, Teil B) 4. Lektion 9 (Meine Sachen, Teil C, Teil D, Teil E) / Test 5. Lektion 10 (Kommunikation, Teil A, Teil B) 6. Lektion 10 (Kommunikation, Teil C, Teil D, Teil E) 7. Lektion 11 (Unterwegs, Teil A, Teil B) 8. Lektion 11 (Unterwegs, Teil C, Teil D, Teil E) / Test 9. Lektion 12 (Reisen, Teil A, Teil B) 10. Lektion 12 (Reisen, Teil C, Teil D, Teil E) 11. Lektion 13 (Geld, Teil A, Teil B) 12. Lektion 13 (Geld, Teil C, Teil D, Teil E) 13. Lektion 14 (Lebensstationen, Teil A, Teil B) 14. Lektion 14 (Lebensstationen, Teil C, Teil D, Teil E) / Test

到達目標	ドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の４技能を１年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	『Schritte international Neu 4 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）＞初回授業時までに購入
参考文献	特になし
評価方法	授業中に行う筆記試験 65%、学期末の口頭試験 25%、平常点 10% なお、総合ドイツ語Ⅳの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅴ～Ⅷへ進めません。

09年度以降	基礎ドイツ語Ⅰ（未修）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
＜未修クラス（２～７組）＞ 春（＝基礎ドイツ語Ⅰ）と秋（＝基礎ドイツ語Ⅱ）の2学期間で,ドイツ語の基本（基本文法＝仕組み,基本語彙,基本表現など）をひと通り修得します。 この授業で身につけるべき学習内容は,これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかり行い,継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めてください。 具体的な目標としては,1年間の勉強で「独検（ドイツ語技能検定試験）」3級合格レベルを目指します。 詳細（授業の進め方,評価方法,辞書の扱い等）については,初回授業時に説明します。	（第１週） 授業計画,アルファベット,挨拶/動詞の現在人称変化 （第２週） 発音練習,名詞の性（１格）/発音練習,重要動詞（sein/haben/werden） （第３週） 不規則変化動詞/ドイツ語の構文,名詞の複数形 （第４週） ドイツ語の４つの格（4格）/ドイツ語の４つの格（3,2格） （第５週） 冠詞類（定冠詞類）/冠詞類（不定冠詞類） （第６週） 冠詞類（否定冠詞kein）/分離動詞 （第７週） 非分離動詞/人称代名詞 （第８週） 前置詞（3格支配）,前置詞（4格支配）/前置詞（3,4格支配）,前置詞（2格支配）,前置詞と時間の関係 （第9週） 話法の助動詞/wollen,werdenの使い方 （第10週） 動詞の三基本形,過去形（規則動詞の人称変化）/助動詞の過去形,過去形（不規則変化動詞） （第11週） 最重要不規則変化動詞の三基本形 （第12週） 現在完了形（haben支配） （第13週） 現在完了形（sein支配） （第14週） 春学期文法事項の復習

到達目標	ドイツ語の初級文法を中心に、基礎的な能力を習得し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	詳しくは初回授業時に指示しますが，授業以外の学修，特に復習には積極的に取り組んでください。
テキスト	矢羽々(他)『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning(Hueber) 2009
参考文献	特になし
評価方法	小テストを含む平常点(20%)と学期末統一試験の結果(80%)によって評価

09年度以降	基礎ドイツ語Ⅱ（未修）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
＜未修クラス（２～７組）＞ 春（＝基礎ドイツ語Ⅰ）と秋（＝基礎ドイツ語Ⅱ）の2学期間で,ドイツ語の基本（基本文法＝仕組み,基本語彙,基本表現など）をひと通り修得します。 この授業で身につけるべき学習内容は,これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかり行い,継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めてください。 具体的な目標としては,1年間の勉強で「独検（ドイツ語技能検定試験）」3級合格レベルを目指します。	（第１週） 授業計画,三基本形の復習/ドイツ語の構文 （第２週） 「基礎ドイツ語Ⅰ復習・三基本形統一テスト」実施/従属の接続詞 （第３週） 不規則変化する動詞/命令の文 （第４週） 格の考え方/再帰の表現 （第５週） 前置詞（zu不定詞）/前置詞（zu不定詞）の様々な用法 （第６週） 時制/接続法（お願いの表現） （第７週） 否定の仕方/指示代名詞 （第８週） 接続詞と語順/関係代名詞 （第９週） 形容詞の語尾(強変化)/比較 （第10週） 形容詞の語尾（弱変化）/最上級 （第11週） 受動の基本/受動の様々な時制 （第12週） 形容詞の語尾（混合変化）/接続法第2式の基本 （第13週） 接続法第2式（非現実話法）/接続法第2式の時制とさまざまな用法 （第14週） 秋学期の文法事項の復習

到達目標	ドイツ語の初級文法を中心に、基礎的な能力を習得し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	詳しくは初回授業時に指示しますが，授業以外の学修，特に復習には積極的に取り組んでください。
テキスト	矢羽々（他）『Schritte international 1+2　日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning(Hueber) 2009
参考文献	特になし
評価方法	小テストを含む平常点(20%),夏休み明けに実施する「基礎ドイツ語Ⅰ復習・三基本形統一テスト」(10%)、学期末統一試験(70%)の結果によって評価

09 年度以降	応用ドイツ語 I （未修）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
＜目的＞「基礎ドイツ語 I +II」で習得したドイツ語の基本的能力をさらに中級レベルへステップアップさせます。具体的には「応用ドイツ語 I + II」を終えた時点でGoethe-Zertifikat B1または独検2級合格レベルに到達できることを目標とします。 ＜概要＞ドイツ語圏の社会や文化をテーマとしたドイツ語のテクストを読みながら、文法・語法・表現などを総合的かつ応用的に習得していきます。適宜小テストを行い、内容の理解度、学んだことの定着度を確認します。 ＜注意事項＞効率的に学習を進めるため、必ず予習をしてきてください。指示がない限り、授業中に辞書で調べることは禁止です。出席状況は、学期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）に関係します。休めばそれだけ内容もわからなくなってしまいますし、生活習慣や学習のリズムをつくるためにも、必ず毎回出席してください。＊1 週に2 回の授業があります。進度はクラスによって異なることがあります。	第1 週　授業の概要説明 第2 週　第1 課　Der Wolf kehrt zurück 第3 週　第1 課　同：まとめと小テスト 第4 週　第2 課　Insektenstervben in Deutschland 第5 週　第2 課　同：まとめと小テスト 第6 週　第3 課　Der Dreiüigjährige Krieg 第7 週　第3 課　同：まとめと小テスト 第8 週　第4 課　Karl Marx zum 200. Geburtstag 第9 週　第4 課　同：まとめと小テスト 第10週　第5 課　150 Jahre Reclam 第11週　第5 課　同：まとめと小テスト 第12週　第6 課　Die Augsburger Puppenkiste 第13週　第6 課　同：まとめと小テスト 第14週　まとめ

到達目標	ドイツ語の中級文法や読解を中心に、応用的な能力を習得し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定されたテクストを精読し、練習問題も解いておいてください。 また、授業で学習した文法・語法・表現などが定着するよう、しっかり復習しておいてください。
テキスト	Raab／石井『Neuigkeiten aus Deutschland 2017/2018 時事ドイツ語 2019 年度版』（朝日出版社）2019 年。 同学社編集部編『ドイツ語ワークブック　文法＋問題集』（同学社）2017 年。
参考文献	適宜指示します。
評価方法	定期試験 80%、小テスト 20% ＊定期試験は全クラス共通の統一試験で、学期中の規定欠席回数を超えると受験できません。

09 年度以降	応用ドイツ語 II （未修）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
＜目的＞「基礎ドイツ語 I +II」で習得したドイツ語の基本的能力をさらに中級レベルへステップアップさせます。具体的には「応用ドイツ語 I + II」を終えた時点でGoethe-Zertifikat B1または独検2級合格レベルに到達できることを目標とします。 ＜概要＞ドイツ語圏の社会や文化をテーマとしたドイツ語のテクストを読みながら、文法・語法・表現などを総合的かつ応用的に習得していきます。適宜小テストを行い、内容の理解度、学んだことの定着度を確認します。 ＜注意事項＞効率的に学習を進めるため、必ず予習をしてきてください。指示がない限り、授業中に辞書で調べることは禁止です。出席状況は、学期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）に関係します。休めばそれだけ内容もわからなくなってしまいますし、生活習慣や学習のリズムをつくるためにも、必ず毎回出席してください。＊1 週に2 回の授業があります。進度はクラスによって異なることがあります。	第1 週　授業の概要説明 第2 週　第7 課　Echo geht an Gangsta-Rapper 第3 週　第7 課　同：まとめと小テスト 第4 週　第8 課　Sehnsucht nach dem Mittelalter 第5 週　第8 課　同：まとめと小テスト 第6 週　第9 課　Pflegenotstand in Deutschland 第7 週　第9 課　同：まとめと小テスト 第8 週　第10課　Fußballweltmeisterschaft 2018 第9 週　第10課　同：まとめと小テスト 第10週　第11課　Japan und die EU 第11週　第11課　同：まとめと小テスト 第12週　第12課　Die Deutschen und die Börse 第13週　第12課　同：まとめと小テスト 第14週　まとめ

到達目標	ドイツ語の中級文法や読解を中心に、応用的な能力を習得し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	扱うテクストは、初回の授業で指示します。事前に指定されたテクストを精読し、練習問題も解いておいてください。 また、授業で学習した文法・語法・表現などが定着するよう、しっかり復習しておいてください。
テキスト	Raab／石井『Neuigkeiten aus Deutschland 2017/2018 時事ドイツ語 2019 年度版』（朝日出版社）2019 年。 同学社編集部編『ドイツ語ワークブック　文法＋問題集』（同学社）2017 年
参考文献	適宜指示します。
評価方法	定期試験 80%、小テスト 20% ＊定期試験は全クラス共通の統一試験で、学期中の規定欠席回数を超えると受験できません。

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	S．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs lesen wir deutsche Witze, und beantworten die Textfragen dazu. Wir machen Partnergespräche zu Themen, die in den Witzen vorkommen. Lachend kann man eine Sprache gut lernen! Die Texte sind kurz, die Fragen klug gestellt. ※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 （但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可）	1 Der Nichtraucher 2 Warum die Männer angeln 3 Schlechtes Gedächtnis 4 Der Angler 5 Zwei Regenschirme, bitte! 6 Geld aus Nylon 7 Der Elefant und das Auto 8 Der Student und Napoleons Krankheit 9 Das Fahrrad auf dem Plakat hatte eine Lampe 10 Der hilfreiche Rat des Arztes 11 Drei Männer auf dem Weg zur Sonne 12 Das verschluckte Pferd 13 Er kommt bestimmt wieder 14 Zusammenfassung, schriftliche und mündliche Tests, selber Witze schreiben

到達目標	様々な種類の中級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。
事前・事後学修の内容	3mal im Semester schreiben Sie zu Hause einen Aufsatz mit 200 Wörtern, oder Sie halten im Unterricht ein Referat.
テキスト	Wir benutzen NICHT SO TIERISCH ERNST,von Schwarz/Oguri, Daisan-Shobo-Verlag.
参考文献	特になし
評価方法	Es gibt Punkte für die schriftlichen Hausaufgaben und die Tests, die Note wird geteilt. Z.B. 2 Hausaufgaben+ 2 Tests = 4 Noten：4 = die Gesamtnote.

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	S．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs lesen wir deutsche Witze, und beantworten die Textfragen dazu. Wir machen Partnergespräche zu Themen, die in den Witzen vorkommen. Lachend kann man eine Sprache gut lernen! Die Texte sind kurz, die Fragen klug gestellt. ※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 （但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可）	1 Der zweite Blinddarm 2 Der dankbare Taschendieb 3 Das verlorene Geld und die Arbeiter 4 Die japanischen Schriftzeichen auf dem Pullover 5 Der kluge Lehrer 6 Das Krokodil unter dem Bett 7 Der Marxist im Himmel 8 Das sprechende Pferd 9 Der Kleptomane 10 Der gekochte Papagei 11 Das Mundtuch am Hals 12 Das verschluckte Pferd 13 Das Geheimnis einer glücklichen Ehe 14 Zusammenfassung, schriftliche und mündliche Tests, selber Witze schreiben

到達目標	様々な種類の中級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。
事前・事後学修の内容	3mal im Semester schreiben Sie zu Hause einen Aufsatz mit 200 Woertern, oder Sie halten im Unterricht ein Referat.
テキスト	Wir benutzen NICHT SO TIERISCH ERNST,von Schwarz/Oguri, Daisan-Shobo-Verlag.
参考文献	特になし
評価方法	Es gibt Punkte für die schriftlichen Hausaufgaben und die Tests, die Note wird geteilt. Z.B. 2 Hausaufgaben+ 2 Tests=4 Noten: 4= die Gesamtnote.

09 年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	H．W．ラーデケ

講義目的、講義概要	授業計画
Das Ziel des Kurses ist die **Verbesserung des schriftlichen Ausdrucks etwa auf A2-Niveau**. Die Studierenden sollen sich in diesem Semester vor allem darin üben, **grammatisch korrektes Deutsch** zu schreiben. Dazu besteht liegt der Schwerpunkt dieses Kurses auf der **Wiederholung und Festigung grundlegender grammatischer Strukturen bei den verschiedenen Satzteilen und Wortarten**, denn ohne deren Beherrschung ist es kaum möglich, sich verständlich und treffend schriftlich auszudrücken. Der konkrete Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz und der Lernfähigkeit der Kursteilnehmer. Er wird während des Kurses endgültig festgelegt bzw. laufend aktualisiert. Die Liste rechts ist also als vorläufig zu betrachten. Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden. ※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 （但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可）	1. Einstieg, Levelcheck, Präsentation des Programms, Beispielübung 2. Possessivpronomen, Indefinitpronomen (a: S.29-31) 3. Adjektivdeklination mit Artikel (a: S.34-37) 4. Adj.dekl. ohne Artikel, Steigerung und Vergleich. (a: S.38-41) 5. Trennbare und nicht trennbare Verben + Vergangenheit: Perfekt I (a: S.48-51) 6. Vergangenheit: Perfekt II+III (a: S.52-55) 7. Test 1 + Modalverb “sollen”. 8. Vergangenheit: Präteritum und Plusquamperfekt (a: S.56-59) 9. Passiv Präsens (a: S.70-73) 10. Die Verben „lassen“ und „werden“ (a: S.74-77) 11. Konjunktiv II (a: S.78-81) 12. Verben mit Ergänzung: Nominativ, Dativ, Akkusativ (a: S.84-87) 13. Test 2 + Verben mit Ergänzung: feste Präpositionen (a: S.90/91) 14. Präpositionen (a: S.96-101)

到達目標	手紙やＥメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、中級のドイツ語で的確に表現できるようにする。
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben in Art und Umfang variabel, abhängig von den jeweiligen Kursinhalten.
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.
参考文献	a: Gottstein-Schramm B., Kalender S, Specht F., Schritte Übungsgrammatik A1-B1
評価方法	50%: Aktive Mitarbeit während des Kurses. 50%: Mindestens zwei schriftliche Tests.

09 年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	H．W．ラーデケ

講義目的、講義概要	授業計画
In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) ist das Ziel dieses Kurses **der weitere Ausbau des schriftlichen Ausdrucks etwa auf A2-Niveasu**. Während im Sommersemester einzelne Satzteile oder Wortarten im Zentrum standen, beschäftigen wir uns in diesem Semester mit dem **Satz als Ganzem**, das heißt mit den **Gesetzen des Satzbaus**. Dabei versuchen wir. soweit auf diesem Niveau möglich, nicht nur grammatisch korrekte Sätze zu schreiben, sondern auch auf stilistische Elemente eines guten Textes zu achten. Der konkrete Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz und der Lernfähigkeit der Kursteilnehmer. Er wird während des Kurses endgültig festgelegt bzw. laufend aktualisiert. Die Liste rechts ist also als vorläufig zu betrachten. Als Ergänzung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden. ※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 （但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可）	1. Einstieg, Levelcheck, Vorstellung des Programms, Beispielübung 2. Präpositionen (Rest vom SS), Adverbien (a: S.102-107) 3. Negation: Satznegation, Teilnegation. (a: S.114/115, b: S.228-230) 4. Hauptsatz: Verbposition und Satzklammer (a: S.116-119) 5. Fragesätze, Konjunktionen, Verbindungsadverbien (a: S.120-125) 6. Hauptsatz + Nebensatz: dass-Satz, Infinitiv mit zu (a: S.126-129) 7. Test 1 + Temporale Konjunktionen (a: S.130-131) 8. Umgang mit Wiederholungen im Text(Anhand der Testergebnisse) 9. Kausale und finale Konjunktionen (a: S.132-135) 10. Konditionale und zweiteilige Konjunktionen (a: S.136/137, 140/141) 11. Die Position 1 im Hauptsatz (b: S.67-69) 12. Gebrauch von Konnektoren in Haupt- und Nebensatz(b: S.67-69 + verschiedene andere Materialien) 13. Test 2 + Fehler erkennen und korrigieren I (d: S.74) 14. Fehler erkennen und korrigieren II+III (d: S.75/76) und/oder: Besprechung der Testergebnisse

到達目標	手紙やＥメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、中級のドイツ語で的確に表現できるようにする。
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben in Art und Umfang variabel, abhängig von den jeweiligen Kursinhalten.
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.
参考文献	a: siehe oben - b: Häussermann U. et al, Spachkurs Deutsch Bd,3 - c: Kast B., Fertigkeit Schreiben d: Weber T. et al, Schreib doch mal Deutsch
評価方法	50%: Aktive Mitarbeit während des Kurses - 50%: Mindestens zwei schriftliche Tests.

09 年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	Ｊ．シュトライト

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs sprechen wir über aktuelle Themen, die in Absprache mit den Studierenden festgelegt werden. Kleine Gruppen bzw. Paare, die sich je nach Interesse der Teilnehmer formen, werden im Laufe des Kurses immer wieder neu konstituiert Als Grundlage für die Gespräche kommen neben kurzen Artikeln aus Tageszeitungen sowohl erdachte als auch erlebte Situationen in Betracht. Aus diversen Quellen bezogene Inhalte werden immer so umformuliert, dass sie mündlich gut kommunizierbar sind, denn nicht nur das Sprechen, sondern auch das Zuhören spielt mit. ※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 （但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可）	1. Auswahl der Themenkreise für das 1. Semester unter Berücksichtigung der Vorschläge der Kursteilnehmer. 2. Thema 1: Gruppenbildung und Vorarbeit. 3. Thema 1: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 4. Thema 2: Thema 1 Gruppenbildung und Vorarbeit, 5. Thema 2: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 6. Thema 3: Gruppenbildung und Vorarbeit. 7. Thema 3: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 8. Thema 4: Gruppenbildung und Vorarbeit. 9. Thema 4: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 10. Thema 5: Gruppenbildung und Vorarbeit. 11. Thema 5: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 12. Thema 6: Gruppenbildung und Vorarbeit. 13. Thema 6: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 14. Evaluatives Interview im Paar-Format zu allen im Semester behandelten Themen

到達目標	与えられたテーマに関して、中級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。
事前・事後学修の内容	Eigenständige oder gemeinsame Bearbeitung von ausgeteilten Kurzartikeln oder Videoclips. Schriftliche Zusammenfassung der Ergebnisse von Gruppendiskussionen bzw. Vorträgen.
テキスト	Zu Beginn des Unterrichts werden entweder Fotokopien oder andere Vorgaben ausgehändigt.
参考文献	Wechselspiel NEU. Michael Dreke, Wolfgang Lind. Klett, 2013
評価方法	Regelmäßige, aktive Mitarbeit im Unterricht 50%; mündlicher Test am Ende des Semesters 50%.

09 年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	Ｊ．シュトライト

講義目的、講義概要	授業計画
Anknüpfend an die Dialog- bzw. Präsentationsarbeit des Sommersemesters orientiert sich die Themenauswahl stärker an individuellen und Gruppen-Präferenzen. Dabei können auch die Erfahrungen der Studierenden in den Sommerferien, bei Klubaktivitäten und anderen　außerschulischen Betätigungen zur Geltung kommen. Ein aktives Interesse an der Erweiterung des eigenen Wortschatzes im Austausch mit Gesprächspartnern gilt als wichtige Voraussetzung für Erfolg in diesem Kurs. Neben einem bereicherten Wortschatz tragen bei einem Gespräch auch Strategien zum Themenwechsel sowie zum höflichen Beenden desselben zum Gelingen bei. Neuen TeilnehmerInnen soll der Einstieg durch "Musterbeispiele" in Form von Fotokopien oder audio-visuellen Materialien erleichtert werden. ※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 （但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可）	1. Auswahl der Themenkreise für das 2. Semester unter Berücksichtigung der Vorschläge der Kursteilnehmer. 2. Thema 7: Gruppenbildung und Vorarbeit. 3. Thema 7: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 4. Thema 8: Thema 1 Gruppenbildung und Vorarbeit. 5. Thema 8: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 6. Thema 9: Gruppenbildung und Vorarbeit. 7. Thema 9: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 8. Thema 10: Gruppenbildung und Vorarbeit. 9. Thema 10: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 10. Thema 11: Gruppenbildung und Vorarbeit. 11. Thema 11: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 12. Thema 12: Gruppenbildung und Vorarbeit. 13. Thema 12: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 14. Evaluatives Interview im Paar-Format zu allen im Semester behandelten Themen.

到達目標	与えられたテーマに関して、中級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。
事前・事後学修の内容	Eigenständige oder gemeinsame Bearbeitung von ausgeteilten Kurzartikeln oder Videoclips. Schriftliche Zusammenfassung der Ergebnisse von Gruppendiskussionen bzw. Vorträgen.
テキスト	Zu Beginn des Unterrichts werden entweder Fotokopien oder andere Vorgaben ausgehändigt.
参考文献	Wechselspiel NEU. Michael Dreke, Wolfgang Lind. Klett, 2013
評価方法	Regelmäßige, aktive Mitarbeit im Unterricht 50%; mündlicher Test am Ende des Semesters 50%.

09 年度以降	中級ドイツ語リスニング（CAL）a	担当者	H．W．ラーデケ

講義目的、講義概要	授業計画
Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des Hörverstehens anhand praktischer Beispiele. Dabei verwenden wir Hörtexte aus typischen Situationen, die im täglichen Leben eine Rolle spielen. Dazu gehört auch ein Hörspiel aus dem Alltagsleben. Die Studierenden sollen lernen, diese Hörtexte zu verstehen, sowie damit verbundene Aufgaben lösen. Dadurch werden sie in die Lage versetzt, sich nach und nach in einem deutschen Sprachumfeld besser zu orientieren. Inhalt und Schwierigkeitsgrad der Übungen entspricht etwa der Niveaustufe A2-B1 des europäischen Referenzrahmens und orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Kurzfristige Änderungen am Program können deshalb vorkommen. Zur Unterstützung des Hörverstehens können auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Lesen einbezogen werden. ※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 （但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可）	1. Einstieg, Levelcheck, Hörspiel Folge 1 (c: S.15) 2. Ausbildung (a: S.64-73), Hörspiel Folge 2 (c: S.16-17) 3. Arbeit (a: S.74-84), Hörspiel Folge 3 (c: S.18-19) 4. Verkehr (a:S.84-93), Hörspiel Folge 4 (c: S.20-21) 5. Urlaub und Reisen (a: S.94-103), Hörspiel Folge 5 (c: S.22-23) 6. Dokus, Wetter, Verkehr (a:S.104-114), Hsp. Folge 6 (c: S.24-25) 7. Test 1 , Hörspiel Folge 7 (c: S.26-27) 8. Gesundheit, Wegbeschreibung, Feiern, Schule-Beruf (b: S.17-21), Hörspiel Folge 8 (c: S.28-29) 9. Einkaufen, Reisen, Personen, Freizeit (b: S.22-26), Hörspiel Folge 9 (c: S.30-31) 10. Geschichte, Tourismus, Politik (b: S.27-30), Hörspiel Folge 10 (c: S.32-33) 11. Reisen, Politik (b: S.31-33), Hörspiel Folge 11 (c: S.34-35) 12. Geschichte, Kultur, Ausbildung (b: S.34-37), Hörspiel Folge 12 (c: S.36-37) 13. Test 2, Hörspiel Folge 13 (c: S.38-39) 14. Alltag, Familie, Freizeit (b: S.38-40), Hörsp. Folge 14 (c: S.40-41)

到達目標	会話や読み上げられた中級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben in Art und Umfang variabel, abhängig von den jeweiligen Kursinhalten.
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.
参考文献	a: Billina A., Hören und Sprechen A2 - b: Näfken A., Hörmanager - c: Raths A., Keine Panik
評価方法	50% Aktive Mitarbeit während des Kurses - 50% mindestens zwei schriftliche Tests zum Hörverstehen.

09 年度以降	中級ドイツ語リスニング（CAL）b	担当者	H．W．ラーデケ

講義目的、講義概要	授業計画
In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) ist der Schwerpunkt dieses Kurses der weitere Ausbau des Hörverstehens. Je nach Bedarf werden noch unbekannte Textsorten behandelt bzw. bereits bekannte vertieft. Zum Program gehört auch ein Hörspiel, die Fortsetzung des Hörspiels aus dem Sommersemester. Ziel ist es, das Hörverstehen der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere Hörtexte und sprachliche Situationen bewältigen können. Inhalt und Schwierigkeitsgrad der Übungen entspricht etwa der Niveaustufe B1 des europäischen Referenzrahmens und orientiert sich an den erreichten Zielen im Sommersemester bzw. der sprachlichen Kompetenz neu hinzugekommener Studierender. Kurzfristige Änderungen am Programm können deshalb vorkommen. Zur Unterstützung des Hörverstehens können auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Lesen einbezogen werden. ※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 （但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可）	1. Einstieg, Levelcheck, Hörspiel Folge 15 (b: S.42-44) 2. Alltag, Sport, Reisen (a: S.41-43), Hörspiel Folge 1 (d: S.14-15) 3. Tagesablauf, Wetter, Gesundheit, Charakter (a: S.44-49), Hörspiel Folge 2 (d: S.16-18) 4. Gesellschaft, Ausbildung (a: S.50-53), Hsp. Folge 3 (d: S.19-21) 5. Telefon, Werbung, Ausgehen (a: S.54-57), Hsp. Folge 4 (d: S.22-24) 6. Gesellschaft, Schule, Außenseiter (a: S.58-61), Hörspiel Folge 5 (25-28) 7. Test 1, Hörspiel Folge 6 (d: S.29-31) 8. Verabredungen, Beziehungsprobleme (c: S.6-13),Hörspiel Folge 7 (d: S.33-36) 9. Guter Rat, Erfülltes Leben (c: S.14-23), Hörspiel Folge 8 (d: S.37-38) 10. Konzerte, Kompost, Nachbarn (c: S.24-31), Hörsp. 9 (d: S.39-42) 11. Alternativ Wohnen (c: S.32-41), Hörspiel Folge 10 (d: S.43-46) 12. Spiel und Sport (c: S.42-53), Hörspiel Folge 11 (d: S.47-50) 13. Test 2, Hörspiele Folg 12 (d: S.51, ohne Text) 14. Fernsehen + Video “Curryhuhn im Park” (c: S.58-69)

到達目標	会話や読み上げられた中級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben in Art und Umfang variabel, abhängig von den jeweiligen Kursinhalten.
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.
参考文献	a: Hörmanager (s.o.) - b: Keine Panik (s.o.) - c: Billina A., Hören und Sprechen B1 - d: Raths A., Ein bisschen Panik
評価方法	50%: Aktive Mitarbeit während des Kurses - 50%: Mindestens zwei schriftliche Tests zum Hörverstehen.

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	R．ヘニング

講義目的、講義概要	授業計画
Ziel Festigung und Ausbau der Lesefertigkeiten auf Niveaustufe A *Themen und Aufgaben* Wir lesen gemeinsam Texte zu Themen aus *Schritte International Neu* I+II; differenziert gestellte Aufgaben steuern das Global- und Detailverstehen; in begleitenden Übungen wie Einsetzübungen (Konnektoren, prädikative Ergänzungen/Angaben) wird das bisher erworbene Vokabular und die Grammatik wiederholt, gefestigt und ausgebaut. *Niveau* A1+ bis A2 *Arbeitsformen* Einführung des Themas im Plenum; Bearbeitung der Texte in Partner- und Einzelarbeit. ※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 （但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可）	1. Einführung 2. Texte zu *Schritte international I* Lektion 2: Wortschatz, Fragen zum Inhalt 3. Texte zu L.3: Wortschatz, Fragen zum Inhalt 4. Texte zu L.4: Wortschatz, Fragen zum Inhalt 5. *Test I* / Texte zu L.5: Wortschatz 6. Texte zu L.5: Aufgaben zu Inhalt und Morphosyntax 7. Texte zu L.6: Wortschatz, Aufgaben zum Inhalt 8. Texte zu L.6: Aufgaben zu Inhalt und Morphosyntax 9. *Test II* / Texte zu L.7: Wortschatz 10. Texte zu L.7: Aufgaben zu Inhalt und Morphosyntax 11. Texte zu *Schritte international II* L.8: Wortschatz, Fragen zum Inhalt 12. Texte zu L.8: Fragen zu Inhalt und Morphosyntax 13. Texte zu L.8: Fragen zum Inhalt, Morphosyntax und Textsemantik 14. *Test III* und Zusammenfassung des behandelten Stoffes

到達目標	様々な種類の中級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回予習・復習すること
テキスト	Lehrmaterialien vom Kursleiter (Kopien)　授業の始めに配布する独自の教材のプリント
参考文献	独和辞典
評価方法	a) schriftliche Tests zu den Texten aus dem Unterricht 授業中に行われる小テスト80%、b) Beteiligung am Unterricht 授業に臨む姿勢 20%（regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt）

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	R．ヘニング

講義目的、講義概要	授業計画
Ziel Festigung und Ausbau der Lesefertigkeiten auf Niveaustufe A *Themen und Aufgaben* Wir lesen gemeinsam Texte zu Themen aus Schritte International Neu I+II; differenziert gestellte Aufgaben steuern das Global- und Detailverstehen; in begleitenden Übungen wie Einsetzübungen (Konnektoren, prädikative Ergänzungen/Angaben) wird das bisher erworbene Vokabular und die Grammatik wiederholt, gefestigt und ausgebaut. *Niveau* A1+ bis A2. *Arbeitsformen* Einführung des Themas im Plenum; Bearbeitung der Texte in Partner- und Einzelarbeit. ※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 （但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可）	1. Einführung / Texte zu *Schritte international II* Lektion 9: Wortschatz, Aufgaben zum Inhalt 2. Texte zu L.9: Aufg. zu Inhalt, Morphosyntax und Textsemantik 3. Texte zu L.10: Wortschatz, Aufg. zum Inhalt 4. Texte zu L.10: Aufg. zu Morphosyntax und Textsemantik 5. *Test I* / Texte zu L.11: Wortschatz, Fragen zum Inhalt 6. Texte zu L.11: Aufg. zu Inhalt, Morphosyntax und Textsemantik 7. Texte zu L.12: Wortschatz, Aufgaben zum Inhalt 8. Texte zu L.12: Aufg. zu Morphosyntax und Textsemantik 9. *Test II* / Texte zu L.13: Wortschatz, Aufgaben zum Inhalt 10. Texte zu L.13: Aufgaben zu Inhalt, Morphosyntax und Textsemantik 11. Texte zu L.14: Wortschatz, Aufgaben zum Inhalt 12. Texte zu L.14: Aufgaben zu Inhalt und Morphosyntax 13. Texte zu L.14: Aufgaben zu Inhalt, Morphosyntax und Textsemantik 14. *Test III* und Zusammenfassung des behandelten Stoffes

到達目標	様々な種類の中級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回予習・復習すること
テキスト	Lehrmaterialien vom Kursleiter (Kopien)　授業の始めに配布する独自の教材のプリント
参考文献	独和辞典
評価方法	a) schriftliche Tests zu den Texten aus dem Unterricht 授業中に行われる小テスト 80%、b) Beteiligung am Unterricht 授業に臨む姿勢 20%（regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt）

09 年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	D．オルランド

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs werden wir das Schreiben verschiedener Texte und Textsorten lernen: Kommentare, Lebensläufe und Bewerbungsschreiben werden im Mittelpunkt unserer Unterrichtseinheiten stehen. Wir werden vor und nach jeder Unterrichtseinheit auch einen Einblick in die Grammatik haben. Der Unterrichtsinhalt kann sich je nach Fertigkeiten der Studierenden ändern. ※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 （但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可）	1. Einführung und Themenauswahl 2. Einblick in die Grammatik / Redewendungen 3. Lebenslauf (Aufbau eines Lebenslaufs) 4. Lebenslauf (Beschreibung eigener Fähigkeiten) 5. Einblick in die Grammatik / Redewendungen 6. Kommentar schreiben (Aufbau und Redewendungen) 7. Kommentar schreiben (Thema nach eigener Auswahl) 8. Einblick in die Grammatik (Zeitformen) 9. Zitiertechniken 10. Über die eigenen Fertigkeiten schreiben 11. Einblick in die Grammatik (Präpositionen) 12. Zusammenfassung schreiben (Thema: Kindheit) 13. Zusammenfassung schreiben (Thema: Lied) 14. Zusammenfassung schreiben (Thema: Roman)

到達目標	手紙やＥメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、中級のドイツ語で的確に表現できるようにする。
事前・事後学修の内容	Das Verfassen der Texte, die Wiederholung der wichtigsten Grammatikpunkte sowie das Erstellen von Vokabellisten erfordert eine Vor-und Nachbereitungszeit von bis zu 4 Stunden.
テキスト	Artikel werden ausgehändigt.
参考文献	特になし。
評価方法	Vorkenntnisse, Anwesenheit, Interesse am Thema und an Partnerarbeit werden vorausgesetzt. Bewertungskriterien: Hausaufgaben 40%, Tests 40%, Mitarbeit 20%.

09 年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	D．オルランド

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs geht es 1. um das Verfassen von kleineren zusammenhängenden Geschichten und 2. um die Wiedergabe der eigenen Meinung zu bestimmten Pro und Kontra Themen. Wir werden in Gruppen verschiedene Texte erarbeiten, die jeweils unterschiedliche Themengebiete und Grammatikstrukturen beinhalten. Auch werden wir uns mit Redewendungen beschäftigen, die wichtig sind, überzeugend die eigene Meinung darzulegen. Der Unterrichtsinhalt kann sich je nach Fertigkeiten der Studierenden ändern. ※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 （但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可）	1. Einführung und Themenauswahl 2. Thema: fiktive Geschichte, Kapitel 1 (Einführung) 3. Thema: fiktive Geschichte (Mittelteil) 4. Thema: fiktive Geschichte (Ende) 5. Einblick in die Grammatik (Zeitformen) 6. Pro- und Kontra Thema (Schuluniformen) 7. Pro- und Kontra Thema (Handys im Unterricht) 8. Pro- und Kontra Thema (Kleidungsvorschrift) 9. Pro- und Kontra Thema (Tokyo 2020) 10. Einblick in die Grammatik (Präpositionen) 11. Thema nach Auswahl (Einführung) 12. Thema nach Auswahl (Mittelteil) 13. Thema nach Auswahl (Ende) 14. Zusammenfassung

到達目標	手紙やＥメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、中級のドイツ語で的確に表現できるようにする。
事前・事後学修の内容	Das Verfassen der Texte, die Wiederholung der wichtigsten Grammatikpunkte sowie das Erstellen von Vokabellisten erfordert eine Vor-und Nachbereitungszeit von bis zu 4 Stunden.
テキスト	Artikel werden ausgehändigt.
参考文献	特になし。
評価方法	Vorkenntnisse, Anwesenheit Interesse am Thema und an Partnerarbeit werden vorausgesetzt. Bewertungskriterien: Hausaufgaben 40%, Tests 40%, Mitarbeit 20%.

09 年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
Wir beginnen einfach, mit langsamen Fortschritt. Aktive und stetige Mitarbeit ist erforderlich für einen erfolgreichen Abschluss. Die Grundlage für Kommunikation und Tests ist das Lehrbuch. ※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 （但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可）	1. Allgemeine Einleitung 2. Wiederholungen aller Art zu Deutschland und Deutsch 3. Lektion 1a: Bahnfahren und Uhrzeit – Zahlen 4. Lektion 1b: Reisen in Deutschalnd – Sprechen und Verstehen. Modalverben 5. Lektion 2a: Im Restaurant Essen und Trinken – Bestellen im Restaurant 6. Lektion 2b: Hotelsuche – Sich informieren 7. Kleiner Test und Video 8. Lektion 3a: Nach dem Weg fragen – Nomen 9. Lektion 3b: In der Stadt Berlin – Orientierung 10. Lektion 4a: Das Wetter in Europa – Komparativ und Superlativ 11. Lektion 4b: Urlaub – Perfektformen 12. Lektion 5a: Der Mensch – gesund oder krank? Vergangenheit 13. Lektion 5b: Die Pflege – Reflexive Verben 14. Kleiner Test und Video

到達目標	与えられたテーマに関して、中級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。
事前・事後学修の内容	Wiederholung des besprochenen Stoffes: 30 Minuten Vorbereitung der Aufgaben: 30 Minuten
テキスト	Szenen 2 (ISBN978-4-3841-30836)　Sanshusha
参考文献	文法から学べるドイツ語ドリル（杵淵・トロール）ナツメ社 ISBN978-4-8163-4420-0
評価方法	Kleine Tests (70%) Unterrichtsleistung (30%)

09 年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
Wir beginnen einfach, mit langsamen Fortschritt. Aktive und stetige Mitarbeit ist erforderlich für einen erfolgreichen Abschluss. Die Grundlage für Kommunikation und Tests ist das Lehrbuch. ※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 （但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可）	1. Einleitung 2. Wiederholungen aus dem ersten Semester 3. Lektion 6a: Einladung und Geschenke – bestimmte Artikel und Pronomen 4. Lektion 6b: Feiern in Deutschland – die Nomen 5. Lektion 7: Kleider und Farben – Adjektivendungen 6. Kleiner Test und Video 7. Lektion 8: Umwelt und Umweltschutz– Imperativ 8. Lektion 9a: Verbote und Gebote – Modalverben 9. Lektion 9b: Reisen mit der Familie – Konjunktiv II 10. Lektion 10a: Schule und Bildung – Vergangenheitsformen 11. Lektion 10b: Berufe und Lebenslauf – Genitivformen 12. Kleiner Test und Video 13. Lektion 11: Feste im Jahr – Relativsatz 14. Lektion 12: Weihnachten und Ostern – Haupt- und Nebensatz

到達目標	与えられたテーマに関して、中級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。
事前・事後学修の内容	Wiederholung des besprochenen Stoffes: 30 Minuten Vorbereitung der Aufgaben: 30 Minuten
テキスト	Lehrbuch wie oben: Szenen 2 (ISBN978-4-3841-30836)　Sanshusha
参考文献	文法から学べるドイツ語ドリル（杵淵・トロール）ナツメ社 ISBN978-4-8163-4420-0
評価方法	Kleine Tests (70%) Unterrichtsleistung (30%)

09 年度以降	中級ドイツ語リスニング（CAL）a	担当者	N．カネマツ

講義目的、講義概要	授業計画
Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des Hörverstehens anhand von Hörtexten aus authentischen Situationen. Auch Hörbücher sowie kurze Videos werden eingesetzt. Dabei wird sowohl das globale, selektive wie auch das detaillierte Hörverstehen geschult und entsprechende Lernstrategien vermittelt. Die Studierenden lernen Hörtexte aus unterschiedlichen Kommunikationssituationen zu verstehen sowie damit verbundene Aufgaben zu lösen. Dadurch werden sie in die Lage versetzt, sich nach und nach in einem deutschen Sprachumfeld besser zu orientieren. Die Wünsche der Studierenden werden, soweit möglich, berücksichtigt. ※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 （但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可）	1. Kennenlernen, Erklärung zum Kursablauf 2. Hobbys - Hörtext 3. Freunde - Hörtext 4. Familie - Hörtext 5. Freizeit - Hörtext (Test) 6. Wohnen in Deutschland- Video 7. Schule in Deutschland- Video 8. Präsentation zu Video: Vorbereitung 9. Präsentation zu Video: gemeinsame Korrektur 10. Präsentation: Durchführung & Diskussion 11. Hörbuch „Blinder Passagier“: Einführung 12. Hörbuch „Blinder Passagier“: Kapitel 1 13. Hörbuch „Blinder Passagier“: Kapitel 2-3 (Test) 14. Hörbuch „Blinder Passagier“: Transferaufgabe

到達目標	会話や読み上げられた中級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Wiederholung vom neuen Wortschatz/neuen Redewendungen; Vorbereitung für den Themeneinstieg der nächsten Stunde durch Mindmaps, Internetrecherche etc.; Bearbeitung von Übungsblättern
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.
参考文献	Es wird empfohlen immer ein Wörterbuch zum Unterricht mitzubringen.
評価方法	Tests (60%), Präsentation (30%), aktive Teilnahme und Leistung im Unterricht, z.B. Übungsblätter, Hausaufgaben etc. (10%)

09 年度以降	中級ドイツ語リスニング（CAL）b	担当者	N．カネマツ

講義目的、講義概要	授業計画
In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester soll das Hörverstehen in diesem Kurs noch weiter ausgebaut werden. Ziel ist es, das Hörverstehen der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere Hörtexte und sprachliche Situationen bewältigen können. Auch Hörbücher sowie kurze Videos werden eingesetzt. Dabei wird sowohl das globale, selektive wie auch das detaillierte Hörverstehen geschult und Lernstrategien werden vermittelt. Die Wünsche der Studierenden werden, soweit möglich, berücksichtigt. ※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 （但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可）	1. Kennenlernen und Erklärung zum Kursablauf 2. Reisen - Hörtext 3. Tourismus - Hörtext 4. Auslandsstudium - Hörtext 5. Erinnerungen - Hörtext (Test) 6. Deutsche und Geld - Video 7. Deutsche und Müll - Video 8. Präsentation zu Video: Vorbereitung 9. Präsentation zu Video: gemeinsame Korrektur 10. Präsentation: Durchführung & Diskussion 11. Hörbuch „Viktor Frankenstein“: Einführung 12. Hörbuch „Viktor Frankenstein“: Kapitel 2-3 13. Hörbuch „Viktor Frankenstein“: Kapitel 4 (Test) 14. Hörbuch „Viktor Frankenstein“: Transferaufgabe

到達目標	会話や読み上げられた中級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Wiederholung vom neuen Wortschatz/neuen Redewendungen; Vorbereitung für den Themeneinstieg der nächsten Stunde durch Mindmaps, Internetrecherche etc.; Bearbeitung von Übungsblättern
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.
参考文献	Es wird empfohlen immer ein Wörterbuch zum Unterricht mitzubringen.
評価方法	Tests (60%), Präsentation (30%), aktive Teilnahme und Leistung im Unterricht, z.B. Übungsblätter, Hausaufgaben etc. (10%)

09 年度以降	総合ドイツ語Ⅴ（既修）	担当者	K．ニーヴァルダ

講義目的、講義概要	授業計画
Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in je 2 Unterrichtseinheiten pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.	1. Lektion 9 (Überzeugt?, Teil A, Teil B) 2. Lektion 9 (Überzeugt?, Teil C, Grammatik) 3. Lektion 9 (Überzeugt?, Teil D, Teil E, Teil F) 4. Lektion 10 (Angepasst, Teil A, Teil B) 5. Lektion 10 (Angepasst, Teil C, Grammatik) 6. Lektion 10 (Angepasst, Teil D, Teil E, Teil F), /Test 7. Lektion 11 (Versäumt, Teil A, Teil B) 8. Lektion 11 (Versäumt, Teil C, Grammatik) 9. Lektion 11 (Versäumt, Teil D, Teil E, Teil F), /Test 10. Lektion 12 (Geschafft, Teil A, Teil B) 11. Lektion 12 (Geschafft, Teil C, Grammatik) 12. Lektion 12 (Geschafft, Teil D, Teil E, Teil F) 13. Wiederholung der Lektionen 9-12, /Test 14. Wiederholung der Grammatik, Mündlicher Test

到達目標	ドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の４技能を２年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	Ziel B2 Band 2 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) ＞ 初回授業時までに購入
参考文献	特になし
評価方法	授業中に行う筆記試験 65%、学期末の口頭試験 25%、平常点 10%

09 年度以降	総合ドイツ語Ⅵ（既修）	担当者	K．ニーヴァルダ

講義目的、講義概要	授業計画
Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in je 2 Unterrichtseinheiten pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.	1. Lektion 13 (Vergessen, Teil A, Teil B) 2. Lektion 13 (Vergessen, Teil C, Grammatik) 3. Lektion 13 (Vergessen, Teil D, Teil E, Teil F) 4. Lektion 14 (Nachgemacht?, Teil A, Teil B) 5. Lektion 14 (Nachgemacht?, Teil C, Grammatik) 6. Lektion 14 (Nachgemacht?, Teil D, Teil E, Teil F),/Test 7. Lektion 15 (Entdeckt, Teil A, Teil B) 8. Lektion 15 (Entdeckt, Teil C, Grammatik) 9. Lektion 15 (Entdeckt, Teil D, Teil E, Teil F), /Test 10. Lektion 16 (Entspannt, Teil A, B) 11. Lektion 16 (Entspannt, Teil C, Grammatik) 12. Lektion 16 (Entspannt, Teil D, Teil E, Teil F) 13. Wiederholung der Lektionen 13-16, /Test 14. Wiederholung der Grammatik, Mündlicher Test

到達目標	ドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の４技能を２年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	Ziel B2 Band 2 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) ＞ 初回授業時までに購入
参考文献	特になし
評価方法	授業中に行う筆記試験 65%、学期末の口頭試験 25%、平常点 10%

09 年度以降	総合ドイツ語Ⅶ（スーパー）	担当者	A．ヴェルナー

講義目的、講義概要	授業計画
Dieser Kurs richtet sich an Studierende auf dem Sprachniveau von etwa C1 (Gemeinsamer Europäischer Referenzrahmen für Sprachen). In diesem Kurs haben Sie Gelegenheit, ohne Lehrbuch interessante aktuelle Themen zu bearbeiten. Grundsätzlich werden alle vier Fertigkeiten trainiert, ein besonderer Schwerpunkt soll aber auf das Schreiben (in Beruf und Wissenschaft) sowie aufs Präsentieren und Diskutieren gelegt werden. Ziel des Kurses ist es, Ihnen individuell angemessene Unterstützung und Förderung beim Aufbau auf Ihr hohes Sprachniveau zu bieten. Was genau im Unterricht gemacht wird, richtet sich nach Ihren Interessen und Bedürfnissen sowie Ihren jeweiligen Forschungsthemen.	1. Vorstellung des Kurskonzepts / Ihrer Interessen 2. Gesellschaft 3. Politik 4. Wirtschaft 5. Kultur 6. Alltagsleben 7. Familie 8. Firma 9. Berufe 10. Universität 11. Wissenschaft 12. Interessen der Studierenden 13. Forschungsthemen der Studierenden 14. Evaluation, Kursfazit

到達目標	ドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の４技能を３年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	Texte oder Kopien werden verteilt
参考文献	Nichts Bestimmtes
評価方法	Aktive Teilnahme am Unterricht und Beteiligung an gemeinsamen Aufgaben 50%, Präsentation 50%

09 年度以降	総合ドイツ語Ⅷ（スーパー）	担当者	A．ヴェルナー

講義目的、講義概要	授業計画
Dieser Kurs richtet sich an Studierende auf dem Sprachniveau von etwa C1 (Gemeinsamer Europäischer Referenzrahmen für Sprachen). In diesem Kurs haben Sie Gelegenheit, ohne Lehrbuch interessante aktuelle Themen zu bearbeiten. Grundsätzlich werden alle vier Fertigkeiten trainiert, ein besonderer Schwerpunkt soll aber auf das Schreiben (auch für Prüfungen), sowie aufs Präsentieren und Diskutieren gelegt werden. Ziel des Kurses ist es, Ihnen angemessene Unterstützung und Förderung beim Aufbau auf Ihr hohes Sprachniveau zu bieten. Was genau im Unterricht gemacht wird, richtet sich nach Ihren Interessen und Bedürfnissen sowie Ihren jeweiligen Forschungsthemen.	1. Vorstellung des Kurskonzepts / Ihrer Interessen 2. Fragen der Gesellschaft 3. Fragen der Politik 4. Fragen der Wirtschaft 5. Probleme der Kultur 6. Probleme des Alltagslebens 7. Fragen zur Familie 8. Fragen zur Firma 9. Fragen zum Beruf 10. Fragen zur Universität 11. Fragen zur Wissenschaft 12. Erläuterung der Interessen der Studierenden 13. Fragen zu den Forschungsthemen 14. Evaluation, Kursfazit

到達目標	ドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の４技能を３年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	Texte oder Kopien werden verteilt
参考文献	Nichts Bestimmtes
評価方法	Aktive Teilnahme am Unterricht und Beteiligung an gemeinsamen Aufgaben 50%, Präsentation 50%

09 年度以降	総合ドイツ語Ⅴ（標準）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ネイティヴ教員のみの授業（週2コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。Goethe- Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティヴの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。 ＊注意！ 未修クラスの学生用には、Aクラス（総合ドイツ語Ⅳの成績がA以上の学生用）とBクラス（同、B以下の学生用）が開設されます。既修クラスの学生は、必ず「総合ドイツ語Ⅴ」（既修クラス用）を受講してください。詳しくは時間割表を確認してください。	1. Lektion 1 (Glück im Alltag, Teil A, Teil B) 2. Lektion 1 (Glück im Alltag, Teil C, Teil D, Teil E) 3. Lektion 2 (Unterhaltung, Teil A, Teil B) 4. Lektion 2 (Unterhaltung, Teil C, Teil D, Teil E), / Test 5. Lektion 3 (Gesund bleiben, Teil A, Teil B) 6. Lektion 3 (Gesund bleiben, Teil C, Teil D, Teil E) 7. Lektion 4 (Sprachen, Teil A, Teil B) 8. Lektion 4 (Sprachen, Teil C, Teil D, Teil E), / Test 9. Lektion 5 (Eine Arbeit finden, Teil A, Teil B) 10. Lektion 5 (Eine Arbeit finden, Teil C, Teil D, Teil E) 11. Lektion 6 (Dienstleistung, Teil A, Teil B) 12. Lektion 6 (Dienstleistung, Teil C, Teil D, Teil E) 13. Lektion 7 (Rund ums Wohnen, Teil A, Teil B) 14. Lektion 7 (Rund ums Wohnen, Teil C, Teil D, Teil E), / Test

到達目標	ドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の 4 技能を 2 年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	『Schritte international Neu 5 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）＞初回授業時までに購入
参考文献	特になし
評価方法	授業中に行う筆記試験 65%、学期末の口頭試験 25%、平常点 10%

09 年度以降	総合ドイツ語Ⅵ（標準）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ネイティヴ教員のみの授業（週2コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。Goethe- Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティヴの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。 ＊注意！ 未修クラスの学生用には、Aクラス（総合ドイツ語Ⅴの成績がA以上の学生用）とBクラス（同、B以下の学生用）が開設されます。既修クラスの学生は、必ず「総合ドイツ語Ⅵ」（既修クラス用）を必ず受講してください。詳しくは時間割表を確認してください。	1. Lektion 8 (Unter Kollegen, Teil A, Teil B) 2. Lektion 8 (Unter Kollegen, Teil C, Teil D, Teil E) 3. Lektion 9 (Virtuelle Welt, Teil A, Teil B) 4. Lektion 9 (Virtuelle Welt, Teil C, Teil D, Teil E), / Test 5. Lektion 10 (Werbung und Konsum, Teil A, Teil B) 6. Lektion 10 (Werbung und Konsum, Teil C, Teil D, Teil E) 7. Lektion 11 (Miteinander, Teil A, Teil B) 8. Lektion 11 (Miteinander, Teil C, Teil D, Teil E), / Test 9. Lektion 12 (Soziales Engagement, Teil A, Teil B) 10. Lektion 12 (Soziales Engagement, Teil C, Teil D,Teil E) 11. Lektion 13 (Aus Politik und Geschichte, Teil A,Teil B) 12. Lektion 13 (Aus Politik und Geschichte, Teil C,Teil D, Teil E) 13. Lektion 14 (Alte und neue Heimat, Teil A, Teil B) 14. Lektion 14 (Alte und neue Heimat, Teil C, Teil D,Teil E), / Test

到達目標	ドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の 4 技能を 2 年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	『Schritte international Neu 6 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）＞初回授業時までに購入
参考文献	特になし
評価方法	授業中に行う筆記試験 65%、学期末の口頭試験 25%、平常点 10%

09 年度以降	総合ドイツ語Ⅶ（標準）	担当者	Ｔ．カーラー

講義目的、講義概要	授業計画
ネイティヴ教員のみの授業（週2コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティヴの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。 ＊注意！ 「総合ドイツ語Ⅶ」は選択必修（1学期に2単位×週2回＝4単位）となります。 既修クラスの学生は、「総合ドイツ語Ⅶ(Super-Deutsch)」（スーパー）を必ず受講してください。 詳しくは時間割表を確認してください。	1. Lektion 1 (Glückwunsch, Teil A, Teil B) 2. Lektion 1 (Glückwunsch, Teil C, Grammatik) 3. Lektion 1 (Glückwunsch, Teil D, Teil E) 4. Lektion 2 (Viel Spaß, Teil A, Teil B) 5. Lektion 2 (Viel Spaß, Teil C, Grammatik) 6. Lektion 2 (Viel Spaß, Teil D, Teil E), /Test 7. Lektion 3 (Mal was anderes!, Teil A, Teil B) 8. Lektion 3 (Mal was anderes!, Teil C, Grammatik) 9. Lektion 3 (Mal was anderes!, Teil D, Teil E), /Test 10. Lektion 4 (So war's, Teil A, Teil B) 11. Lektion 4 (So war's, Teil C, Grammatik) 12. Lektion 4 (So war's, Teil D, Teil E,) 13. Wiederholung der Lektionen 1-4, /Test 14. Wiederholung der Grammatik, Mündlicher Test

到達目標	ドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の 4 技能を 3 年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	『Ziel B1+ (Kursbuch + Arbeitsbuch) 』 (Hueber) 初回授業時までに購入。（総合ドイツ語Ⅶ,Ⅷでは同一のテキストを 1 年間使用します。販売は春のみです。）
参考文献	特になし
評価方法	授業中に行う筆記試験 65%、学期末の口頭試験 25%、平常点 10%

09 年度以降	総合ドイツ語Ⅷ（標準）	担当者	Ｔ．カーラー

講義目的、講義概要	授業計画
ネイティヴ教員のみの授業（週2コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティヴの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。 ＊注意！ 「総合ドイツ語Ⅷ」は選択必修（1学期に2単位×週2回＝4単位）となります。 既修クラスの学生は、「総合ドイツ語Ⅷ (Super-Deutsch)」（スーパー）を必ず受講してください。 詳しくは時間割表を確認してください。	1. Lektion 5 (Also gut, geht in Ordnung, Teil A, Teil B) 2. Lektion 5 (Also gut, geht in Ordnung, Teil C, Grammatik) 3. Lektion 5 (Also gut, geht in Ordnung, Teil D, Teil E) 4. Lektion 6 (Gefällt mir, Teil A, Teil B) 5. Lektion 6 (Gefällt mir, Teil C, Grammatik) 6. Lektion 6 (Gefällt mir, Teil D, Teil E), /Test 7. Lektion 7 (Das tut gut!, Teil A, Teil B) 8. Lektion 7 (Das tut gut!, Teil C, Grammatik) 9. Lektion 7 (Das tut gut!, Teil D, Teil E), /Test 10. Lektion 8 (Gut, obwohl …, Teil A, Teil B) 11. Lektion 8 (Gut, obwohl …, Teil C, Grammatik) 12. Lektion 8 (Gut, obwohl …, Teil D, Teil E,) 13. Wiederholung der Lektionen 5-8, /Test 14. Wiederholung der Grammatik, Mündlicher Test

到達目標	ドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の 4 技能を 3 年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。
テキスト	『Ziel B1+ (Kursbuch + Arbeitsbuch) 』 (Hueber) （総合ドイツ語Ⅶ,Ⅷでは同一のテキストを 1 年間使用します。販売は春のみです。）
参考文献	特になし
評価方法	授業中に行う筆記試験 65%、学期末の口頭試験 25%、平常点 10%

09 年度以降	上級ドイツ語リーディング a	担当者	D．オルランド

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs werden wir die Sicherheit beim Verstehen schriftlicher Texte (vor allem Zeitungsartikel) fördern. Die Verbesserung der rezeptiven Fähigkeiten erfolgt durch Texte verschiedener Schwierigkeitsstufen, die -je nach Interesse und den individuellen Ansprüchen der Studierenden - sozialpolitische Aspekte behandeln. Auch soll es sprachliche Einheiten geben, bei denen über das Gelesene diskutiert wird.	1. Themenvorstellung 2. Strategien beim Lesen komplexer Texte 3. Aufbau von Zeitungstexten 4. Politik und Zeitgeschehen (Aktualität) 5. Politik und Zeitgeschehen (Migration) 6. Politik und Zeitgeschehen (Wirtschaft) 7. Verschiedenes 8. Gesellschaft und Kultur (Zusammenleben) 9. Gesellschaft und Kultur (Wohnen) 10. Gesellschaft und Kultur (Musik) 11. Gesellschaft und Kultur (Freizeit) 12. Verschiedenes 13. Sport (Fußball) 14. Sport (Baseball)

到達目標	様々な種類の上級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Das Verstehen der Texte, das Lösen der Hausaufgaben sowie das Erstellen von Vokabellisten erfordert eine Vor-und Nachbereitungszeit von ungefähr 4 Stunden.
テキスト	Artikel werden ausgehändigt.
参考文献	特になし。
評価方法	Vorkenntnisse, Interesse am Thema und an Partnerarbeit werden vorausgesetzt. Bewertungskriterien: Hausaufgaben 35%, Tests 35%, Mitarbeit 30%.

09 年度以降	上級ドイツ語リーディング b	担当者	D．オルランド

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs werden wir hauptsächlich literarische Texte von Leonhard Thoma lesen und sie u.a. auch genauer nach textanalytischen Aspekten untersuchen. Dieses Seminar gibt uns auch begleitend zur Förderung des Leseverstehens einen interessanten Einblick in die Eigenheiten der erzählten Figuren. Die Liste der zu behandelnden Autoren kann sich je nach den Fertigkeiten der Studierenden ändern.	1. Einführung. Kommentare lesen 2. Strategien beim Lesen eines Textes 3. Fröhliche Studenten (L. Thoma) 4. Schlaflose Nacht (L. Thoma) 5. Das Mädchen im Zug (L. Thoma) 6. Kurzgeschichte von Christian Kracht (Faserland) 7. Kurzgeschichte von Christian Kracht 8. Kurzgeschichte von Rocko Schamoni 9. Kurzgeschichte von Heinz Strunk 10. Kurzgeschichte von L. Thoma 11. Verschiedenes – Precht 12. Verschiedenes – Spiegel-Artikel 13. Verschiedenes – Zeit-Artikel 14. Verschiedenes – Fokus-Artikel

到達目標	様々な種類の上級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Das Verstehen der Texte, das Lösen der Hausaufgaben sowie das Erstellen von Vokabellisten erfordert eine Vor-und Nachbereitungszeit von ungefähr 4 Stunden
テキスト	Artikel werden ausgehändigt.
参考文献	特になし。
評価方法	Vorkenntnisse, Interesse am Thema und an Partnerarbeit werden vorausgesetzt. Bewertungskriterien: Hausaufgaben 35%, Tests 35%, Mitarbeit 30%.

09 年度以降	上級ドイツ語リーディング a	担当者	R．ヘニング

講義目的、講義概要	授業計画
Ziel Festigung und Ausbau der bisher erworbenen Lesefertigkeiten *Themen und Aufgaben* Im Mittelpunkt stehen gemein- wie fachsprachliche Texte zu diversen Themen aus Kultur, Gesellschaft, Politik; bei der Behandlung der Inhalte soll der Schwerpunkt auf kontrastiven Aspekten liegen. Differenziert gestellte Aufgaben steuern das Global- wie Detailverstehen. Zusätzliche strukturelle Übungen zu morpho-syntaktischen und textsemantischen Aspekten (Anaphorik, Kataphorik, Konnektoren, Kollokationen, prädikativen Ergänzungen und Angaben) wie auch reichhaltiges Bildmaterial und MP4-Dateien sollen das Verständnis der in den Texten vermittelten Inhalte unterstützen. *Niveau* A2 bis C1 (ggf. C2) *Arbeitsformen* Thematische Einführung im Plenum; Bearbeitung der Texte in Partner- und Einzelarbeit	1. Allgemeine Einführung 2. <Kultur> „König Ludwig“: Thematische Vorbereitung, Text 3. „König Ludwig“: Text, Aufgaben z. Inhalt/Syntax 4. <Kultur> „Friedensreich Hundertwasser“: Einführung, Text 5. „Friedensreich Hundertwasser“: Text, Aufg. z. Inhalt/Syntax 6. *Test I* / <Kultur> „Sind die Deutschen Bierweltmeister“? Einführung 7. „Sind die Deutschen Bierweltmeister“? Text, Aufg. z. Inhalt/Syntax/Semantik 8. <Soziologie> Jugendliche und Geld: „Ohne Moss nichts los“: Thematische Einführung 9. Jugendliche und Geld: „Ohne Moss nichts los“:Text, Aufg. z. Inhalt 10. *Test II* / <Soziologie> „Kleider machen Leute“ B1: Thematische Einführung 11. „Kleider machen Leute“ B1: Text, Aufg. z. Inhalt/Syntax 12. „Kleider machen Leute“ B2: Text, Aufg. z. Inhalt 13. „Kleider machen Leute“ B2: Text, Aufg. z. Syntax/Semantik 14. *Test III* und Zusammenfassung des behandelten Stoffes

到達目標	様々な種類の上級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung des Unterrichtsinhalts
テキスト	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt
参考文献	独和辞典、インターネット検索
評価方法	Beurteilung aufgrund a) schriftlicher Tests zu den behandelten Texten 80%、b) Beteiligung am Unterrichtsgeschehen (einschl. lexikalischer Vorbereitung) 20%　(regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt)

09 年度以降	上級ドイツ語リーディング b	担当者	R．ヘニング

講義目的、講義概要	授業計画
Ziel Festigung und Ausbau der bisher erworbenen Lesefertigkeit *Themen und Aufgaben* Im Mittelpunkt stehen gemein- wie fachsprachliche Texte zu diversen Themen aus Kultur, Gesellschaft, Politik; bei der Behandlung der Inhalte soll der Schwerpunkt auf kontrastiven Aspekten liegen. Differenziert gestellte Aufgaben steuern das Global- wie Detailverstehen. Zusätzliche strukturelle Übungen zu morpho-syntaktischen und textsemantischen Aspekten (Anaphorik, Kataphorik, Konnektoren, Kollokationen, prädikativen Ergänzungen und Angaben) wie auch reichhaltiges Bildmaterial und MP4-Dateien sollen das Verständnis der in den Texten vermittelten Inhalte unterstützen. *Niveau* B1 bis C2 *Arbeitsformen* Thematische Einführung im Plenum; Bearbeitung der Texte in Partner- und Einzelarbeit	1. Allgemeine Einführung 2. <Soziologie> Deutsche und Urlaub: Thematische Vorbereitung, Text 3. Deutsche und Urlaub: Text, Aufgaben z. Inhalt/Syntax 4. *Test 1*/ <Soziologie> „Hotel Mama“, Thematische Einführung 5. „Hotel Mama“, Text, Aufg. z. Inhalt/Syntax/Semantik 6. <Soziologie> Familie im Wandel: Thematische Einführung, Text 7. Familie im Wandel: Text, Aufg. z. Inhalt/Syntax/Semantik 8. <Soziologie> Weg vom angestaubten Familienbild: Text, Aufgaben z. Inhalt 9. <Soziologie> Weg vom angestaubten Familienbild: Text, Aufgaben z. Inhalt/Syntax/Semantik 10. <Soziologie> Traumpartner aus dem Internet: Thematische Einführung, Text 11. *Test II*/ <Soziologie> Internet: Thematische Einführung 12. Internet: Text, Aufg. z. Inhalt 13. Internet: Text, Aufg. z. Inhalt/Syntax/Semantik 14. *Test III* und Zusammenfassung des behandelten Stoffes

到達目標	様々な種類の上級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung des Unterrichtsinhalts
テキスト	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt
参考文献	独和辞典、インターネット検索
評価方法	Beurteilung aufgrund a) schriftlicher Tests zu den behandelten Texten 80%、b) Beteiligung am Unterrichtsgeschehen (einschl. lexikalischer Vorbereitung) 20%　(regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt)

09 年度以降	上級ドイツ語ライティング a	担当者	D．フジサワ

講義目的、講義概要	授業計画
Das Schreiben in einer Fremdsprache ist gar nicht so leicht. Auf gewisse sprachliche Regeln, die für die eigene Muttersprache gelten, kann man in einer anderen Sprache oft nicht zurückgreifen. Es braucht also Feingefühl und natürlich Kreativität und genau diese beiden Fähigkeiten sollen in diesem Kurs geschult und erprobt werden. Die Texte werden in Einzelarbeit, Partnerarbeit bzw. Gruppenarbeit erstellt und besprochen. Für die Anfertigung der eigenen Texte stehen Textvorbilder zur Verfügung, an denen man sich gut orientieren kann.	1. Semestereinführung 2. ottos mops Ⅰ - Interpretation 3. ottos mops II - Diskussion 4. Reiseblog I - Recherche 5. Reiseblog II - Verschriftlichung 6. Spiegelgeschichte 7. Löwelstrauß 8. Rezept I - Recherche 9. Rezept II - Verschriftlichung 10. Kurzgeschichte I - Recherche 11. Kurzgeschichte II - Verschriftlichung 12. Fake News I - Recherche 13. Fake News II - Verschriftlichung 14. Kursabschluss

到達目標	手紙や E メール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。
事前・事後学修の内容	Alle Texte müssen zu Hause vorbereitet werden. Fragen zu den verschiedenen Texten dienen der Nachbreitung.
テキスト	Die Texte werden im Unterricht zur Verfügung gestellt.
参考文献	特になし
評価方法	Vorbereitung der Texte und Mitarbeit im Unterricht 20%; die in Einzelarbeit 30%, Partnerarbeit 25% und Gruppenarbeit 25% entstandenen Texte.

09 年度以降	上級ドイツ語ライティング b	担当者	D．フジサワ

講義目的、講義概要	授業計画
Wie schreibe ich Texte, die interessant sind? Wie funktioniert kreatives Schreiben? Wie führt man ein Interview und verschriftlicht es dann? Nach diesem Kurs sollten all diese Fragen beantwortet und jeder der Teilnehmer ein Experte auf dem Gebiet sein. Die Texte werden in Einzelarbeit, Partnerarbeit bzw. Gruppenarbeit erstellt und besprochen. Ein Interview, das geführt und verschriftlicht werden muss, steht im Zentrum dieses Kurses. Für die Anfertigung der eigenen Texte stehen Textvorbilder zur Verfügung, die man gut zur Orientierung nutzen kann.	1. Semestereinführung 2. schtzngrmm I - Interpretation 3. schtzngrmm II - Verschriftlichung 4. Foodblog Ⅰ - Recherche 5. Foodblog II - Verschriftlichung 6. Interview Ⅰ - Recherche 7. Interview II - Vorbereitung 8. Interview Ⅲ - Vorstellung 9. Märchen I - Recherche 10. Märchen II - Verschriftlichung 11. Anna im Supermarkt I - Recherche 12. Anna im Supermarkt II - Verschriftlichung 13. Naturschutz 14. Kursabschluss

到達目標	手紙や E メール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。
事前・事後学修の内容	Alle Texte müssen zu Hause vorbereitet werden. Fragen zu den verschiedenen Texten dienen der Nachbreitung.
テキスト	Die Texte werden im Unterricht zur Verfügung gestellt.
参考文献	特になし
評価方法	Vorbereitung der Texte und Mitarbeit im Unterricht 20%; die in Einzelarbeit 30%, Partnerarbeit 25% und Gruppenarbeit 25% entstandenen Texte.

09 年度以降	上級ドイツ語ライティング a	担当者	H．W．ラーデケ

講義目的、講義概要	授業計画
Das Ziel des Kurses ist die **Verbesserung des schriftlichen Ausdrucks etwa auf B1-Niveau**. Die Studierenden sollen sich in diesem Semester vor allem darin üben, grammatisch korrektes Deutsch auf etwas höherem Niveau zu schreiben. Dazu liegt der Schwerpunkt dieses Kurses auf der **Wiederholung und Festigung auch etwas komplexerer grammatischer Strukturen** sowohl bei Satzteilen als auch im Satz als Ganzem (Satzbau). Der konkrete Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz und der Lernfähigkeit der Kursteilnehmer. Er wird während des Kurses endgültig festgelegt bzw. laufend aktualisiert. Die Liste rechts ist also als vorläufig zu betrachten. Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.	1. Einstieg, Levelcheck, Präsentation des Programms, Beispielübung 2. Adjektivdeklination (a: S.131-135) 3. Präpositionen mit dem Genetiv (a: S.161,162) Zuordnung von Präpositionen: Temporal und lokal (a: S.163-167) 4. Fragewörter, Adverb: temporal, kausal, modal, lokal (a: S.173-180) 5. Modalpartikeln, Verbposition im Hauptsatz (a: S.181-184) 6. Mittelfeld und Nachfeld des Hauptsatzes (a: S.185-189) 7. Test 1 + Apposition und Negation (a: S.190-192) 8. Satzverbindungen (a: S.193-200) 9. Adverbiale Nebensätze I (a: S.201-206) 10. Adverbiale Nbnsätze II (a: S.207-212) 11. Finalsätze und *dass*-Sätze (a: S.213-14, 219-20) 12. Infitiv+zu, Fragesätze als Nebensätze (a: S.221-224) 13. Test 2 + Fragestunde 14. Relativsätze (a: S.225-228)

到達目標	手紙やＥメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben in Art und Umfang variabel, abhängig von den jeweiligen Kursinhalten.
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.
参考文献	a: Buscha A., Szita S., B-Grammatik Übungsgrammatik DAF
評価方法	50%：Aktive Mitarbeit während des Kurses. 50%: Mindestens zwei schriftliche Tests.

09 年度以降	上級ドイツ語ライティング b	担当者	H．W．ラーデケ

講義目的、講義概要	授業計画
In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) ist das Ziel dieses Kurses **der weitere Ausbau des schriftlichen Ausdrucks auf B1-Niveau.** Während im Sommersemester grammatische Aspekte im Vordergrund standen, beschäftigen wir uns in diesem Semester vor allem mit den **Stilmitteln**, die uns beim Satzbau und bei der Komposition eines Textes zur Verfügung stehen. Das heißt, wir fragen nicht nur danach, ob ein Text grammatisch korrekt, sondern auch, ob er schön ist. Gegebenenfalls behandeln wir auch die **Besonderheiten verschiedener Textsorten** wie z.B. Briefe oder Berichte bzw. Geschichten/Märchen. Der konkrete Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz und der Lernfähigkeit der Kursteilnehmer. Er wird während des Kurses endgültig festgelegt bzw. laufend aktualisiert. Die Liste rechts ist also als vorläufig zu betrachten. Als Ergänzung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.	1. Einstieg, Levelcheck, Vorstellung des Programms, Beispielübung 2. Position 1 im Hauptsatz als Stilmittel I (a: S.67ff) 3. Position 1 im Hauptsatz als Stilmittel II (verschiedene Quellen) 4. Konnektoren als Stilmittel I (a: S.61-66) 5. Konnektoren als Stilmittel II (b: S.45-48ff) 6. Textaufbau, Thema und Rhema (b: S.55-60) 7. Test 1 + Zeiten und Zeitenfolge (b: S.66) 8. Verschiedene Arten von Wiederholungen und ihre Vermeidung. (Analyse der Testergebnisse.) 9. Stilistische Variationen des Satzbaus (verschiedene Quellen) 10. Gebrauch von Pronomen und Synonymen als Gestaltungsmittel (a: S.79ff) 11. Personenbeschreibung (a: S.84-86) 12. Bildergeschichten schreiben I (a: S.98ff) 13. Test 2 + Bildergeschichten schreiben II (a: S.98ff) 14. Briefe schreiben (a: S.155ff + b: S.45-47)

到達目標	手紙やＥメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben in Art und Umfang variabel, abhängig von den jeweiligen Kursinhalten.
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.
参考文献	a: Kast B., Fertigkeit Schreiben - b: Weber T., Balmus P., Yamaki K., Harting A., Schreib doch mal Deutsch
評価方法	50%: Aktive Mitarbeit während des Kurses - 50%: Mindestens zwei schriftliche Tests

09 年度以降	上級ドイツ語ライティング a	担当者	S．メルテンス

講義目的、講義概要	授業計画
Thema des Semesters: **BESCHREIBUNG UND INTERPRETATION** Der Kurs richtet sich an Studierende im dritten und vierten Studienjahr. Sie sollten mindestens das A2-Niveau erreicht haben. Ziel des Unterrichts ist die Verbesserung der schriftlichen Ausdrucksfähigkeit. Die Teilnehmer/innen sehen zunächst einen animierten Kurzfilm. Die Studierenden sollen das Gesehene zunächst möglichst genau mit eigenen Worten wiedergeben und dann eine Interpretation geben. Die regelmäßige Teilnahme wird als selbstverständlich vorausgesetzt. Die Teilnehmer/innen müssen ihre Arbeitsmaterialien (A4-Papier, Wörterbuch) immer mitbringen. Alle vom Dozenten verbesserten Arbeiten sollen noch einmal als Korrektur abgegeben werden.	1. Einführung (1) Beschreibung und Interpretation 2. Einführung (2) Übungen zur Beschreibung 3. Kurzfilm 1: „The Present“ 4. Kurzfilm 2: „Wrapped“ 5. Kurzfilm 3: „Ein kurzer Film über den Igel“ 6. Kurzfilm 4: „Balance“ 7. Kurzfilm 5: „Oh Sheep“ 8. Fehleranalyse: Grammatik- und Stilübungen 9. Kurzfilm 6: „Zing“ 10. Kurzfilm 7: „Das Rad“ 11. Kurzfilm 8: „Die Kiste“ 12. Kurzfilm 9: „Motherland“ 13. Kurzfilm 10: The Wishgranter“ 14. Evaluation des Semesters (Beachte: Änderungen bei den Filmtiteln möglich)

到達目標	手紙や E メール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。
事前・事後学修の内容	Zur Wiederholung des gelernten Unterrichtsstoffes und zur Vorbereitung auf die nächste Unterrichtseinheit müssen alle Teilnehmer/innen ausreichend Zeit einplanen.
テキスト	Materialien für den Unterricht werden im Kurs verteilt.
参考文献	Keine Empfehlung für begleitende Materialien
評価方法	Schriftliche Arbeiten im Unterricht bzw. Hausarbeiten 100%

09 年度以降	上級ドイツ語ライティング b	担当者	S．メルテンス

講義目的、講義概要	授業計画
Thema des Semesters: **TRÄUME & ZUKUNFT** Der Kurs richtet sich an Studierende im dritten und vierten Studienjahr. Sie sollten mindestens das A2-Niveau erreicht haben. Ziel des Unterrichts ist die Verbesserung des individuellen schriftlichen Ausdrucks. Im ersten Teil des Semesters sollen die Studierenden ihre persönlichen Zukunftsträume zu Papier bringen. Im zweiten Teil sollen sie dann ihre Vorstellungen zu einer besseren Zukunft der Welt formulieren. Die regelmäßige Teilnahme wird als selbstverständlich vorausgesetzt. Die Teilnehmer/innen müssen ihre Arbeitsmaterialien (A4-Papier, Wörterbuch) immer mitbringen. Alle vom Dozenten verbesserten Arbeiten sollen noch einmal als Korrektur abgegeben werden.	1. Einführung: Hinweise zum Kurs 2. Traumhaus 3. Traumweltreise 4. Traumuniversität 5. Traumberuf 6. Traumpartner/in 7. Fehleranalyse (1): Grammatikübungen 8. Fehleranalyse (2): Stilübungen 9. Zukunft des Wohnens 10. Zukunft der Mobilität 11. Zukunft der Kommunikation 12. Zukunft der Energie 13. Zukunft der Ernährung 14. Evaluation des Semesters

到達目標	手紙や E メール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。
事前・事後学修の内容	Zur Wiederholung des gelernten Unterrichtsstoffes und zur Vorbereitung auf die nächste Unterrichtseinheit müssen alle Teilnehmer/innen ausreichend Zeit einplanen.
テキスト	Materialien für den Unterricht werden im Kurs verteilt.
参考文献	Keine Empfehlung für begleitende Materialien
評価方法	Schriftliche Arbeiten im Unterricht bzw. Hausaufgaben 100%

09 年度以降	上級ドイツ語スピーキング a	担当者	D．フジサワ

講義目的、講義概要	授業計画
Sprechen nimmt neben Hören, Lesen und Schreiben eine primäre Stellung ein. Bei der Kommunikation bereiten grammatische Fehler kleinere Probleme beim Verständnis als Aussprachefehler. In diesem Kurs soll daher ein Aussprachetraining im Zentrum stehen. Spielerische Übungen schaffen dabei die Grundlage für eine authentische und natürliche Aussprache. Während des Semesters wird es außerdem die Aufgabe sein, eine Präsentation zu halten und ein Interview zu führen. Im Austausch mit deutschen Studierenden wird außerdem ein Videochatprojekt, das parallel zum Kurs abläuft, im Unterricht vorbereitet und von zu Hause aus koordiniert wird, durchgeführt.	1. Semestereinführung 2. Einführung in die Phonetik 3. IPA 4. Quantität der Vokale 5. Präsentation I - Gruppe A, B und C 6. Präsentation II - Gruppe D, E und F 7. Umlaute 8. sch-, ich-, und ach-Laut 9. r-Laute 10. Interview I - Gruppe A, B und C 11. Interview II - Gruppe D, E und F 12. v- und b-Laut 13. Akzent - Rhythmus – Melodie 14. Kursabschluss

到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。
事前・事後学修の内容	Die Präsentation, das Interview und das Videochatprojekt werden zu Hause vorbereitet.
テキスト	Alle Unterrichtsmaterialien werden im Unterricht zur Verfügung gestellt.
参考文献	特になし
評価方法	Mitarbeit im Unterricht 20%; die Vorstellung der Präsentation 25%, des Interviews 25% und des Videochats im Unterricht 30%.

09 年度以降	上級ドイツ語スピーキング b	担当者	D．フジサワ

講義目的、講義概要	授業計画
Auf Ebene der Prosodie (Wort- und Satzakzent, Intonation, Rhythmus, etc.) werden in diesem Kurs über das Semester verteilt mehrere kurze Phonetikübungen behandelt, um Hinweise für die Verbesserung der Aussprache zu liefern. Im Zentrum des Kurses steht außerdem eine Präsentation zu einer „aktuellen Nachricht“, eine Gruppenpräsentation zu einem freien Thema, eine Partnerpräsentation zum Thema Deutschland-Japan und der Vortrag eines Textes. Abschließende Diskussionen dienen als weiterer Gesprächsanlass, um sich zum Thema auszutauschen.	1. Semestereinführung 2. Einführung in die Phonetik 3. Wie hält man eine Präsentation? I - Theorie 4. Wie hält man eine Präsentation? II - Praxis 5. Vorbereitung Gruppenpräsentation 6. Präsentation freies Thema I - Gruppe A, B und C 7. Präsentation freies Thema II - Gruppe D, E und F 8. Vorbereitung Partnerpräsentation 9. Präsentation „D - J“ I - Gruppe A, B und C 10. Präsentation „D - J“ II - Gruppe D, E und F 11. Vorbereitung Textvortrag 12. Textvortrag I - Gruppe A, B und C 13. Textvortrag II - Gruppe D, E und F 14. Kursabschluss

到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。
事前・事後学修の内容	Die Präsentationen müssen zum Teil auch zu Hause vorbereitet werden.
テキスト	Alle Unterrichtsmaterialien werden im Unterricht zur Verfügung gestellt.
参考文献	特になし
評価方法	Mitarbeit im Unterricht 20%; die Vorstellung der Präsentationen 60% und des Textes 20%.

09 年度以降	上級ドイツ語スピーキング a	担当者	R．メッツィング

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs soll Deutsch aufgefrischt werden und gefestigt werden. Hierzu dient ein Hörspiel „Der Auftrag“ um das Hörverstehen, das Leseverstehen, die Grammatik, den schriftlichen und den mündlichen Ausdruck zu verbessern. Das Hörspiel und der Text bestehen aus 28 Folgen, in denen eine systematische Progression (A1 bis Ende A2) bei Wortschatz, Grammatik und Schwierigkeit der Texte angelegt ist. Die Geschichte ist spannend und amüsant zugleich. Der erste Teil Situation 1-15 werden zusammengefasst. In der vorletzten Stunde im Semester wird ein Test geschrieben.	1. Erklärung des Kurses und Einführung der Geschichte 2. Im Restaurant (HV　Hörverstehen) 3. Erzählzeit „Präteritum“ 4. Schlock berichtet 5. Nach dem Besuch des Jokers 6. Ein Intermezzo 7. Im Flughafen 8. Bei einem Flug 9. Dreharbeiten bei einem Film 10. Was war geschehen? 11. Eine Kleinigkeit 12. Die Ereignisse im Hotel 13. Test. Ein Besuch 14. Die letzte Folge

到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。
事前・事後学修の内容	Die Hausaufgabe besteht darin, die Texte zu lesen und den Wortschatz zu lernen.
テキスト	Es werden Kopien im Unterricht verteilt.
参考文献	特になし。
評価方法	Die mündliche Beteiligung wird mit 40% und der Test mit 60% bewertet.

09 年度以降	上級ドイツ語スピーキング b	担当者	R．メッツィング

講義目的、講義概要	授業計画
Im Wintersemester 2019/20 wird im Kurs ein anderes Buch benutzt. Hier soll der mündliche Ausdruck trainiert werden. Im Kurs wird das Buch „Einfach sprechen“ vom Verlag Klett benutzt. Das Buch bietet eine abwechslungsreiche und lebendig mündliche Kommunikation. Das Nivea geht von A2 bis B1. Ab　der Unterrichtseinheit 11 wird das Buch „Treffpunkt Dialog“ von Klett benutzt. (Niveau B1). In der vorletzten Stunde im Wintersemester wird ein Test geschrieben.	1. Einführung und Erklärung des Kurses 2. Worüber man spricht 3. Über mich und andere 4. Wohnen Ämter und Versicherungen 5. Einkaufen 6. Arbeit und Arbeitssuche 7. Medien 8. Gesundheit 9. Aus- und Weiterbildung 10. Kinder 11. Telefon, Können Sie mir sagen,…? 12. Hotel. Haben Sie noch freie Zimmer? 13. Test, Was macht Jens Spaß? 14. Was hast du heute gekocht?

到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。
事前・事後学修の内容	Die Hausaufgabe besteht darin, die Texte zu lesen und den Wortschatz zu lernen.
テキスト	Es werden Kopien im Unterricht verteilt.
参考文献	特になし。
評価方法	Die mündliche Beteiligung wird mit 40% und der Test mit 60% bewertet.

09 年度以降	上級ドイツ語スピーキング a	担当者	S．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs sprechen und singen wir deutsche Lieder. Wir machen Partnergespräche zu Themen, die in den Liedern vorkommen. Durch Singen kann man eine Sprache gut lernen! Die Melodie hilft, den Text zu erinnern.	1 Froh zu sein / Der Winter ist vergangen 2 Auf einem Baum ein Kuckuck / Wem Gott will rechte Gunst erweisen 3 Komm lieber Mai / Wie schön blüht uns der Maien 4 Das Wandern ist des Müllers Lust / Horch was kommt von draussen rein 5 Oh du lieber Augustin / Im Frühtau zu Berge 6 Schiffe im Hafen / Alle, die mit uns auf Kaperfahrt fahren 7 Heissa Kathreinerle / Guten Abend 8 C_A_F_F_E_E / Die Affen rasen durch den Wald 9 Zogen einst fünf wilde Schwäne / Die Gedanken sind frei 10 In einem kühlen Grunde / Lorelei 11 Lindenbaum / Heidenröslein 12 Lass doch der Jugend ihren Lauf / Heut kommt der Hans nach Haus 13 Wiederholung, wir singen noch einmal alle Lieder vor der Prüfung 14 Alle Studenten lernen ein Lied auswendig, oder sie tragen den Text eines Liedes vor.

到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。
事前・事後学修の内容	3mal im Semester schreiben Sie zu Hause einen Aufsatz mit 200 Wörtern, oder Sie halten im Unterricht ein Referat.
テキスト	Wir benutzen Kopien der Lieder.
参考文献	特になし
評価方法	Es gibt Punkte für die schriftlichen Hausaufgaben und bei der mündlichen Prüfung am Ende des Semesters, 1:1:1:1.

09 年度以降	上級ドイツ語スピーキング b	担当者	S．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs sprechen und singen wir deutsche Lieder. Wir machen Partnergespräche zu Themen, die in den Liedern vorkommen. Durch Singen kann man eine Sprache gut lernen! Die Melodie hilft, den Text zu erinnern.	1 Fuchs du hast die Gans gestohlen / Wenn ich ein Vöglein wär 2 Schwesterlein, wann gehen wir nach Haus / Ich hab die Nacht geträumet 3 Kommt ein Vogel geflogen / Mein Hut, der hat drei Ecken 4 Muss i denn zum Staedtele hinaus / Im schönsten Wiesengrunde 5 Bunt sind schon die Wälder / O wie wohl ist mir am Abend 6 Ade zur guten Nacht / Nehmt Abschied, Brüder 7 Es dunkelt schon in der Heide / Wer hat dich, du schöner Wald 8 Feinsliebchen, du sollst mir nicht barfuss gehen / An der Saale hellem Strande 9 Einst macht ich mich auf / Klar wie der Morgenstern 10 Kein Feuer, keine Kohle / Ja, mein Schatz ist wunderschön 11 Aus grauer Städte Mauern / Es geht eine dunkle Wolk herein 12 Weihnachtslieder und Traditionen 13 Wir singen alle Lieder noch einmal. 14 In dieser Stunde tragen alle Studenten ein Lied vor, Sie singen oder sprechen den Text.

到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。
事前・事後学修の内容	3mal im Semester schreiben Sie zu Hause einen Aufsatz mit 200 Wörtern, oder Sie halten im Unterricht ein Referat.
テキスト	Wir benutzen Kopien der Lieder.
参考文献	特になし
評価方法	Es gibt Punkte für die schriftlichen Hausaufgaben und bei der mündlichen Prüfung am Ende des Semesters, 1:1:1:1.

09 年度以降	上級ドイツ語リスニング（CAL）a	担当者	R．ヘニング

講義目的、講義概要	授業計画
Unterrichtsstruktur Bewusstmachung des Themas, Vorabsammlung von Vokabular (Assoziogramm); Verteilung der Aufgaben und MP3-/MP4-Dateien; nach Bearbeitung eines Aufgabenblockes Verteilung der Lösungen sowie des folgenden Aufgabenblocks. *Ziel* Die differenziert gestellten Aufgaben zielen auf Festigung und Ausbau des Hörverstehens auf der Makroebene (Erfassen des Themas undd er zentralen Aussagen; Beschreibung von Atmosphäre und Stimmung) sowie auf der Mikroebene (Detailverstehen). *Themen / Materialien (Auswahl; z. T. vom Kursleiter didaktisiert)* Liebe und Beziehungen: Popsong/2 Loriot-Sketche/2 literarische Texte (Hörbuch); Heimat und Erfahrung von Fremde: Interviews (2 Texte); Deutsche Kultur: Radio-Interview; Japaner in Deutschland: Fernsehbericht; Urlaub in Deutschland: Fernsehbericht/Interviews; Weihnachten in Deutschland: Fernseh-Bericht/Loriot-Sketch; Deutsche Geschichte: kritischer Popsong *Niveaustufen* A2 bis C1 *Arbeitsformen* Thematische Vorbereitung im Plenum; Bearbeitung der Aufgaben in Einzelarbeit	1. Einführung 2. <Kultur> Songtext: Udo Lindenberg (MP4 und YouTube-Video) 3. <Soziologie> Loriot: Das Frühstücksei/Feierabend (MP4) 4. <Soziologie> Literarischer Text (Audiobuch): Das Idealpaar 5. <Soziologie> Literarischer Text (Audiobuch): Schlaflose Nacht 6. *Test I* /<Soziologie> Heimat: Thematische Vorbereitung 7. <Soziologie> Heimat: Was bedeutet Heimat für Sie? (Interview, MP3) 8. <Soziologie> Heimat: Mal was anderes (Interview, MP3) 9. *Test II* /<Kultur> Große Namen der deutschen Kulturgeschichte: Thematische Vorbereitung 10. <Kultur> Große Namen der deutschen Literatur- und Musikgeschichte (A2, Radioquiz, MP3) 11. <Kultur> Große Namen der deutschen Literatur- und Musikgeschichte (B2, Fachinterview, MP3) 12. *Test II* /<Soziologie> Loriot: Familie Hoppenstedt: Thematische Vorbereitung 13. <Soziologie> Loriot: Familie Hoppenstedt (MP4) 14. *Test III* und Zusammenfassung des behandelten Stoffes

到達目標	会話や読み上げられた上級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung der Unterrichtsinhalte
テキスト	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt
参考文献	独和辞典
評価方法	Beurteilung aufgrund a) schriftlicher Test zu den behandelten Texten 80%、b) Unterrichtsvorbereitung (einschl. Vorbereitung neuen Vokabulars) 20%　(Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt)

09 年度以降	上級ドイツ語リスニング（CAL）b	担当者	R．ヘニング

講義目的、講義概要	授業計画
Unterrichtsstruktur Bewusstmachung des Themas, Vorabsammlung von Vokabular (Assoziogramm); Verteilung der Aufgaben MP4-Dateien; nach Bearbeitung eines Aufgabenblockes Verteilung der Lösungen sowie des folgenden Aufgabenblocks. *Ziel* Die differenziert gestellten Aufgaben zielen auf Festigung und Ausbau des Hörverstehens auf der Makroebene (Erfassen des Themas und der zentralen Aussagen; Beschreibung von Atmosphäre und Stimmung) sowie auf der Mikroebene (Detailverstehen). *Themen / Materialien (z. T. vom Kursleiter didaktisiert)* 1. Telenovela Jojo 1 (33 Folgen) 2. Folge einer aktuellen deutschen Krimiserie *Niveaustufen* B2 bis C2 *Arbeitsformen* Thematische Vorbereitung im Plenum; Bearbeitung der Aufgaben in Einzelarbeit	1. Einführung 2. Jojo Folgen 1-3 3. Jojo Folgen 4-6 4. Jojo Folgen 7-10 5. *Umfassender Zwischentest I: Folgen 1 bis 10* 6. Jojo Folgen 11-14 7. Jojo Folgen 15-18 8. Jojo Folgen 19-22 9. *Umfassender Zwischentest II: Folgen 11 bis 22* 10. Jojo Folgen 23-26 11. Jojo Folgen 27-30 12. Jojo Folgen 31-33 13. *Umfassender Zwischentest III: Folgen 23 bis 33* 14. Krimiserie *mit kurzer Leistungskontrolle*

到達目標	会話や読み上げられた上級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung der Unterrichtsinhalte
テキスト	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt
参考文献	独和辞典
評価方法	Beurteilung aufgrund a) schriftlicher Tests zu den behandelten Texten 80%、b) Unterrichtsvorbereitung　(einschl. Vorbereitung neuen Vokabulars) 20%　(Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt)

09 年度以降	上級ドイツ語リスニング（CAL）a	担当者	S．メルテンス

講義目的、講義概要	授業計画
Thema des Semesters: **DEUTSCHE POPMUSIK** Der Kurs richtet sich an Studierende im dritten und vierten Studienjahr. Ziel des Unterrichts ist die Verbesserung des Hörverständnisses der Teil-nehmer/innen. Unterrichtsstoff sind Lieder der rechts genannten Sänger/innen bzw. Gruppen. In drei Schritten sollen die Liedertexte (1) gehört, (2) verstanden und (3) interpretiert werden. Die kontinuierliche Teilnahme wird als selbstver-ständlich vorausgesetz. Die Bereitschaft zur akti- ven und konzentrierten Mitarbeit sollte auf jeden Fall vorhanden sein. Die im Unterricht gezeigten Videos können im Internet aufgerufen werden.	1. Trio (1982) 2. Dr. Seltsam (1979) 3. Ideal (1982) 4. Marius Müller-Westernhagen (1978) 5. Extrabreit (1981) 6. Ina Deter (1982) 7. Ich & Ich (2007) 8. Barbara Morgenstern (2015) 9. Zoff (1980) 10. Bosse (2016) 11. Wir sind Helden (2010) 12. Spliff (1982) 13. Einstürzende Neubauten (1989) 14. Rio Reiser (1986)

到達目標	会話や読み上げられた上級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Jede Unterrichtseinheit muss selbstständig intensiv wiederholt werden. Die Teilnehmer/innen sollten hierzu ausreichend Zeit einplanen.
テキスト	Materialien für den Unterricht werden im Kurs verteilt.
参考文献	Keine Literaturempfehlungen
評価方法	Aktive Mitarbeit im Unterricht 30%, schriftliche Hausaufgaben 20%, Kurztests 50%

09 年度以降	上級ドイツ語リスニング（CAL）b	担当者	S．メルテンス

講義目的、講義概要	授業計画
Thema des Semesters: **FUSSBALL** Der Kurs richtet sich an Studierende im dritten und vierten Studienjahr. Ziel des Unterrichts ist die Verbesserung des Hörverständnisses der Teil-nehmer/innen. In diesem Semester werden Radiosendungen zum Thema Fußball in Deutschland gehört. Der Inhalt der Texte soll gemeinsam verstanden und dann besprochen werden. Einzelne Hörtexte haben einen höheren Schwie-rigkeitsgrad, sodass die Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Mitarbeit unbedingt mitge- bracht werden muss. Die kontinuierliche Teil- nahme wird als selbstverständlich vorausgesetz. Die Hördateien können heruntergeladen werden.	1. Einführung ins Semester / Anfänge des Fußballs in Deutschland 2. Geschichte des DFB: (Hördatei bis ca. 14 Minuten) 3. Geschichte des DFB: (Hördatei bis Ende) 4. Verbot des Frauenfußballs durch den DFB 5. Erste Fußballländerspiel der Frauen 6. Fußballweltmeisterschaft 1954: (Erste Hördatei) 7. Fußballweltmeisterschaft 1954: (Zweite Hördatei) 8. Nationalspieler Helmut Rahn 9. Fußballnation Deutschland: (Hördatei bis ca 14 Minuten) 10. Fußballnation Deutschland: (Hördatei bis Ende) 11. Fußball und Gesellschaft: (Hördatei bis ca. 10 Minuten) 12. Fußball und Gesellschaft: (Hördatei bis ca. 20 Minuten) 13. Fußball und Gesellschaft: (Hördatei bis Ende) 14. Evaluation des Semesters

到達目標	会話や読み上げられた上級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Jede Unterrichtseinheit muss selbstständig intensiv wiederholt werden. Die Teilnehmer/innen sollten hierzu ausreichend Zeit einplanen.
テキスト	Materialien für den Unterricht werden im Kurs verteilt.
参考文献	Keine Literaturempfehlungen
評価方法	Aktive Mitarbeit im Unterricht 30%, schriftliche Hausaufgaben 10%, Kurztests 60%

09 年度以降	中世ドイツ語 a	担当者	I. アルブレヒト

講義目的、講義概要	授業計画
Dieser Unterricht soll in die Lage versetzen, mittelhochdeutsche Texte lesen und übersetzen zu können. Neben der systematischen Beschreibung des Mittelhochdeutschen (Erwerb solider Grammatikkenntnisse) wird die historische Stellung des Mittelhochdeutschen innerhalb der Geschichte der deutschen Sprache besonders berücksichtigt: die semantische Entwicklung, die Bedeutungsdifferenz mittelhochdeutscher und gegenwartsprachlicher Wörter, die syntaktischen und morphologischen Unterschiede sowie Genitivkonstruktionen, Negation, Formen der Verben.	Die Texte und Themen werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist: 1. Was ist MHD? 2. Wie unterscheidet sich MHD von der Gegenwartssprache? 3. Ritterlich-höfische Welt 4. Wolfram von Eschenbach, Parzival 5. Hartmann von Aue, Iwein 6. Hartmann von Aue, Erek 7. Bäuerliche Welt 8. Wernher der Gartenaere, Helmbrecht 9. Wittenwiler, Der Ring 10. Heldenepik 11. Nibelungenlied, Island 12. Nibelungenlied, Streit der Königinnen 13. Nibelungenlied, Siegfrieds Tod 14. Wiederholung

到達目標	中世ドイツ語圏の文化の基礎、中世ドイツ語の基本文法を理解し、基本的な文章を読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Wiederholung, eventuell Übersetzung ins Japanische (ca. 90 Minuten)
テキスト	Kopien, werden in der ersten Stunde verteilt
参考文献	Keine besondere Empfehlung
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit und Erfüllung der Aufgaben (65%), Test (35%)

09 年度以降	中世ドイツ語 b	担当者	I. アルブレヒト

講義目的、講義概要	授業計画
Dieser Unterricht soll in die Lage versetzen, mittelhochdeutsche Texte lesen und übersetzen zu können. Neben der systematischen Beschreibung des Mittelhochdeutschen (Erwerb solider Grammatikkenntnisse) wird die historische Stellung des Mittelhochdeutschen innerhalb der Geschichte der deutschen Sprache besonders berücksichtigt: die semantische Entwicklung, die Bedeutungsdifferenz mittelhochdeutscher und gegenwartsprachlicher Wörter, die syntaktischen und morphologischen Unterschiede sowie Genitivkonstruktionen, Negation, Formen der Verben.	Die Texte und Themen werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist: 1. Was ist MHD? 2. Wie unterscheidet sich MHD von der Gegenwartssprache? 3. Gottfried von Straßbug, Tristan 4. Tristans Kindheit 5. Tristans Entführung 6. Tristans Fahrt nach Irland 7. Der Kampf gegen den Drachen 8. Tristan und Isolde fahren nach Cornwall 9. Der Zaubertrank 10. Baumgartenszene 11. Morolds Trick mit dem Mehl 12. Die Liebesgrotte 13. Entdeckung der Liebenden im Baumgarten 14. Wiederholung

到達目標	中世ドイツ語圏の文化の基礎、中世ドイツ語の基本文法を理解し、基本的な文章を読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Wiederholung, eventuell Übersetzung ins Japanische (ca. 90 Minuten)
テキスト	Kopien, werden in der ersten Stunde verteilt
参考文献	Keine besondere Empfehlung
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit und Erfüllung der Aufgaben (65%), Test (35%)

09 年度以降	ビジネスドイツ語 a	担当者	S. メルテンス

講義目的、講義概要	授業計画
Thema des Semesters: **FUSSBALL & BUSINESS** Ziel des Kurses ist die Vertiefung und Erweiterung der Kenntnisse in den vier sprachlichen Grundfertigkeiten Lesen, Schreiben, Hören und Sprechen mit Schwerpunkt Wirtschaftsdeutsch. Thematischer Schwerpunkt des Semesters ist die enge Beziehung von Fußball und Business in unserer Gesellschaft. Es werden Texte und Statistiken gelesen und gemeinsam diskutiert. Die kontinuierliche Teilnahme und die aktive Mitarbeit im Unterricht wird ebenso vorausgesetzt wie das Interesse am thematischen Schwerpunkt des Semesters. Jede/r Teilnehmer/in muss im Laufe des Semesters eine Präsentation im Kurs halten.	1. Einführung ins Semester: Hinweise zum Kurs 2. Vermarktung von Fanprodukten (1): Trikots 3. Vermarktung von Fanprodukten (2): Fanartikel 4. Vermarktung von Fanprodukten (3): Diskussion 5. Fußballligen und Business (1): Karten 6. Fußballligen und Business (2): Fernsehgelder 7. Fußballligen und Business (3): Diskussion 8. Fußballer als Handelsware (1): Nachwuchsspieler 9. Fußballer als Handelsware (2): Fußballstars 10. Fußballer als Handelsware (3): Diskussion 11. Übertragungsrechte (1): Bundesliga etc. 12. Übertragungsrechte (2): Weltmeisterschaft 13. Fußball und Übertragungsrechte (3): Diskussion 14. Evaluation des Semesters

到達目標	ビジネスの場面で使われるドイツ語を理解し、かつ応用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Die Teilnehmer/innen müssen den Unterrichtsstoff intensiv vorbereiten bzw. wiederholen. Hierzu sollte ausreichend Zeit eingeplant werden.
テキスト	Materialien für den Unterricht werden im Kurs verteilt.
参考文献	Keine Empfehlung zur Literatur
評価方法	Aktive Mitarbeit im Unterricht (inklusive schriftlicher Hausaufgaben und Präsentation) 50%, Test im Rahmen des Unterrichts 50%

09 年度以降	ビジネスドイツ語 b	担当者	S. メルテンス

講義目的、講義概要	授業計画
Thema des Semesters: **PRIVATER KONSUM** Ziel des Kurses ist die Vertiefung und Erweiterung der Kenntnisse in den vier sprachlichen Grundfertigkeiten Lesen, Schreiben, Hören und Sprechen mit Schwerpunkt Wirtschaftsdeutsch. Thematischer Schwerpunkt des Semesters ist der private Konsum. Nach einer allgemeinen Einführung in das Thema soll mittels mehrerer Beispiele der Weg von Konsumprodukten von der Produktion bis zum Verbrauch nachvollzogen werden. Die kontinuierliche Teilnahme und die aktive Mitarbeit im Unterricht wird ebenso vorausgesetzt wie das Interesse am thematischen Schwerpunkt des Semesters. Jede/r Teilnehmer/in muss eine Präsentation halten.	1. Einführung ins Semester: Hinweise zum Kurs 2. Privater Konsum (1): Theoretischer Rahmen 3. Privater Konsum (2): Produktion und Verkauf 4. Privater Konsum (3): Kauf und Verbrauch 5. Privater Konsum (4): Beispiele 6. Kurztest im Rahmen des Unterrichts 7. Produkt 1: T-Shirt (1): Vom Produzenten ... 8. Produkt 1: T-Shirt (2): ... zum Konsumenten 9. Produkt 2: Kaffee (1): Vom Produzenten ... 10. Produkt 2: Kaffee (2): ... zum Konsumenten 11. Präsentationen (I) 12. Produkt 3: Mobiltelefone (1): Vom Produzenten ... 13. Produkt 3: Mobiltelefone (2): ... zum Konsumenten 14. Präsentationen (II)

到達目標	ビジネスの場面で使われるドイツ語を理解し、かつ応用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Die Teilnehmer/innen müssen den Unterrichtsstoff intensiv vorbereiten bzw. wiederholen. Hierzu sollte ausreichend Zeit eingeplant werden.
テキスト	Materialien für den Unterricht warden im Kurs verteilt.
参考文献	Stephan Lessenich: “Neben uns die Sintflut” (Berlin: Hanser, 2017)
評価方法	Aktive Mitarbeit im Unterricht (inklusive schriftlicher Hausaufgaben und Präsentation) 50%, Test im Rahmen des Unterrichts 50%

09 年度以降	上級英語	担当者	辻田　麻里

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語学科の3年次以上の学生を対象とする外国語科目で半期完結です。春・秋学期両方の履修も可能です。 Academic Reading/Listening Strategies I-IIで培った学術英語の基礎力を、専門的なテーマの研究、プレゼンテーション、論文作成に応用し、英語のリサーチスキルを習得することを目的とします。ドイツ語圏に関連したテーマを選び、研究動向を整理して内容を理解したうえで、批判的に考え（critical thinking)、自分の意見を表現できるようにします。学術的な言語技能として、図表の説明、論文でよく使われる表現、論展開の方法などを学びます。研究成果はリサーチペーパー（1000語以上）にまとめ、授業で発表します。授業活動は英語で行います。 英語力の目安はTOEIC500点で、German Studies in English IやAcademic Writing I, IIを履修済み、英語のパラグラフ・ライティングの基礎を理解していることが望ましいです。	1. Course Introduction 2. Selecting and Narrowing a Topic 3. Library Database Guidance 4. Presentations: Review of Academic articles 5. Citations, Paraphrasing, Summarizing 6. Outline, Thesis statement, Introduction 7. Computer skills: Peer review of Introduction 8. Body sections: Main and Supporting ideas 9. Presentations: Interim report 10. Tutorials for First draft 11. Graphs, Tables, Proofreading 12. Computer skills: Presentation slides 13. Presentations: Final report 14. Final paper submission and self-reflection

到達目標	ドイツ語圏の時事をテーマとして、英語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の４技能を２年次より総合的に伸長し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、教材の指定箇所の学習や、資料調査・発表準備などの課題を行う。 前回の授業内容と課題を完了したことを前提に授業が進められる。
テキスト	*Developing Academic Writing Skills, 2nd edition*. R. Najar & L. Riley. Macmillan, 2013.
参考文献	Schreurs, Miranda A. (2003). *Environmental politics in Japan, Germany, and the United States*. Cambridge.
評価方法	授業参加・貢献 20%、課題 20%、発表 20%、リサーチペーパー40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

09 年度以降	上級英語	担当者	辻田　麻里

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語学科の3年次以上の学生を対象とする外国語科目で半期完結です。春・秋学期両方の履修も可能です。 Academic Reading/Listening Strategies I-IIで培った学術英語の基礎力を、専門的なテーマの研究、プレゼンテーション、論文作成に応用し、英語のリサーチスキルを習得することを目的とします。ドイツ語圏に関連したテーマを選び、研究動向を整理して内容を理解したうえで、批判的に考え（critical thinking)、自分の意見を表現できるようにします。学術的な言語技能として、図表の説明、論文でよく使われる表現、論展開の方法などを学びます。研究成果はリサーチペーパー（1000語以上）にまとめ、授業で発表します。授業活動は英語で行います。 英語力の目安はTOEIC500点で、German Studies in English IやAcademic Writing I, IIを履修済み、英語のパラグラフ・ライティングの基礎を理解していることが望ましいです。	1. Course Introduction 2. Selecting and Narrowing a Topic 3. Library Database Guidance 4. Presentations: Review of Academic articles 5. Citations, Paraphrasing, Summarizing 6. Outline, Thesis statement, Introduction 7. Computer skills: Peer review of Introduction 8. Body sections: Main and Supporting ideas 9. Presentations: Interim report 10. Tutorials for First draft 11. Graphs, Tables, Proofreading 12. Computer skills: Presentation slides 13. Presentations: Final report 14. Final paper submission and self-reflection

到達目標	ドイツ語圏の時事をテーマとして、英語の「読む」「書く」「話す」「聴く」という、言語の４技能を２年次より総合的に伸長し、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、教材の指定箇所の学習や、資料調査・発表準備などの課題を行う。 前回の授業内容と課題を完了したことを前提に授業が進められる。
テキスト	*Developing Academic Writing Skills, 2nd edition*. R. Najar & L. Riley. Macmillan, 2013.
参考文献	Hake, Sabine. (2008). *German National Cinema, 2nd edition*. New York: Routledge.
評価方法	授業参加・貢献 20%、課題 20%、発表 20%、リサーチペーパー40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

09 年度以降	ドイツ語圏入門 I	担当者	伊豆田　俊輔 （コーディネーター）

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的） 　これからみなさんがドイツ語学科で専門的に学ぶための基礎を習得します。また、自分の関心領域と今後のテーマを発見し、それを調査・研究するために必要となる知的技術、批判的思考力の獲得を目指します。（重点項目） 1）ドイツ語学科の学生として必要不可欠な、ドイツ語圏に関する基礎知識を習得する。 2）「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して履修することにより、これからドイツ語学科で学ぶ内容の全体像（見取り図）を把握し、将来の専攻分野やテーマ選択の手掛かりをつかむ。 3）文献の検索方法、論文の一般的な形式、構造、読み方を学び、レポート作成についての基本的知識と技術を習得する。	第1回　シラバスにもとづくガイダンス 第2回　総論―ドイツ語・ドイツ文化を学ぶ意義とは何か 第3回　レポートの書き方・課題提示 第4回　図書館ガイダンス 第5回　ドイツ語圏の歴史①―中世から18世紀まで 第6回　ドイツ語圏の歴史②―19世紀からナチ時代まで 第7回　ドイツ語圏の歴史③―戦後ドイツ 第8回　ドイツ語圏の言語①―ドイツ語の歴史 第9回　ドイツ語圏の言語②―ドイツ語と発音 第10回　ドイツ語圏の言語③―ドイツ語と英語 第11回　ドイツ語圏の文化①―文学 第12回　ドイツ語圏の文化②―表象芸術 第13回　レポートの返却と講評 第14回　今学期のまとめ ※日程は変更になる可能性があります

到達目標	ドイツ語圏に関する必要最低限の知識と、大学で学んでいく上で必要な技能を習得し、入門的なドイツ語圏の研究分析ができるようにする。
事前・事後学修の内容	詳しくは初回授業時に指示しますが、授業後にはしっかりと復習し、知識を定着させてください。
テキスト	高田博行『ヒトラー演説―熱狂の真実（中公新書）』（中央公論新社、2014 年）
参考文献	佐渡島紗織他編『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』（大修館書店、2015 年）
評価方法	おおよそ、毎回の講義内の「授業レポート」70%、レポート 30%を目安に総合的に判断する。

09 年度以降	ドイツ語圏入門Ⅱ	担当者	伊豆田　俊輔 （コーディネーター）

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 　これからみなさんがドイツ語学科で専門的に学ぶための基礎を習得します。また、自分の関心領域と今後のテーマを発見し、それを調査・研究するために必要となる知的技術、批判的思考力の獲得を目指します。 （重点項目） 1）特定のテーマについて様々なアプローチから学ぶことによって、ドイツ語圏への関心を高め、ドイツ語やドイツ語圏について学ぶ意義を確認する。 2）これからドイツ語学科で学ぶ内容の全体像（見取り図）を把握し、将来の専攻分野やテーマ選択の手掛かりをつかむ。 3）インターン経験者や、年齢層の異なる卒業生の話を聞き、今後の自分の進路について考える。	第1回　シラバスにもとづくガイダンス 第2回　「共通テーマ・言語と政治（仮）」①―導入 第3回　共通テーマ②―文学研究の立場から 第4回　共通テーマ③―ゲスト講師による講演 第5回　共通テーマ④―言語史の立場から 第6回　共通テーマ⑤―言語学の立場から 第7回　共通テーマ⑥―歴史学の立場から 第8回　共通テーマ⑦―政治学の立場から 第9回　共通テーマ⑧―表象芸術研究の立場から 第10回　若手OBOGによるキャリア教育（ゲスト講師） 第11回　インターンシップ報告会 第12回　中堅OBOGによるキャリア教育（ゲスト講師） 第13回　ドイツ語圏のクリスマス 第14回　今学期のまとめ ※日程は変更になる可能性があります

到達目標	ドイツ語圏に関する必要最低限の知識と、大学で学んでいく上で必要な技能を習得し、入門的なドイツ語圏の研究分析ができるようにする。
事前・事後学修の内容	詳しくは初回授業時に指示しますが、授業後にはしっかりと復習し、知識を定着させてください。
テキスト	特に指定しない。
参考文献	原則として、毎回担当者が授業レジュメ（プリント）を配布し、その中で指示します。
評価方法	毎回の講義内容の「授業レポート」に基づいて評価します（100%授業内レポートの点数の合計で判断）。

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
1年時の「ドイツ語圏入門」で修得した、ドイツ語圏に関する基礎知識をベースに、2年次の「基礎演習」では「知のスキル」を高め、3年次意向の専門演習に向けた準備を目標にします。 「知のスキル」とは、具体的に以下のとおりです。 ① テキストを正確に理解する力 ② 論理的に思考する力 ③ 発表する力（プレゼンテーション） ④ 議論する力（ディスカッションやディベート） ⑤ 書く力（レポート執筆） ⑥ 調べる技術（文献・情報検索術） ⑦ 議論をまとめる力（議事録作成） 春学期は、共通テキストの輪読をもとに討論し、テキストのテーマに基づくレポートを二回提出してもらいます。 ＊なお、3年時意向の「専門演習」の履修は、『ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱ』、および「基礎演習IまたはII」を履修済みであることが条件となります。	1. オリエンテーション（＊各クラスによりテーマが異なるので必ず参加すること） 2. テーマⅠ：テキスト輪読 3. 課題テキストの要約作り 4. 課題テキストに関連する文献検索の方法を学ぶ 5. 課題テキストに関するパワーポイントの作成練習 6. 課題テキストに関するレポート作成練習 7. 課題テキストに関するレポートの文献表の作成練習 8. 中間レポートの返却・説明 9. テーマⅡ：テキストの輪読とディスカッション 10. 課題テキストの要約作り 11. 課題テキストを使った文献表の作成練習 12. 課題テキストを使って期末レポート作成準備 13. 課題テキストを使ったディスカッションの練習 14. 総括

到達目標	文献の内容要約や、自分の考えをグループおよび個人で口頭で発表し、さらにレポートとしてまとめ提出できるようにする。
事前・事後学修の内容	各クラス教員によって指定されたテキスト事前に精読すること。積極的にディスカッションに参加することが求められる。
テキスト	各担当教員による指示。
参考文献	テキストと同様に、各担当教員による指示。
評価方法	授業参加（発表・討論）20%、レポート評価 80%から総合的に判断します。

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、より専門的な内容について、適宜ディスカッションやディベートなども取り入れながら、「知のスキル」を高めることを目的とします。 「グループ発表」「個人発表」の順序、やり方は、クラスの状況に応じて変更する可能性もあります。３年次からの専門演習で扱うテーマを意識しながら、自分のテーマを絞っていきます。また演習の内容に即して中間、期末レポートを二回提出してもらいます。 ＊なお、3年次意向の「専門演習」の履修は、「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱ」、および「基礎演習ⅠまたはⅡ」を履修済みであることが条件となります。	1. オリエンテーション（＊各クラスによってテーマが異なるので必ず出席すること） 2. プレゼンテーションの練習 3. グループ発表（共通テーマでディスカッションの練習） 4. グループ発表（共通テーマでディベートの練習） 5. 個人発表（各自の個別の研究テーマの発表） 6. 個人発表（各自の個別の研究テーマの発表） 7. 個人発表（各自の個別の研究テーマの発表） 8. 中間レポートの返却 9. 個人発表（各自の個別の研究テーマの発表） 10. 個人発表（各自の個別の研究テーマの発表） 11. 個人発表（各自の個別の研究テーマの発表） 12. 個人発表（各自の個別の研究テーマの発表） 13. 個人発表（各自の個別の研究テーマの発表） 14. 総括

到達目標	文献の内容要約や、自分の考えをグループおよび個人で口頭で発表し、さらにレポートとしてまとめ提出できるようにする。
事前・事後学修の内容	各クラス教員によって指定されたテキスト事前に精読すること。積極的にディスカッションに参加することが求められる。
テキスト	各担当教員による指示。
参考文献	テキストと同様に、各担当教員による指示。
評価方法	授業参加（発表・討論）20%、レポート 80%から総合的に判断します。

09 年度以降	通訳特殊演習	担当者	中山　純

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では将来日独の通訳者あるいは通訳ガイドとして働くことを考えている学生を対象に、そのような仕事に就くうえで必要な語学力を身につけるための学習計画の立て方や練習方法を紹介し、現在の力でもできるものについては練習していきます。 通訳の仕事は音声で聞き、理解した内容を音声で伝える仕事なので、明瞭な発音、聞きやすい声、内容を整理した話し方が求められます。また、話の内容を正確に記憶する力も必要です。このような通訳の基本的なスキルの強化練習を通して、少しでもドイツ語力の向上に努めます。 通訳者の仕事は高い職業意識と責任感が求められます。学生時代から、そのような意識を持った積極的な勉学の姿勢を持つ学生の受講を歓迎します。	1. 授業の進度計画と学習目標について 2. 通訳の仕事から伺える必要なスキル 3. 通訳スキルとは何か 4. 通訳者は何を訳すのか - 教室訳との違い 5. 日本語から日本語へ訳す - 訳すことの意味 6. 情報の圧縮とパラフレイズ - 自然な訳とは 7. 自分のドイツ語力の検証と課題の発見 - 聴解 8. ドイツ語運用力の検証と課題の発見 - 発話 9. メッセージ内容の理解 - 発話意図を考える 10. 逐次通訳の練習（1） - ドイツ語から日本語へ 11. 逐次通訳の練習（2） - 日本語からドイツ語へ 12. 通訳に必要な一般教養 - 語学力以外の前提条件 13. 通訳者へのキャリアパスを考える 14. 春学期のまとめと達成目標の確認

到達目標	ドイツ語通訳の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前の下調べや課題の練習、授業時に紹介した時事ニュース等の検証などを求めます。
テキスト	テキストと資料はプリントで授業時に配布します。
参考文献	必要に応じて参考文献リストを授業時に配布します。
評価方法	授業への参加度（40%）、課題の達成度（40%）、学習目標の総合的な達成度（20%）を考慮して判定します。

09 年度以降	通訳特殊演習	担当者	中山　純

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期の授業では来年夏に開催されるオリンピックなどを念頭において、来日する観光客などに対応する都市ボランティアやガイド通訳に求められる技術や知識を紹介していきます。将来に日独会議通訳者を目指している人にとっても、入口の仕事としてボランティア通訳は適しているでしょう。 授業を通してボランティアとしての心構え、必要な語学力のレベル、案内に必要な知識とガイディングの方法などを学びます。 春学期と同じく具体的な仕事を目指す授業なので、積極的に課題に取り組み意欲と姿勢を持った学生の受講を歓迎します。	1. 授業の進度計画と学習目標について 2. ガイド通訳者の仕事とは 3. 通訳を必要とする場面シラバス 4. コース設定と時間管理 5. ストーリーボードによる場面と会話の確認 6. 言葉の準備 - 準備に必要な視点 7. ロールプレイ（1） - 交通手段を案内する 8. ロールプレイ（2） - 観光地を案内する 9. 日本の生活習慣を説明する 10. 背景知識の習得方法 11. ロールプレイ（3） - 課題解決型ガイド 12. マニュアルの確認 13. ボランティア通訳者に求められる資質 14. 秋学期のまとめと到達目標の確認

到達目標	ドイツ語通訳の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前の下調べや場合によってはフィールドワークを課します。
テキスト	テキストや資料はプリントで授業時に配布します。
参考文献	必要に応じて参考文献を授業時に紹介します。
評価方法	授業への参加度（40%）、課題の達成度（40%）、学習目標の総合的な達成度（20%）を考慮して判定します。

09 年度以降	翻訳特殊演習	担当者	上田　浩二

講義目的、講義概要	授業計画
中学･高校で（あるいは大学でも）「訳す」というと、授業で当てられてから口頭でなんとか日本語らしきものにすることと思うだろうが、それは「訳読」という昔からの方法であって、①単語を調べてきたか、②文章の構造を理解したかのチェックが目的であり、「翻訳」とはことなる。 翻訳は、この①と②を前提にして、日本語として完成された文章に転換することであって、原文の単語や構造をそのまま日本語に置き換えることではない。そのためには、「どのような情報を伝えようとしているのか」、「なにを言いたいのか」をしっかり理解して、読むひとが誤解の余地なく分かる日本語にすることだ。もちろん専門用語や時事用語は、きちんと調べて訳さなければならない。 授業では毎週ドイツ語のテキスト（15~30行）程度を渡すので、それを訳してメールで提出してもらい、それを整理して解説･コメントする。	1. 実例で授業の進め方を紹介 2. 日本に関するドイツ語テキストの訳例 3. 日本社会に関するドイツ語テキスト 4. 日本人に関するドイツ語テキスト 5. ドイツ社会に関するテキスト 6. ドイツ人の傾向に関するテキスト 7. ドイツの政治関連のテキスト 8. 中間まとめ 9. 国際問題に関する新聞記事 10. 国内問題に関する新聞記事 11. 外国人問題に関する新聞記事 12. 長めの日本関連記事 13. 長めのドイツ事情に関する記事 14. まとめ

到達目標	ドイツ語翻訳の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語翻訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、課題を出すのでそれをメールで提出する。
テキスト	教員が用意する。
参考文献	特になし
評価方法	授業 3 週目から提出された訳（全 12 回）を、各回 10 点満点で採点し、その合計点で評価する。

09 年度以降	インターンシップ特殊演習	担当者	K．ニーヴァルダ

講義目的、講義概要	授業計画
Der Unterricht bereitet auf ein Firmenpraktikum und den Aufenthalt bei einer Gastfamilie in Deutschland vor, er vermittelt Hintergrundwissen über Deutschland und die deutsche Gesellschaft, über Gewohnheiten, Handlungsweisen und Erwartungen deutscher Firmen und deutscher Familien. Wir üben u.a. Gespräche mit Kollegen und Chefs, schreiben E-Mails und Geschäftsbriefe, lernen wichtige Ausdrücke und üben, wie man z. B. Vorschläge macht und in Problemsituationen seine Meinung ausdrückt. Die Festlegung des Unterrichtsplans erfolgt in Absprache mit den Teilnehmenden und auf Basis der Erfahrungen früherer InternshipteilnehmerInnen.	1. Einführung 2. Was ist ein Praktikum? 3. Lebenslauf 4. Bewerbungsschreiben 5. Selbstvorstellung 6. Hintergrundwissen über Deutschland 7. Gesellschaft 8. Kultur 9. Firmen, andere Praktikumstellen 10. Leben in Deutschland 11. Kontakte in der Arbeitswelt 12. Verhalten während des Praktikums 13. Wirtschaftsdeutsch 14. Zusammenfassung und Test

到達目標	ドイツ語圏のインターンシップに必要な知識等を習得するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語圏での働き方や自己の職能・適性等を発見できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vorbereitung von Texten, Hausaufgaben, Vor- und Nachbereitung, Wiederholung
テキスト	Kopien werden im Unterricht verteilt.
参考文献	特になし
評価方法	Aktive Mitarbeit 30%, Präsentation 30%, Test 40%

09 年度以降	留学準備特殊演習	担当者	M．ラインデル

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs können Sie sich inhaltlich und sprachlich auf ein Fachstudium in Deutschland, Österreich oder der Schweiz (D-A-CH) vorbereiten. Sie erweitern Ihr Wissen über Kultur und Gesellschaft der drei Länder, Sie lernen mehr über praktische Probleme des Lebens an der Universität und Sie beschäftigen sich mit kommunikativen Situationen, die man während eines Auslandsstudiums erleben kann. Dabei nutzen wir auch die Erfahrung älterer Dokkyo-Kommilitonen und den Rat von Austauschstudierenden. Sprachlich lernen Sie, in Situationen rund ums Studium zu handeln, aber auch wie man Nicht-Japanern etwas über Japan erklären kann. Natürlich lernen Sie auch viel Fachwortschatz zum Thema Studium u.a. Die Kurssprache ist Deutsch.	1. Vorstellung: Kurskonzept / Ihre Interessen 2. Universitäten in D-A-CH (Deutschl.-Österr.-Schweiz) 3. Studieren in D-A-CH 4. Situationen an der Universität 5. Wohnen in D-A-CH 6. Studentenleben 7. Gesellschaft und Kultur in D-A-CH 8. Probleme und ihre Lösung 9. Japan erklären: Gesellschaft 10. Japan erklären: Kultur 11. Fragerunde mit deutschen Studierenden/Experten 12. Präsentationen (Gruppe A) 13. Präsentationen (Gruppe B) 14. Präsentationen (Gruppe C, Abschlussdiskussion)

到達目標	ドイツ語圏の留学生活に必要な知識等を習得するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語圏大学への長期留学に必要な要件を備えることができるようにする。
事前・事後学修の内容	In jeder Stunde gibt es eine kleine Hausaufgabe. Z. B. lesen Sie einen kurzen Text und präsentieren Ihrer Gruppe die wichtigsten Informationen. Außerdem: Inhalte und Wortschatz wiederholen!
テキスト	Materialien werden im Kurs verteilt.
参考文献	Mögliche Begleitlektüre wird im Unterricht vorgestellt.
評価方法	Aktive Mitarbeit (30%), schriftliche Hausaufgaben (30%), eine Präsentation (30%), Minitests (10%).

09 年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	M．ラインデル

講義目的、講義概要	授業計画
SCHWERPUNKT: SPRACHLICHES LERNEN In diesem Kurs lernen Sie das Lernen im *Tandem* kennen. Wir arbeiten zusammen mit Japanisch lernenden Studierenden der Universität Regensburg. Alle Teilnehmer bekommen eine(n) Partner(in). Sie sprechen sich zwei Mal in der Woche auf Deutsch und Japanisch; einmal im Unterricht und einmal zu Hause. Dabei lernen Sie die Lebenswelt Ihrer Partner(innen) kennen. Wenn Sie teilnehmen möchten, sollten Sie: - ein Sprachniveau von **mindestens A2.2** haben - motiviert sein, außerhalb des Unterrichts einmal pro Woche mit Ihrem/Ihrer Partner(in) zu skypen. この授業の定員は10人前後です。第一回目の授業で（4月11日）履修選抜を行いますので、絶対参加して下さい。	1. Vorstellung: Kurskonzept / Ihre Interessen 2. *Erste Videokonferenz: Kontaktaufnahme* 3. Ihre Themen / Ihre Lernziele 4. Thema: Kennenlernen 5. Thema: Hobbys und Interessen 6. Thema: Heimat 7. Thema: Studentenleben 8. Thema: Fremdsprachen 9. Thema: Zukunftspläne 10. Vorbereitung Präsentation (Thema, Struktur) 11. Vorbereitung Präsentation (Ausarbeitung) 12. *Zweite Videokonferenz: Präsentationen* (Gruppe A) 13. *Dritte Videokonferenz: Präsentationen* (Gruppe B) 14. Kursfazit

到達目標	ドイツ語教育の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、外国語教育、とりわけドイツ語教育に携わるうえで必要な素養を備えることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Die Teilnehmer führen wöchentlich einen Skype-Chat mit ihrem Partner/ihrer Partnerin durch. Sie bereiten mündliche Berichte vor oder berichten schriftlich auf dem Kursblog.
テキスト	Das Textmaterial wird im Unterricht verteilt bzw. von den Teilnehmenden selbst recherchiert.
参考文献	Mögliche Begleitlektüre wird im Unterricht vorgestellt.
評価方法	Bewertet werden die regelmäßige, aktive Mitarbeit am Unterricht (20%) und in den Tandems (30%), die Beiträge auf dem Blog (20%) sowie die Präsentation (30%).

09 年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	M．ラインデル

講義目的、講義概要	授業計画
SCHWERPUNKT: FACHLICHES LERNEN Dieser Kurs ist ein *Fachkurs*, der gemeinsam mit der Japanologie einer deutschen Universität veranstaltet wird. Sie beschäftigen sich vergleichend mit gesellschaftlichen Fragen in Deutschland und Japan. Dabei lernen Sie, mit deutschen Studenten an einem kleinen *Forschungsprojekt* zu arbeiten und das Ergebnis zu präsentieren. Sie sprechen sich zwei Mal in der Woche mit Ihren Partner(inne)n in Deutschland, einmal im Unterricht und einmal zu Hause, um an Ihrem Thema zu arbeiten. Wenn Sie teilnehmen möchten, sollten Sie: - ein Sprachniveau von **mindestens B1** haben - motiviert sein, außerhalb des Unterrichts ein Mal pro Woche mit Ihrem Partner zu skypen. この授業の定員は10人前後です。第一回目の授業で（9月26日）履修選抜を行いますので、絶対参加して下さい。	1. Vorstellung: Kurskonzept / Ihre Interessen 2. Einstieg ins Kursthema 3. *Erste Videokonferenz: Kennenlernen* 4. Überblick über das Kursthema 5. Ihr Thema: Ihre Fragestellung 6. Ihr Thema: Formulierung von Forschungsfragen 7. Ihr Thema: Auswahl von Erhebungsinstrumenten 8. Ihr Thema: Planung der Erhebung 9. Ihr Thema: Durchführung der Erhebung 10. Ihr Thema: Aufbereitung/Auswertung der Daten 11. *Zweite Videokonferenz: Präsentationen* (Gruppe A) 12. *Dritte Videokonferenz: Präsentationen* (Gruppe B) 13. *Vierte Videokonferenz: Präsentationen* (Gruppe C) 14. Kursfazit

到達目標	ドイツ語教育の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、外国語教育、とりわけドイツ語教育に携わるうえで必要な素養を備えることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Die Teilnehmer führen wöchentlich einen Skype-Chat mit ihrem Partner/ihrer Partnerin durch, für den sie selbstständig Informationen recherchieren, und kommunizieren auf der Kursplattform.
テキスト	Das Textmaterial wird im Unterricht verteilt bzw. von den Teilnehmenden selbst recherchiert.
参考文献	Mögliche Begleitlektüre wird im Unterricht vorgestellt.
評価方法	Bewertet werden die regelmäßige, aktive Mitarbeit am Unterricht (20%) und die Zusammenarbeit mit den Partnern (30%), die Beiträge auf der Kurs-Plattform (20%) sowie die Präsentation (30%).

09 年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	上田　浩二

講義目的、講義概要	授業計画
外国語教育では、「読む」・「聞く」・「話す」・「書く」を4技能と呼び、このうち前者ふたつは「パッシブ」な能力、後者ふたつは「アクティブ」な能力としている。少し考えてみると分かるが、一定の年齢になってから学ぶ外国語の場合には、一般的に言って前者ふたつの能力が高くないのに後者が高いということはあり得ない。その意味で、あまり注目されないこの基礎部分に当たる能力の向上のために、実際に課題をこなしながら考えていく。そのうえで、出てくる表現を使いながら，話す・聞くことの練習につなげていく方法を学んでいく。かなりの準備が必要なので、やる気と時間が必要となる。	1. 実例で授業方法を紹介 2. 単語に関わる翻訳課題 3. 熟語に関わる翻訳課題 4. 単純な文構造の翻訳 5. 複雑な文構造の翻訳 6. 内容展開に関わる課題 7. 文脈理解に関わる課題 8. 内容要約の課題 9. 中間まとめ 10. 聞き取りへの導入 11. 短文中心の聞き取り 12. 聞き取った長めのテキストの聞き取り 13. 聞き取った内容をまとめる課題 14. まとめ

到達目標	ドイツ語教育の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、外国語教育、とりわけドイツ語教育に携わるうえで必要な素養を備えることができるようにする。
事前・事後学修の内容	実例として毎週さまざまな課題を課し、授業の前日までに課題の訳を提出してもらう。
テキスト	教員が配布。
参考文献	特になし
評価方法	10 回の課題に答えをメールで提出させ、その合計点で評価とする。

09 年度以降	ドイツ語概論 a	担当者	金井　満

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標とする。 講義科目ではあるが、教員が話し、学生はノートを取るというような一方向的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を取りたい。講義は、まずは言語についての一般的な問題を取り上げる。言語学概論と重なる部分も出てくるとは思うが、できるだけドイツ語との比較も含めて進めていきたい。	1. ことばの不思議 – 導入と年間計画 2. ことばの不思議（ヨーロッパの国々と言語） 3. ことばの不思議（ことばとは何か） 4. ことばの不思議（記号とことば） 5. ドイツ語の履歴書 – ドイツ語史（ドイツの成り立ち） 6. ドイツ語の履歴書 – ドイツ語史（ドイツとドイツ語） 7. それってドイツ語 – ドイツ語の方言 8. 文法のお話（1）– 品詞ってなに 9. 文法のお話（2）– 木を見て森を見ず 10. 文法のお話（3）– パンドラの箱 11. 辞書は大きなおもちゃ箱 12. 言語というブラックホール 13. 言語のたのしみ 14. まとめ

到達目標	ドイツ語学に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義中に見いだされた疑問への自分なりの解答の模索
テキスト	適時講義で指示
参考文献	適時講義で指示
評価方法	出席シートへの授業内容のまとめ、復習を点数化してその合計で評価（100%）

09 年度以降	ドイツ語概論 b	担当者	金井　満

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標とする。 講義科目ではあるが、教員が話し、学生はノートを取るというような一方向的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を取りたい。講義は、範囲の比重をドイツ語に移して、言語の問題を様々な側面から扱うことによって深めていきたい。	1. 言語は怪人二十面相 2. 言語学の歴史 3. 音の世界 – 音声学・音韻論 4. 形にこだわって – 形態論 5. 文の組み立てについて – 統語論 6. 意味って何（1） – 意味論（意味とは？） 7. 意味って何（2） – 意味論（意味論概説） 8. 言語は生き物（1） – 実用論（それは真か？） 9. 言語は生き物（2） – 実用論（発話行為） 10. 言語哲学 –ヴィットゲンシュタイン 11. 言語と社会 – 社会言語学 12. 言語と心 – 言語心理学あるいは認知 13. 言語研究への道 14. まとめ

到達目標	ドイツ語学に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義中に見いだされた疑問への自分なりの解答の模索
テキスト	適時講義で指示
参考文献	適時講義で指示
評価方法	出席シートへの授業内容のまとめ、復習を点数化してその合計で評価（100%）

09 年度以降	ドイツ語圏文学・思想概論 a	担当者	渡部　重美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　いわゆるゲーテ時代のさまざまな人間観について吟味し、できるだけ現代の人間観、人間が抱える諸問題などと関連づけながら考察することを目標とします。 ＜講義概要＞ 　イマヌエル・カントのエッセイ「啓蒙とは何か？」を読んで当時の人間観について概観したのちに、同時代の他の文学作品などから人間に関する描写、考察、分析をしている箇所を拾い出して読んで行きます。	1. オリエンテーション／クニッゲ『人間交際術』 2. カント『啓蒙とは何か』を読む 3. カントの定義する「啓蒙」とは何か？ 4. 「啓蒙」によって得られるもの，失われるもの 5. ゲーテ『若きヴェルターの悩み』を読む 6. 「ヴェルター的悩み」とは何か？ 7. シラー『招霊妖術師』を読む 8. 「啓蒙」の時代とオカルト・ブーム 9. ゲーテ『ファウスト』を読む 10. 人間を「調合」？する 11. 『ファウスト』第二部、最終場面について 12. 『魔笛』を見る 13. 『魔笛』を読む 14. まとめ

到達目標	ドイツ語圏の文学・思想に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の文献を事前に読み、あらかじめドイツ文学史を概観しておくといいでしょう。 手塚富雄、神品芳夫『増補　ドイツ文学案内』岩波文庫
テキスト	必要に応じてコピーで配布します。
参考文献	必要に応じて指示します。
評価方法	毎回の授業で提出していただくリアクションペーパー（30%）と、学期末の筆記試験（70%）により評価します。

09 年度以降	ドイツ語圏文学・思想概論 b	担当者	渡部　重美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　ドイツ語で書かれた代表的な文学作品を、いわゆるジャンルごとにいくつか取り上げ、ジャンルとしての特徴などを検討しながら、楽しむ（深読みする？）ことを目標とします。 ＜講義概要＞ 　右記の通り、ドイツ語で書かれたメルヒェン、詩、小説、ドラマの各ジャンルから代表作品を選び、内容を概観した上で、いろいろな視点から解釈（つまり、深読み）して行きます。	1. オリエンテーション 2. メルヒェン：グリム兄弟とメルヒェン 3. メルヒェン：グリム童話書き換えの問題 4. メルヒェン：グリム童話のパロディー 5. ドイツの詩：韻律論入門 6. ドイツの詩：中世～17世紀の詩 7. ドイツの詩：18世紀の詩 8. ドイツの詩：19世紀～現代の詩 9. ドイツの小説：フケー『ウンディーネ』 10. ドイツの小説：E.T.A.ホフマン『砂男』 11. ドイツの小説：『砂男』のフロイト的解釈 12. ドイツのドラマ：レッシング『賢者ナータン』 13. ドイツのドラマ：シラー『群盗』 14. まとめ

到達目標	ドイツ語圏の文学・思想に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の文献を事前に読み、あらかじめドイツ文学史を概観しておくといいでしょう。 手塚富雄、神品芳夫『増補　ドイツ文学案内』岩波文庫
テキスト	必要に応じてコピーで配布します。
参考文献	必要に応じて指示します。
評価方法	毎回の授業で提出していただくリアクションペーパー（30%）と、学期末の筆記試験（70%）により評価します。

09 年度以降	ドイツ語圏の言語 a	担当者	黒子　葉子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、ことばの世界をより深く知り、調査・研究するために基礎となる概念を解説します。 春学期には、語、句、文といったまとまりがどのような仕組みで成り立っているのかという疑問から出発して、具体例を見ながら、ドイツ語の文法的特徴を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。また、ドイツ語の歴史や、地域的なヴァリエーションについても概観します。 講義の内容や順番は、受講者の関心に応じて、多少変更する可能性もあります。	1. ガイダンス、講義概要 2. インド・ヨーロッパ語族の研究史 3. ドイツ語の通時的変化 4. 標準ドイツ語の成立 5. ドイツ語の地域的なヴァリエーション 6. 方言をめぐる諸問題 7. 発声のメカニズム 8. 外国語の音声習得はなぜ難しいのか 9. 語の構造－形態素分析 10. 語形成の種類 11. ドイツ語の借用語の歴史 12. 統語構造の多義性 13. 格標示と語順の関係 14. 春学期のまとめ

到達目標	ドイツ語学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の講義内容をよく復習し、疑問点があれば質問してください。
テキスト	授業内でレジュメと資料プリントを配布します。
参考文献	授業内で指示します。
評価方法	毎回のコメントペーパー（50%）と、学期末の筆記試験（50%）に基づき評価します。

09 年度以降	ドイツ語圏の言語 b	担当者	黒子　葉子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期には、主に語や文の内部構造を観察しましたが、秋学期には、語や文の示す意味や、実際の運用の仕方、コミュニケーション上の意図などについて解説します。 春学期の講義内容を理解していることを前提にお話ししますが、秋学期からの履修も歓迎します。 秋学期も多くの例を見ながら、皆さんに考えてもらう形で進めていきます。それによって、今まで意識することのなかった「ことばの機能」を発見することが、この講義の目的です。 講義の内容や順番は、受講者の関心に応じて、多少変更する可能性もあります。	1. ガイダンス、講義概要 2. ドイツ語の文字の歴史 3. 文法的性と格標示に関する言語間の差異 4. 「意味」の意味－内包と外延 5. 語の内包はいかに定義されうるのか－方法論比較 6. 意味に関する言語形式の違い－相対主義と普遍主義 7. 発話状況によって変化する意味 8. コミュニケーションの諸要因 9. 発話行為理論 10. 対人関係と言語的配慮 11. ドイツ語と日本語の言語行動の違い 12. ドイツ語圏の広がり 13. 言語と社会 14. 秋学期のまとめ

到達目標	ドイツ語学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の講義内容をよく復習し、疑問点があれば質問してください。
テキスト	授業内でレジュメと資料プリントを配布します。
参考文献	授業内で指示します。
評価方法	毎回のコメントペーパー（50%）と、学期末の筆記試験（50%）に基づき評価します。

09 年度以降	ドイツ語圏の文学 a	担当者	矢羽々　崇

講義目的、講義概要	授業計画
グリムをはじめとするドイツ語圏のメルヒェンを知り，現在の私たちにとっての意味を考えます。 メルヒェンとは何か。メルヒェンが「今」の「日本」を生きている「私たち」にどのような意味を持っているのか。 そうしたことを，グリムや他のメルヒェンを読みながら，皆さんと一緒に考えていきます。 受講者は，積極的に授業に参加してください。	1. 導入 2. メルヒェンの法則性 3. グリム以前のメルヒェン 4. グリム・メルヒェンの成立 5. グリム・メルヒェンの書き換え（「白雪姫」初期稿〜初版） 6. グリム・メルヒェンの書き換え（「白雪姫」〜第7版） 7. グリム・メルヒェンと時代のつながり 8. ロマン派などの創作メルヒェン 9. アンデルセンのメルヒェン（「マッチ売りの少女」） 10. 20世紀のメルヒェンのありかた 11. メルヒェンの映像化 12. 明治期日本でのグリム受容 13. 現代日本でのグリム受容 14. まとめと最終授業時筆記試験

到達目標	ドイツ文学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱うオリジナル作品を読んでおくと，授業が数倍楽しめます。
テキスト	野村泫訳『グリム童話集』ちくま学芸文庫，2005–2007 年他。授業時にコピーを配布します。
参考文献	授業時に適宜指示します。
評価方法	授業時レポート 70%と最終授業時筆記試験 30%で評価します。3 回以上の欠席は評価の対象としません。

09 年度以降	ドイツ語圏の文学 b	担当者	矢羽々　崇

講義目的、講義概要	授業計画
グリムから現代までのドイツ語圏の子どもと青少年の文学（Kinder- und Jugendliteratur)を知り，現在の私たちにとっての意味を考えます。 「児童」や「子ども」のための「文学」というのは，日本でもドイツ語圏でも19世紀の発明です。「子どものための文学」の名のもとに，どのような「子ども」と「文学」が求められ，どのように「大人の文学」と区別された（されなかった）のかなどを，具体例をもとに皆さんと一緒に考えていきます。 なお，春学期の「ドイツのメルヒェン」と，グリムに関する事項などで若干の重複があります。	1. 導入 2. 18世紀までの子どもと青少年の文学 3. 「子どもと家庭の」グリム・メルヒェン 4. さまざまな「白雪姫」（グリム以前〜現代まで） 5. 19世紀 〜 アンデルセン 6. 19世紀 〜 絵本の誕生（『もじゃもじゃペーター』ほか） 7. 19世紀 〜 少女の物語（『ハイジ』） 8. 20世紀 〜 動物物語の隆盛（『バンビ』） 9. 20世紀 〜 戦争との対峙（『動物会議』） 10. 20世紀 〜 読者の役割（『はてしない物語』） 11. 20世紀 〜 ファンタジーとは？（『魔法の声』） 12. 20世紀 〜 核の問題と子ども文学（『見えない雲』） 13. 日本における受容 14. まとめ

到達目標	ドイツ文学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱うオリジナル作品を読んでおくと，授業が数倍楽しめます。
テキスト	授業時にコピーを配布します。
参考文献	授業時に適宜指示します。
評価方法	授業時レポート 70%，最終レポート 30%で評価します。3 回以上の欠席は評価の対象としません。

09 年度以降	ドイツ語圏の思想 a	担当者	工藤　達也

講義目的、講義概要	授業計画
主としてドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していくつもりです。 具体的にどこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。 またドイツ語圏に限定せず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な講時代を追っていくのにじっくり急がないつもりですが、しかし今学期もせめてカントまでは触れます。ドイツ語学科以外の学生の受講も歓迎します（ドイツ語の知識は前提にしない)。	1. はじめに 2. 古典について　古代ギリシャ哲学 3. 古典について　ラテン語文化とローマ帝国 4. キリスト教：ローマ・カトリックとプロテスタント 5. ルネッサンス 6. デカルトの思想 7. カントの思想（1）－純粋理性批判 8. カントの思想（2）－実践理性批判 9. カントの思想（3）－啓蒙の時代 10. カントの思想（4）－判断力の問題 11. ドイツ観念論（1）－フィヒテ 12. ドイツ観念論（2）－ナショナリズム 13. ドイツ観念論（3）－ロマン派 14. 総括

到達目標	ドイツ語圏の哲学や思想に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ヨーロッパ文化の初歩的知識を持つ者が、修了後に 18 世紀ドイツ啓蒙までの思想文化の概略を把握する。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	配布したプリントの中で紹介します。
評価方法	期末テスト（80%)、平常点（20%）に基づいて評価を行う。

09 年度以降	ドイツ語圏の思想 b	担当者	工藤　達也

講義目的、講義概要	授業計画
主にドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していく。春学期の講義の続きではありますが、別個に受講してもよい。具体的な目標として、どこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。今学期の講義に出ればたぶん、ニーチェの『道徳の系譜』は読めるくらいにはなれます。テーマはドイツ語圏に限定されず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な講義ではないので興味のある学生は聴講してほしい。ドイツ語学科以外の学生も歓迎すします（ドイツ語の知識は前提にしない)。今学期もハイデガーやベンヤミンなど現代思想に触れられたらいい。現代思想ゆえの過激な展開になります。関心がある学生は歓迎します。	1. はじめに 2. ロマン派 3. ヘーゲルとマルクス 4. 若いマルクスと『資本論』のマルクス 5. 『資本論』と宗教批判 6. マルクス主義と現代思想（1）－ルカーチ 7. マルクス主義と現代思想（2）－ベンヤミン 8. ニーチェ（1）－ツァラトゥストラ 9. ニーチェ（2）－ニーチェ・コントラ・ヴァグナー 10. ニーチェ（3）－道徳の系譜 11. ハイデガー（1）－実存思想 12. ハイデガー（2）－本来性の問題 13. ハイデガー（3）－現存在分析の射程 14. 総括

到達目標	ドイツ語圏の哲学や思想に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ヨーロッパ文化の初歩的知識を持つ者が、修了後には 19 世紀以降の思想の概略を把握している。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	配布したプリントの中で紹介します。
評価方法	期末テスト（80%)、平常点（20%）に基づいて評価を行う。

09 年度以降	テクスト研究（語学・(文学)・思想） a	担当者	D．フジサワ

講義目的、講義概要	授業計画
Was ist Literatur? Mit einer Auswahl von verschiedenen Textsorten wird in diesem Kurs versucht, diese Frage zu beantworten. Dabei soll auch die Beziehung von Inhalt und Form im Zentrum stehen und auf die literaturtheoretischen Konzepte „Tod des Autors“, „Literarizität“ und „symbolic compentence“ eingegeangen werden. Es gilt Literatur aus einem völlig anderen Blickwinkel zu betrachten. Alle Texte werden in Partnerarbeit bzw. Gruppenarbeit gelesen und besprochen. Zudem wird von jedem Studierenden der Roman „Das doppelte Lottchen“ zu Hause gelesen und eine Präsentation zu einem freien Text erarbeiteit. Eine Posterpräsentation bildet den Abschluss des Kurses.	1. Semestereinführung 2. Der Roman „Das doppelte Lottchen“ 3. Lyrik I „Der Zauberlehrling" 4. Lyrik II „Der Handschuh“ 5. Lyrik III „John Maynard“ 6. „Der Froschkönig oder der eiserne Heinrich“ I - Interprstation 7. „Der Froschkönig oder der eiserne Heinrich“ II - Diskussion 8. „Max Frischs Fragebogen“ I - Ausarbeitung 9. „Max Frischs Fragebogen“ II - Vorstellung 10. „Die schreckliche deutsche Sprache“ I - Analyse 11. „Die schreckliche deutsche Sprache“ II - Vorstellung 12. Posterpräsentation I - Gruppe A, B und C 13. Posterpräsentation II - Gruppe D, E und F 14. Kursabschluss

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Alle Texte müssen zu Hause vorbereitet werden. Fragen zu den verschiedenen Texten dienen der Nachbreitung. Der Roman „Das doppelte Lottchen“ ist außerhalb des Unterrichts zu lesen.
テキスト	Die Texte werden im Unterricht zur Verfügung gestellt.
参考文献	特になし
評価方法	Vorbereitung der Texte und Mitarbeit im Unterricht 20%; Vorstellung eines beliebigen Textes 20%; Posterpräsentation und Zusammenfassung des Romans „Das doppelte Lottchen“ 60%

09 年度以降	テクスト研究（語学・(文学)・思想） b	担当者	D．フジサワ

講義目的、講義概要	授業計画
Das Konzept der Litararizität verfolgt die Idee, dass jeder Text ein literarischer Text sein kann. Es steht weniger der Text selbst, als vielmehr die sprachliche Gestalt und Struktur des Textes im Mittelpunkt. Dieser Kurs widmet sich dem Konzept der Literarizität näher und behandelt auch Texte, die konventionell nicht zu literarischen Texten zählen. Alle Texte werden in Partnerarbeit bzw. Gruppenarbeit gelesen und besprochen. Zudem wird von jedem Studierenden der Roman „Krabat“ zu Hause gelesen und eine Präsentation zu einem freien Text erarbeiteit. Eine Posterpräsentation bildet den Abschluss des Kurses.	1. Semestereinführung 2. Der Roman „Krabat“ 3. Lyrik I „Die Forelle“ 4. Lyrik II „Der Panther“ 5. Lyrik III „Hund und Katze“ 6. „Hänsel und Gretel“ I - Interpretation 7. „Hänsel und Gretel“ II - Diskussion 8. „Der alte Mann und das Meer“ in Auszügen I - Interpretation 9. „Der alte Mann und das Meer“ in Auszügen II - Diskussion 10. „Wie ich eines schönen Morgens im April das 100%ige...“ 11. Posterpräsentation I - Gruppe A und B 12. Posterpräsentation II - Gruppe C und D 13. Posterpräsentation III - Gruppe E und F 14. Kursabschluss

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Alle Texte müssen zu Hause vorbereitet werden. Fragen zu den verschiedenen Texten dienen der Nachbreitung. Der Roman „Krabat“ ist außerhalb des Unterrichts zu lesen.
テキスト	Die Texte werden im Unterricht zur Verfügung gestellt.
参考文献	特になし
評価方法	Vorbereitung der Texte und Mitarbeit im Unterricht 10%; die Vorstellung eines beliebigen Textes 30%; Posterpräsentation des Romans „Krabat“ 30%; Zusammenfassung des Romans „Krabat“ 30%

09 年度以降	テクスト研究（語学・文学・(思想)　a	担当者	Ｊ．シュトライト

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs arbeiten wir mit Lese-Einführungen zu den Werken einiger bedeutender deutscher Philosophen, u.a. Kant, Dilthey und Wittgenstein. Wie denkt man philosophisch? Als erster Schritt der Annäherung an diese großen Denker soll anhand kurzer bis mittellanger (Original-)Texte ein Einblick in ihre Verfahrensweise verschafft werden. In Abgrenzung zur Religion auf der einen und zur Wissenschaft auf der anderen Seite kennt nämlich auch die Philosophie ihre eigenen Methoden. Zu erkennen, dass diese gar nicht so lebensfremd sind, ist ein Ziel dieses Kurses. Die Textauszüge werden zuerst gemeinsam gelesen und besprochen, woraus Fragen und im Einzelnen Interesse an Vertiefung (bzgl. Präsentation) resultieren mögen.	1. Einführung und Überblick 2. Die deutsche Aufklärung (S. 206-208) 3. Hauptvertreter der Aufklärung in Deutschland 4. Die Aufklärung in der deutschen Literatur 5. Der Idealismus: Einteilung (S. 209-210) 6. Der gute Wille. Die Pflicht. (S. 223-225) 7. Bewusstsein bei Hegel (S. 256-261) 8. Hegel: Sinnliche Gewissheit und Wahrnehmung 9. Hegel: Selbstbewusstsein 10. Die Lebensphilosophie (S. 324-326) 11. Der Wiener Kreis (S. 328-330) 12. Die Philosophie der Existenz (S. 341-345) 13. Präsentationen (Biographische) 14. Präsentationen (Thematische)

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Wiederholung mit vollständiger Klärung des Vokabulars, im Einzelfall Übersetzungen ins Japanische.
テキスト	Kopien werden zu Beginn und im Laufe des Semesters verteilt.
参考文献	Ludwig, Ralf: Philosophie für Anfänger - von Sokrates bis Sartre. DTV München 2015
評価方法	Aktive Mitarbeit im Unterricht 30%, schriftliche Hausaufgaben 20% und eine Präsentation 50%.

09 年度以降	テクスト研究（語学・文学・(思想)　b	担当者	Ｊ．シュトライト

講義目的、講義概要	授業計画
Im Anschluss an die Arbeit im ersten Semester, die drei Jahrhunderte überspannte, wenden wir uns nun einem Philosophen des 20. Jahrhunderts zu: Karl Jaspers. Sein Werk, verstanden als neugieriges Denken, und sein Leben, das durch seine unbeugsame Haltung gegenüber der NS-Diktatur geprägt ist, sind Gegenstand unserer Recherchen. Wir lesen Auszüge aus seinem "Lesebuch" *Was ist Philosophie?* Die Textauszüge werden zuerst gemeinsam gelesen und besprochen. Schon im Laufe der Diskussionen finden die Studierenden selbst ein Thema für das Referat am Ende des Semesters.	1. Einführung und Überblick 2. Philosophie und Wissenschaft 3. Drei verschiedene Wissenschaftsbegriffe 4. Wissenschaft und Weltanschauung 5. Die moderne Wissenschaft 6. Philosophie und Religion 7. Philosophie und Religion 8. Der Gottesgedanke im Abendland 9. Philosophische Vorwürfe gegen Religionen 10. Philosophie und biblische Religion 11. Dämonologie und Menschenvergötterung 12. Nihilismus 13. Präsentationen (Themenkreis A, B) 14. Präsentationen (Themenkreis C, D)

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Wiederholung mit vollständiger Klärung des Vokabulars, im Einzelfall Übersetzungen ins Japanische.
テキスト	Kopien werden zu Beginn und im Laufe des Semesters verteilt.
参考文献	Jaspers, Karl: Was ist Philosophie? München 1976
評価方法	Aktive Mitarbeit im Unterricht 30%, schriftliche Hausaufgaben 20% und eine Präsentation 50%.

09 年度以降	テクスト研究 (語学・文学・思想) a	担当者	M. ラインデル

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs beschäftigen wir uns mit Sprache – aus der Perspektive verschiedener Fragen, z. B.: Was ist der Zusammenhang zwischen Sprache und Denken? Wie lernen wir unsere Muttersprache? Wie lernen wir Fremdsprachen? Warum verschwinden Sprachen? Und wie kann man sie retten? Wie sprechen die Menschen in den verschiedenen Regionen und gesellschaftlichen Gruppen im deutschsprachigen Raum? Zu diesen Fragen lernen Sie Antworten kennen. Gleichzeitig lernen Sie, die Argumentation in Fachtexten zu verstehen, über die Hauptaussagen zu berichten und zu diskutieren. Wir lesen kurze und mittellange Texte in Paaren/Teams. Oft werden wir die Texte aufteilen und uns gegenseitig berichten, was wir gelesen haben, so dass es auch viel Gelegenheit zum Sprechen gibt.	1. Vorstellung: Kurskonzept / Ihre Interessen 2. Frühkindlicher Spracherwerb (Überblick) 3. Frühkindlicher Spracherwerb (Wesentliches) 4. Frühkindlicher Spracherwerb (Vertiefung) 5. Frühkindlicher Spracherwerb (Zusammenfassung) 6. Fremdsprachenlernen (Überblick) 7. Fremdsprachenlernen (Wesentliches) 8. Fremdsprachenlernen (Vertiefung) 9. Fremdsprachenlernen (Zusammenfassung) 10. Sprache und Denken (Überblick) 11. Sprache und Denken (Wesentliches) 12. Sprache und Denken (Vertiefung) 13. Sprache und Denken (Zusammenfassung) 14. Abschlusstest, Kursfazit

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	In jeder Stunde gibt es eine Hausaufgabe: Sie bereiten eine Mini-Präsentation eines Textes vor, schreiben Wortschatz heraus und/oder lernen Wortschatz zum aktuellen Thema.
テキスト	Das Textmaterial wird im Unterricht verteilt.
参考文献	Mögliche Begleitlektüre wird im Unterricht vorgestellt.
評価方法	Aktive Mitarbeit (30%), Hausaufgaben (30%), Minitests (10%), Abschlusstest (30%).

09 年度以降	テクスト研究 (語学・文学・思想) b	担当者	M. ラインデル

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs beschäftigen wir uns mit Sprache – aus der Perspektive verschiedener Fragen, z. B.: Was ist der Zusammenhang zwischen Sprache und Denken? Wie lernen wir unsere Muttersprache? Wie lernen wir Fremdsprachen? Warum verschwinden Sprachen? Und wie kann man sie retten? Wie sprechen die Menschen in den verschiedenen Regionen und gesellschaftlichen Gruppen im deutschsprachigen Raum? Zu diesen Fragen lernen Sie Antworten kennen. Gleichzeitig lernen Sie, die Argumentation in Fachtexten zu verstehen, über die Hauptaussagen zu berichten und zu diskutieren. Wir lesen kurze und mittellange Texte in Paaren/Teams. Oft werden wir die Texte aufteilen und uns gegenseitig berichten, was wir gelesen haben, so dass es auch viel Gelegenheit zum Sprechen gibt.	1. Vorstellung: Kurskonzept / Ihre Interessen 2. Sprachenvielfalt (Überblick) 3. Sprachenvielfalt (Wesentliches) 4. Sprachenvielfalt (Vertiefung) 5. Sprachenvielfalt (Zusammenfassung) 6. Mehrsprachigkeit (Überblick) 7. Mehrsprachigkeit (Wesentliches) 8. Mehrsprachigkeit (Vertiefung) 9. Mehrsprachigkeit (Zusammenfassung) 10. Regional- und Minderheitensprachen (Überblick) 11. Regional- und Minderheitensprachen (Wesentliches) 12. Regional- und Minderheitensprachen (Vertiefung) 13. Regional- und Minderheitensprachen (Zusammenf.) 14. Abschlusstest, Kursfazit

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	In jeder Stunde gibt es eine Hausaufgabe: Sie bereiten eine Mini-Präsentation eines Textes vor, schreiben Wortschatz heraus und/oder lernen Wortschatz zum aktuellen Thema.
テキスト	Das Textmaterial wird im Unterricht verteilt.
参考文献	Mögliche Begleitlektüre wird im Unterricht vorgestellt.
評価方法	Aktive Mitarbeit (30%), Hausaufgaben (30%), Minitests (10%), Abschlusstest (30%).

09 年度以降	テクスト研究（語学・文学・(思想)　a	担当者	S．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs lesen wir deutsche Märchen, und beantworten die Textfragen dazu. Wir machen Partnergespräche zu Themen, die in den Märchen angesprochen warden. Mit Märchentexten　kann man eine Sprache gut lernen! Wir wollen nicht übersetzen, sondern den Text durch Fragen erschliessen.	1. Der Teufel mit den drei goldenen Haaren, S. 37 2. Der Teufel mit den drei goldenen Haaren, S. 38 3. Der Teufel mit den drei goldenen Haaren, S. 39 4. Der Teufel mit den drei goldenen Haaren, S. 40 5. Der Teufel mit den drei goldenen Haaren, S. 41 6. Der Teufel mit den drei goldenen Haaren, S. 42 7. Von dem Fischer und seiner Frau, S. 27 8. Von dem Fischer und seiner Frau, S. 28 9. Von dem Fischer und seiner Frau, S. 29 10. Von dem Fischer und seiner Frau, S. 30 11. Von dem Fischer und seiner Frau, S. 31 12. Von dem Fischer und seiner Frau, S. 32 13. Von dem Fischer und seiner Frau, S. 33 14. Mündliche und schriftliche Referate zu den beiden Märchen

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	3mal im Semester schreiben Sie zu Hause einen Aufsatz mit 200 Wörtern, oder Sie halten im Unterricht ein Referat.
テキスト	Wir benutzen FÜNF MÄRCHEN von H. von Eckardstein, F. Kawanishi
参考文献	特になし
評価方法	Es gibt Punkte für die schriftlichen Hausaufgaben und einen Test am Ende des Semesters. 1:1:1:1.

09 年度以降	テクスト研究 (語学・文学・思想) b	担当者	中川　純子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では音声学の基礎とドイツ語発音の技法についてのテクストを読み、その説明にならって実際に自分で発音することで音の出し方についての知識を深めることを目的とします。単音の出し方から、文レベル、文章レベルの音について日本語と比較し、言語音の作り方や聞き手に与える影響など、多角的に発音について考えていきます。授業内ではペアやグループなどで発音の練習を行いますので、積極的に声を出し自らの未知の音を体感してください。さらに参加者はドイツ語の発音について、ウェブや本などの教材から探したものを授業内でプレゼンを行ってもらいます。	1. イントロダクション 2. 調音点と調音法・IPA 3. 日本語の発音（50 音図） 4. ドイツ語発音の基本ルール：母音の発音 5. 日本語とドイツ語の母音の違い 6. ドイツ語発音の基本ルール：子音の発音 7. 気をつけるべき子音 8. 単語の発音（音節・子音連続・気息音） 9. 文の発音（音変化とリズム） 10. 文章の発音（意味まとまり） 11. 文章の発音（イントネーション・ポーズ） 12. 文章の発音（聞き手を意識する） 13. 課題発表 14. まとめ＋授業内試験

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業では実際に声を出しペアワークなどを多く取り入れます。履修にあたっては積極的にワークに参加することを前提とします。
テキスト	授業内で指示します。
参考文献	特になし。
評価方法	期末テスト 40%　授業への参加度 30%　発表 30%

09 年度以降	テクスト研究 (語学・文学・思想) a	担当者	中山　純

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の授業ではドイツ語を2年以上学んだ学生を対象に、ドイツ語のテクストを読むときに、どのようなステップを踏んで読んでいけば良いのかという読解技術を紹介していきます。知らない単語を辞書で検索するという方法だけでは、テクストを正しく読んで理解するということは困難です。 テクストを正しく読み解くうえで必要な文法知識を整理して活用できるようにします。また、テーマを重視したドイツ語テクストを理解していくうえで欠くことのできない造語の基本的な知識も紹介していきます。 課題テクストのテーマは春学期と秋学期を通して「パン」というドイツの生活には欠くことのできない食べ物です。春学期は主に歴史的な視点からパンを扱ったテクストを取り上げていきます。	1. 授業計画と学習目的について 2. ドイツ語テクストへのアプローチ方法 3. 文の設計図を作る動詞の結合価 4. パンの歴史 - ライ麦パンの歴史 5. パンという食べ物の発見 6. Vom Korn zum Brot - 製造技術の進化 7. Glossar zum Brot - パンについての語彙 8. テクスト講読に必要な造語の知識 9. 同業組合としてのZunftの役割 10. 伝統的手工業の多様化 11. Brotとはなにか - パンの定義 12. Fladenbrotの歴史 13. 文法事項の整理と「パン」に関係する語彙の整理 14. 春学期のまとめと目標達成度の確認

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題テクストを読み、必要な下調べをする。授業後には訳や文法情報、内容を整理する。
テキスト	課題や必要な資料はすべてプリントで配布します。
参考文献	必要に応じて授業時に紹介していきます。
評価方法	ドイツ語運用力の改善度（20%)、授業への参加度（50%)、学期末の課題（30%）で評価します。

09 年度以降	テクスト研究 (語学・文学・思想) b	担当者	中山　純

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期の授業ではドイツ語を2年以上学んだ学生を対象に、ドイツ語テクストを読んでいく技術の習得を目指します。未知の単語を辞書で検索する前に、テクストに含まれている情報を可能な限り取り出して整理し、文の構造などを把握したうえで意味の理解へ進めるようにします。 課題テクストのテーマは春学期から継続して「パン」を扱います。秋学期は主にパンの地域的特徴や種類、品質管理など食品そのものに注目していきます。春と秋の両学期を通して履修すると、テクストで扱うテーマであるパンについて、歴史的な視点と現在の状況を考える機会があります。 テクストをただ訳すのではなく、読む行為を通して学習してきた文法知識を再構築し、活用できるようにしましょう。また、語彙の整理は、他のテクストを読むときにも応用できます。	1. 授業計画と学習目標について 2. テクストアプローチに必要な文法知識を考える 3. 春学期で得たBrotに関する語彙の紹介 4. サンプルテクストに基づく読解技術の紹介 5. パンと塩 - 伝統の形成 6. ドイツにおけるパン文化（1) - 栽培条件と連邦制 7. ドイツにおけるパン文化（2) - 職人教育制度 8. 新たに習得した語彙と整理方法 9. パンと政治 - フランス革命とパン 10. パン職人と製菓技術 - Baumkuchenの技術進化 11. Baumkuchenの歴史 12. Brezelの定義と神話 13. パン・オブ・ザ・イヤー2018 - パンの評価方法 14. 秋学期のまとめと目標達成度の確認

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題テクストを読み、必要な下調べをする。授業後には訳や文法情報、内容を整理する。
テキスト	課題や必要な資料はすべてプリントで配布します。
参考文献	必要に応じて授業時に紹介していきます。
評価方法	ドイツ語運用力の改善度（20%)、授業への参加度（50%)、学期末の課題（30%）で評価します。

09 年度以降	テクスト研究（語学・(文学)・思想） a	担当者	本橋　右京

講義目的、講義概要	授業計画
目的 読解力の涵養を目指します。また、ドイツ語力を磨く機会にしてもらえればと思います。 概要 „Die Kinder- und Hausmärchen der Brüder Grimm“ を様々な版で比較対照します。これにより、編纂過程で被った変化の跡をたどります。折にふれて、ユニークな解釈を紹介します。 まずは短い作品で、古い正書法と比較方法に慣れましょう。	1. ガイダンス、Von einem eigensinnigen Kinde 2. Der undankbare Sohn 3. Die drei Sprachen (1819 版) 4. Die drei Sprachen (1857 版) 5. Drei Federn 6. Dümmling 7. Die goldene Gans (S.371) 8. Die goldene Gans (S.153~) 9. Die goldene Gans (S.161~) 10. Prinz Schwan 11. Der Eisenofen 12. Marienkind (S.285~) 13. Marienkind (S.293~) 14. まとめ Motive

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	予め指定箇所を音読並びに精読しておいて下さい。また、課題はレポートとして次回に提出して下さい。
テキスト	**Kurt Schmidt**: *Die Entwicklung der Grimmschen Kinder- und Hausmärchen*
参考文献	**Heinz Rölleke**: *Es war einmal : die wahren Märchen der Brüder Grimm und wer sie ihnen erzählte*
評価方法	定期試験 60%、平常授業における発表や貢献度を 40%で評価します。

09 年度以降	テクスト研究（語学・(文学)・思想） b	担当者	本橋　右京

講義目的、講義概要	授業計画
目的 読解力の涵養を目指します。また、ドイツ語力を磨く機会にしてもらえればと思います。 概要 „Die Kinder- und Hausmärchen der Brüder Grimm“ を様々な版で比較対照します。これにより、編纂過程で被った変化の跡をたどります。 この学期では、モティーフを軸に、作品間の比較にも重点を置きます。	1. ガイダンス　Die sechs Schwäne (1812 版) 2. Die sechs Schwäne (1857 版) 3. Die zwölf Brüder u. das Schwesterchen (S.95~) 4. Die zwölf Brüder u. das Schwesterchen (S.102~) 5. Die Königstochter u. der verzauberte Prinz (S.271~) 6. Der Froschkönig oder der eiserne Heinrich (S.278~) 7. Der treue Johannes 8. Die Gänsemagd 9. Räuberbräutigam (S.171~) 10. Räuberbräutigam (S.178~) 11. Das Mädchen ohne Hände 12. König Drosselbart 13. Rumpenstünzchen 14. Das Meerhäschen

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	予め指定箇所を音読並びに精読しておいて下さい。また、課題はレポートとして次回に提出して下さい。
テキスト	**Kurt Schmidt**: *Die Entwicklung der Grimmschen Kinder- und Hausmärchen*
参考文献	**Heinz Rölleke**: *Es war einmal : die wahren Märchen der Brüder Grimm und wer sie ihnen erzählte*
評価方法	定期試験 60%、平常授業における発表や貢献度を 40%で評価します。

09 年度以降	ドイツ語圏芸術・文化概論 a	担当者	山本　淳

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞　これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。 ＜講義概要＞　ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。 映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期は、ルネサンス・宗教改革期からロマン派までを扱う。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。	1. オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2. ルネサンス・宗教改革期①：北方ルネサンス 3. 同②：宗教改革とドイツ（語圏）文化 4. 同③：ドイツ・ルネサンスの芸術 5. 三十年戦争・バロック期①：三十年戦争の意味 6. 同②：バロック期のドイツ（語圏）文化 7. 啓蒙主義時代①：啓蒙とは何か 8. 同②：啓蒙主義とドイツ（語圏）文化 9. 同③：シュトルム・ウント・ドラングから古典主義へ 10. ロマン派①：ロマン派とは何か 11. 同②：前期・後期ロマン派 12. 同③：ロマン派の芸術 13. グリムのメルヒェン 14. まとめ

到達目標	ドイツ語圏の芸術・文化に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	扱われるテーマについて、事前に自分なりに調べ、問題意識を高めておく。 授業後は、自ら参考文献などを使って考察を深め、テーマに関する批判的検討を行う。
テキスト	特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。
参考文献	テーマごとのレジュメ末尾に記載する。
評価方法	学期末レポート 90%、毎回の授業アンケート 10%の割合で評価を行う。詳細は授業中に指示する。

09 年度以降	ドイツ語圏芸術・文化概論 b	担当者	山本　淳

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞　これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。 ＜講義概要＞　ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。 映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 秋学期は、19 世紀後半から現代までを扱う。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。	1. オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2. 19世紀後半①：ニーチェをめぐって 3. 同②：R. ヴァーグナーをめぐって 4. 世紀転換期①：世紀転換期のドイツ（語圏）文化 5. 同②：世紀転換期の美術と音楽（ウィーンを中心に） 6. モダニズム①：近代芸術とは何か 7. 同②：ドイツ表現主義の芸術 8. ヴァイマル文化①：黄金の20年代とヴァイマル文化 9. 同②：映画／バウハウス 10. ナチズムと芸術①：「芸術家」ヒトラーと文化統制 11. 同②：「大ドイツ芸術展」と「退廃芸術展」 12. 同③：L.リーフェンシュタールとナチ神話 13. 現代へ：新たな芸術の展開：J. ボイスをめぐって 14. まとめ

到達目標	ドイツ語圏の芸術・文化に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	扱われるテーマについて、事前に自分なりに調べ、問題意識を高めておく。 授業後は、自ら参考文献などを使って考察を深め、テーマに関する批判的検討を行う。
テキスト	特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。
参考文献	テーマごとのレジュメ末尾に記載する。
評価方法	学期末レポート 90%、毎回の授業アンケート 10%の割合で評価を行う。詳細は授業中に指示する。

09 年度以降	ドイツ語圏の美術 a	担当者	青山　愛香

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、広くヨーロッパの美術の歴史を概観しながらドイツ語圏の美術の特質を浮き彫りにすることである。春学期は「ドイツ・ルネサンス」の芸術を取り上げる。16世紀は汎ヨーロッパ的に大きな時代の転換期であった。この時期ドイツにおいても社会、政治、文化に関して大きな変革があった。とりわけルターによる宗教改革によって、キリスト教美術、なかでも祭壇画を含む絵画は危機の時代を迎える。だが今日「ルネサンス」もしくは「近世」と呼ばれる大きなパラダイムシフトの時代に、アルブレヒト・デューラー（1471-1528）、ルーカス・クラナハ（父）（1472-1553）とハンス・バルドゥンク＝グリーン（1484-1545）といった画家たちは、絵画に課された新たな課題に創造的に取り組んで行った。三人の芸術家を中心に、この時代のドイツ美術の独創性について「版画」というメディアを中心に考察したい。	1. イントロダクション 2. ドイツ・ルネサンスと版画（概観） 3. 版画の芸術　A. デューラー　イタリアとの出会い 4. 版画の芸術　A. デューラー　木版画連作《黙示録》（1498年）を中心に 5. 版画の芸術　A. デューラー　六点の《受難伝連作》 6. 版画の芸術　L. クラナハ　キリスト教主題を中心に 7. 版画の芸術　L. クラナハ　世俗主題を中心に 8. 版画の芸術　H. バルドゥンク＝グリ―ンの芸術 9. 「アダムとイヴ」に見る裸体像の展開 10. 宗教改革とメディア革命 11. 肖像版画 12. プロパガンダの版画 13. まとめ 14. 総括・授業内試験

到達目標	ドイツ語圏の美術に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で扱った作品を図書館を使って自分で調べる。
テキスト	特になし。
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	試験 80%、平常点 20%として学期末に筆記試験を行う。

09 年度以降	ドイツ語圏の美術 b	担当者	青山　愛香

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、広くヨーロッパの美術の歴史を概観しながら、ドイツ語圏の美術の特質を浮き彫りにすることである。秋学期はウィーン美術史美術館所蔵のハプスブルク家の皇帝の絵画コレクションについて概観する。 ハプスブルクの歴代皇帝のコレクションが集められたウィーン美術史美術館は総点数7000点以上に及ぶ絵画を蔵している。またハプスブルク家の栄耀を長く伝える「画廊」や、皇帝ルドルフ二世（1552-1612）のプラハ居城の宝庫を飾っていた美術品を母体とする「彫刻・工芸収集」の他に、美術史美術館中最も古い収集の歴史を持つ「貨幣・メダル収集室」（皇帝マクシミリアン一世［1459-1519］の収集をおさめる）、皇帝フランツ二世（1768-1835）の時代に盛んな収集活動が展開された「古代美術収集」および「エジプト美術収集」があり、これにさらにホーフブルクの中にある「楽器収集」、その他が加わる。	1. ハプスブルク家のコレクションの歴史（概観） 2. 大公フェルディナント二世（1529-1595）の収集品 3. ①大公の肖像画収集 4. ②アンブラス城の「オーストリア史の肖像画廊」 5. 皇帝ルドルフ二世（1552-1612）の収集品 6. ①ブリューゲルの「季節画」連作 7. ②デューラーならびにドイツ絵画コレクション 8. ③デューラーの《ローゼンクランツ祭壇画》 9. ④コレッジョの《イオ》と《ガニュメデス》 10. 皇帝のイタリア絵画コレクション 11. 大公レオポルト・ヴィルヘルム（1614-1662）の収集品 12. ①大公のルーベンスコレクション 13. ②大公のイタリア絵画コレクション 14. 総括・授業内試験

到達目標	ドイツ語圏の美術に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で扱った作品を図書館を使って自分で調べる。
テキスト	特になし。
参考文献	『ハプスブルク家収集の名画　ウィーン美術史美術館展』国立西洋美術館展覧会カタログ　1984 年
評価方法	試験 80%、平常点 20%として学期末に筆記試験を行う。

09 年度以降	ドイツ語圏の音楽 a	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語圏の国々の音楽（いわゆるクラシック音楽）をたくさんの録音資料（CD等）で聴き、親しんでいただく授業です。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等についても理解を深めていただきたいと思います。（音楽理論の予備知識は特になくても大丈夫です。） 春学期には、中世から18世紀までに書かれた多様な音楽作品をとりあげます。普段耳にする機会の少ない作品もあるかも知れませんが、関心をもって耳を傾けていただければと思います。 ◇注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。 ◇鑑賞がしやすいよう、なるべく教室の前半分に座ってください。	1. 導入、概観 2. 中世の音楽 3. 15～16世紀の声楽作品 4. シュッツとブクステフーデの声楽作品 5. 15～17世紀のオルガン音楽 6. 南ドイツのバロック音楽 7. J.S. バッハの生涯と器楽作品 8. バッハの声楽作品 9. ヘンデルとテレマンの音楽 10. 前古典派の音楽 11. J. ハイドンの音楽 12. W.A. モーツァルトの生涯と器楽作品 13. モーツァルトの声楽作品 14. まとめ・授業内試験

到達目標	ドイツ語圏の音楽史を概観し、ドイツ語圏の音楽に関する専門的な知識を習得し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり（図書館 HP から「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を利用）、文献を読んだりしてください。
テキスト	コピーで配布
参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』等を参照してください。
評価方法	授業への参加度 30%、試験 70%。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が評価の前提です。30 分以上の遅刻は欠席扱いとします。

09 年度以降	ドイツ語圏の音楽 b	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語圏の国々の音楽をたくさんの録音資料で聴き、親しんでいただく授業です。 秋学期には、18世紀終わり頃から現在までに書かれた音楽を、主に「作曲家とその作品」という観点からとりあげます。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等についても理解を深めていただきたいと思います。秋学期の終わり頃には、ドイツ語圏の国歌や民謡等も扱う予定です。 秋学期は、春学期の授業内容（18世紀までのドイツ語圏の音楽史および音楽用語等）を知っていることを前提に講義を行いますので、了承しておいてください。 ◇注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。 ◇鑑賞がしやすいよう、なるべく教室の前半分に座ってください。	1. 導入、ベートーヴェンの生涯と音楽 ＊初回授業の内容から、試験範囲に入ります。 2. ベートーヴェン 3. シューベルト 4. メンデルスゾーン 5. シューマン 6. リスト 7. ヴァーグナー 8. ブラームス 9. 19世紀終わり頃のドイツ語圏の音楽 10. 20世紀のドイツ語圏の音楽 11. ドイツ語圏の国歌 12. ドイツ語圏のクリスマスの音楽 13. ドイツ語圏の民謡、ポップス 14. まとめ・授業内試験

到達目標	ドイツ語圏の音楽史を概観し、ドイツ語圏の音楽に関する専門的な知識を習得し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり（図書館 HP から「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を利用）、文献を読んだりしてください。
テキスト	コピーで配布
参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』等を参照してください。
評価方法	授業への参加度 30%、試験 70%。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が評価の前提です。30 分以上の遅刻は欠席扱いとします。

09 年度以降	ドイツ語圏の演劇 a	担当者	上田　浩二

講義目的、講義概要	授業計画
人間が他人を演じることは、ギリシャ演劇にまでさかのぼれる。最初は、陽光のもとで拡声装置もなく舞台の上で演じられていた。ルネッサンスの頃から、音響に配慮した劇場が建てられ、照明も導入される。こうした技術面での発展はあったものの、演劇は時間の流れに支配されていた。厳密な意味での「再現」可能性を開いたのは19世紀末に発明された映画である。そして20世紀後半になると映画館を離れて、家庭や個室で「演じる」ことが見られるようになる。今学期は、こうした技術の発展によって「演じる」ことがどのように変わってきたかを見ていきたい。そのさいに、舞台でナマで演じられる演劇からスクリーンに映される映画への移行期に焦点を当て、ドイツの無声映画を中心に扱っていく。	1. 導入：演劇・映画・演じることの意味 2. ギリシャ・ローマの演劇の特徴 3. 中世の宗教劇～ルネッサンス時代の世俗劇 4. 近代初期の宮廷演劇・オペラの成立と発展 5. 近代への胎動 6. 19世紀ドイツ演劇 7. 映画の誕生と発達 8. ドイツ無声映画の黄金時代（ムルナウ） 9. ドイツ無声映画の黄金時代（F. ラング） 10. 映画技術の発展 11. 記念碑的なドイツ映画「メトロポリス」 12. ドイツ最初のトーキー映画 13. トーキーによる娯楽映画の発達 14. まとめ

到達目標	ドイツ語圏の演劇に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ときおり日本語・ドイツ語の関連テキストを配布するので眼を通しておくこと。
テキスト	必要に応じて、その都度プリントを配る。
参考文献	特になし。
評価方法	学期途中で短めのレポート 2 回（それぞれ全評価の 25%）、学期末の長めのレポート（全評価の 50%）。

09 年度以降	ドイツ語圏の演劇 b	担当者	上田　浩二

講義目的、講義概要	授業計画
主として、第2次大戦後の西ドイツの映画を中心にして（1989年まで）、かつては狭義の演劇が発達させてきた「演じること」が、どのように変質したかを中心に見ていく。内容的には、従来の演劇では扱いきれなかった対象（例えば身近な時代の状況や社会背景）、舞台上では不可能であっても技術の進展によりスクリーン上では可能になった表現を取り上げる。これと平行して、劇場や映画館で集団で共通体験するような形態ではなく、自宅（個室）でDVDやストリーミング等が浸透している状況が「演じる」こと、「表現する」ことをどのように変質させつつあるかを考えていきたい。	1. 導入、問題設定と授業の進め方 2. 戦争直後のドイツ映画（西ドイツ） 3. 戦争直後のドイツ映画（東ドイツ） 4. 「故郷もの」映画 5. 実験的（前衛的）映画 6. 実験映画「ラン・ローラ・ラン」 7. 実験映画「ラン・ローラ・ラン」（3部作の構成） 8. 統一後の映画（「グッバイ・レーニン」概要） 9. 統一後の映画（「グッバイ・レーニン」特徴） 10. 統一後の映画（「善き人のためのソナタ」概要） 11. 統一後の映画（「善き人のためのソナタ」特徴） 12. 日本を描いた映画「花見」 13. ドキュメンタリー映画 14. まとめ

到達目標	ドイツ語圏の演劇に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ときおり日本語・ドイツ語の関連テキストを配布するので眼を通しておくこと。
テキスト	必要に応じて、その都度プリントを配る。
参考文献	特になし。
評価方法	学期途中で短めのレポート 2 回（それぞれ全評価の 25%）、学期末の長めのレポート（全評価の 50%）。

09 年度以降	テクスト研究（芸術・文化） a	担当者	Ｉ．アルブレヒト

講義目的、講義概要	授業計画
Der Kurs richtet sich an Studierende, die Interesse an österreichischer Kunst und Kultur haben und auf Deutsch darüber lesen möchten. Die Texte werden so gewählt, dass sie neben interessanten kulturellen Informationen der Erweiterung des Wortschatzes, dem Verständnis idiomatischer Wendungen und komplizierterer Satzstrukturen dienen. Ein besonderes Augenmerk gilt dem Erwerb von Lesestrategien. Im Unterricht wird ausschließlich Deutsch benutzt. Die Themen werden in Absprache mit den Teilnehmern in der ersten Stunde festgelegt. Themenvorschläge sind:	1. Innenstadt und Stephansdom 2. Die Ringstraße 3. Die Ringstraßengebäude 4. Die Universität Wien 5. Mozart, Beethoven, Die Oper 6. Die Hofburg 7. „Sisi“ 8. Der Opernball 9. Klimt, Schiele, Die Wiener Werkstätte 10. Wiener Sagen 11. Das Looshaus 12. Coop Himmelb(l)au. 13. Die Wiener Kaffeehauskultur. 14. Wiederholung und Zusammenfassung

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vorbereitende Lektüre der Texte, schriftliche Zusammenfassungen,. (ca. 90 Minuten)
テキスト	Kopien, werden im Unterricht verteilt
参考文献	Keine besondere Empfehlung
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, und Erfüllung der Aufgaben (65%) ,Tests (35%)

09 年度以降	テクスト研究（芸術・文化） b	担当者	Ｉ．アルブレヒト

講義目的、講義概要	授業計画
Kenntnisse der wichtigsten Episoden und Geschichten der Bibel sind unabdingbare Voraussetzung zum Verständnis zahlloser Werke der europäischen Kultur, auf dem Gebiet der Bildenden Kunst, der Musik, der Literatur. Die Texte aus dem Alten Testament werden in Absprache mit den Teilnehmerinnen festgelegt. Eine mögliche Auswahl ist:	1. Genesis, Erschaffung der Welt 2. Adam und Eva 3. Kain und Abel 4. Noah 5. Der Turmbau zu Babel 6. Lot 7. Abrahams Opfer 8. Josef und seine Brüder 9. Moses 10. Die ägyptischen Plagen 11. Auszug aus Ägypten 12. David 13. Jonas 14. Wiederholung und Zusammenfassung

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vorbereitende Lektüre der Texte, schriftliche Zusammenfassungen, Recherche typischer Kunstwerke, Musikstücke etc. zu einzelnen Bibeltexten. (ca. 90 Minuten)
テキスト	Kopien, werden im Unterricht verteilt
参考文献	Keine besondere Empfehlung
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, und Erfüllung der Aufgaben (65%) ,Tests (35%)

09 年度以降	テクスト研究（芸術・文化） b	担当者	K．ニーヴァルダ

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs beschäftigen wir uns mit berühmten Künstler/innen, nicht nur aus dem deutschsprachigen Raum. Aus einer Auswahl entscheiden Sie sich für einen Künstler und stellen diesen in einem kurzen Vortrag vor. Anschließend beschäftigen wir uns mit seinen berühmtesten Werken und Merkmalen der entsprechenden Stilepoche. Hierfür werden Texte ausgewählt, die z. T. vor dem Unterricht vorbereitet werden oder zusammen im Kurs erarbeitet werden. Ziel des Kurses ist es, einen Überblick über zentrale Kunststile zu gewinnen. Ihre Wünsche und Interessen können einbezogen werden.	1. Einführung 2. Überblick 3. Romantik 4. Gotik 5. Barock 6. Romantik 7. Realismus 8. Impressionismus 9. Expressionismus 10. Surrealismus 11. Pop Art 12. Zusammenfassung 13. Abschlussdiskussion 14. Test und Kursevaluation

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vorbereitung von Texten, Hausaufgaben
テキスト	Es werden Kopien ausgegeben.
参考文献	特になし
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit 30%, Präsentation 30%, Test 40%

09 年度以降	テクスト研究（芸術・文化） a	担当者	N．カネマツ

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs beschäftigen sich die Studierenden mit dem Jugendroman “Malka Mai” von Mirjam Pressler und dem Thema “Flucht und Verfolgung in der Zeit des Nationalsozialismus”. Die Studierenden erarbeiten Textpassagen selbstständig in Gruppen- oder Einzelarbeit, stellen diese im Kurs vor und bereiten Aufgaben und Diskussionsfragen für den Kurs vor. Gemeinsam werden die sprachlichen Besonderheiten des Romans reflektiert sowie die inhaltlichen Aspekte und weiterführenden Themen diskutiert. Wünsche der Studierenden werden, soweit möglich, berücksichtigt.	1. Kennenlernen und Erklärung zum Kursablauf 2. Einführung zur Autorin und zum Roman“ 3. Der geschichtliche Hintergrund 4. Gemeinsame Lese-und Übersetzungsstunde 5. Studierendenvortrag und Diskussion: S. 10-40 6. Studierendenvortrag und Diskussion: S. 41-80 7. Studierendenvortrag und Diskussion: S. 81-120 8. Studierendenvortrag und Diskussion: S. 121-160 9. Studierendenvortrag und Diskussion: S. 161-200 10. Projekt: Podcast: Planung 11. Projekt: Podcast: Erstellung der Texte 12. Projekt: Podcast: gemeinsame Korrektur 13. Projekt: Podcast: Aufnahme und Präsentation 14. Abschlussdiskussion

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vor-und nachbereitendes Lesen und Übersetzen von Textabschnitten, Vorbereitung der Referate und des Projekts, Vorbereitung auf die Diskussion
テキスト	Mirjam Pressler (2002): *„Malka Mai“*. Beltz Verlag.
参考文献	中島悠爾『必携　ドイツ文法総まとめ』白水社. Bitte auch immer ein Wörterbuch mitbringen.
評価方法	Die Studierendenvorträge (40%) und die Projektarbeit (40%) sowie die aktive Teilnahme an den Diskussionen (20%) werden bewertet.

09 年度以降	テクスト研究（芸術・文化） b	担当者	N．カネマツ

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs beschäftigen sich die Studierenden mit dem Kinderroman “Als Hitler das rosa Kaninchen stahl” von Judith Kerr und dem Thema “Flucht und Verfolgung in der Zeit des Nationalsozialismus”. Die Studierenden erarbeiten Textpassagen selbstständig in Gruppen- oder Einzelarbeit, stellen diese im Kurs vor und bereiten Aufgaben und Diskussionsfragen für den Kurs vor. Gemeinsam werden die sprachlichen Besonderheiten des Romans reflektiert und die inhaltlichen Aspekte und weiterführenden Themen diskutiert. Ebenso wird ein Vergleich zum Roman “Malka Mai” aus dem Frühlingssemester angestellt. Wünsche der Studierenden werden, soweit möglich, berücksichtigt.	1. Kennenlernen und Erklärung zum Kursablauf 2. Einführung zur Autorin und zum Roman 3. Der geschichtliche Hintergrund 4. Gemeinsame Lese-und Übersetzungsstunde 5. Studierendenvortrag und Diskussion: S. 10-40 6. Studierendenvortrag und Diskussion: S. 41-80 7. Studierendenvortrag und Diskussion: S. 81-120 8. Studierendenvortrag und Diskussion: S. 121-160 9. Studierendenvortrag und Diskussion: S. 161-200 10. Projekt: Broschüre: Planung 11. Projekt: Broschüre: Erstellung der Texte 12. Projekt: Broschüre: gemeinsame Korrektur 13. Projekt:Broschüre: Design 14. Abschlussdiskussion

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vor-und nachbereitendes Lesen und Übersetzen von Textabschnitten, Vorbereitung der Referate und des Projekts, Vorbereitung auf die Diskussion
テキスト	Judith Kerr (2015): *„Als Hitler das rosa Kaninchen stahl“.* Ravensburger Buchverlag.
参考文献	中島悠爾『必携　ドイツ文法総まとめ』白水社. Bitte auch immer ein Wörterbuch mitbringen.
評価方法	Die Studierendenvorträge (40%) und die Projektarbeit (40%) sowie die aktive Teilnahme an den Diskussionen (20%) werden bewertet

09 年度以降	テクスト研究（芸術・文化） a	担当者	青山　愛香

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、ドイツ語の専門書を使いながらドイツ・ルネサンス美術に関する幅広い知識を身につけることである。春学期はGabriele Kopp-Schmidt/ A.M. Bonnet, *Die Malerei der Deutschen Renaissance*, München, 2014を使いながら、ハンス・バルドゥンク＝グリーン（1484-1545年）の作品を六点取り上げる。授業ではドイツ語テクストを解読しながら、幅広くドイツ美術の知識を得ることを目的としている。授業で取り扱う作品については、講師がパワーポイントを使って更に補足解説を行う。 受講者は授業中に配布するドイツ語のテクストの予習ならびに復習を必ず行うことが求められる。 ＊　初回の授業でテクストのコピーを配布します。受講予定者は必ず出席すること。	1. Selbstbildnis um 1500 （p. 282） 2. 同:まとめ 3. Sebastianaltar 1507 （p. 284） 4. 同：まとめ 5. Vanitas (Die drei Lebensalter und der Tod) 1509/10 （p. 288） 6. 同：まとめ 7. Marienaltar (Freiburger Hochaltar) 1516 （p. 292） 8. 同：まとめ 9. Der Tod und die Frau 1518-1520 （p. 298） 10. 同：まとめ 11. Zwei Hexen 1523 （p. 302） 12. 同：まとめ 13. 総復習・文法事項の再確認 14. 総括・授業内試験

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語テクストの予習ならびに復習。
テキスト	G. Kopp-Schmidt/ A.M. Bonnet, *Die Malerei der Deutschen Renaissance*, München, 2014
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	学期末に筆記試験を行う。試験 80%、平常点（予習・復習を含む）20%で評価する。

09 年度以降	テクスト研究（芸術・文化） b	担当者	青山　愛香

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的はドイツ語の専門書を使いながら、ドイツの美術に関する幅広い知識を身につけることである。秋学期は春学期に続いて、Gabriele Kopp-Schmidt/ A.M. Bonnet, *Die Malerei der Deutschen Renaissance*, München, 2014を使いながら、ハンス・バルドゥンク＝グリーン（1484-1545年）の作品六点について、ドイツ語を読みながら学ぶ。個別作品に関してはパワーポイントを使って補足解説を行い、ドイツ・ルネサンスの美術の理解を深めることを目指す。 受講者は授業中に配布するドイツ語のテクストの予習ならびに復習を必ず行うことが求められる。 ＊　初回の授業でテクストのコピーを配布します。受講予定者は必ず出席すること。	1. Adam und Eva um 1525 （p. 304） 2. 同：まとめ 3. Judith mit dem Haupt des Holofernes 1525 （p. 306） 4. 同：まとめ 5. Venus und Amor 1524 （p. 308） 6. 同：まとめ 7. Eva, die Schlange und der Tod 1524/25 （p. 310） 8. 同：まとめ 9. Der Planetengott Merkur, 1530-1540 （p. 318） 10. 同：まとめ 11. Maria mit dem Kind und zwei Papageien 1533 （p. 320） 12. 同：まとめ 13. 総復習・文法事項の再確認 14. 総括・授業内試験

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語テクストの予習ならびに復習。
テキスト	G. Kopp-Schmidt/ A.M. Bonnet, *Die Malerei der Deutschen Renaissance*, München, 2014
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	学期末に筆記試験を行う。試験 80%、平常点（予習・復習を含む）20%

09 年度以降	テクスト研究（芸術・文化） a	担当者	佐藤　恵

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、ベートーヴェン（1770-1827）が書き残したテクストを通じて、ベートーヴェンがどんな人で、どのような日常生活を営み、周囲の人たちとどのような人間関係を築いていたのか、垣間見てみたいと思います。 この授業で扱うテクストとしては、手紙の他に日記、死をも覚悟して書いた「ハイリゲンシュタットの遺書」(1802年)、「不滅の恋人」に宛てた手紙（1812年)、さらには晩年に聴覚を失ったベートーヴェンが会話をする際に使用していた「筆談帳」(1818年～1827年）があります。 テクストの講読と並行して、受講生にはベートーヴェンに関する個人発表（パワーポイントによるプレゼンテーション）をしていただきます。口頭発表のあとには、まずグループごとに発表内容についてディスカッションをしてもらい、その後の全体討論を経て理解を深めます。ハンドアウトの作り方や発表の仕方等に関しては、そのつど具体的に指導します。	1. 導入（発表の分担を決めますので、受講予定者は必ず出席してください。欠席する場合は事前にメールで連絡してください。） 2. 教員による概要説明：言語資料としての筆談帳 3. 青年時代のベートーヴェン 4. テクスト講読、および受講生による個人発表 5. 病気に悩み「遺書」を書くベートーヴェン 6. テクスト講読、および受講生による個人発表 7. 中間まとめ 8. 「不滅の恋人」宛ての手紙を書くベートーヴェン 9. テクスト講読、および受講生による個人発表 10. 甥を溺愛するベートーヴェン 11. テクスト講読、および受講生による個人発表 12. 晩年のベートーヴェン 13. テクスト講読、および受講生による個人発表 14. 総括

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に必ず予習をし、口頭発表をする際にはしっかりと準備をして臨むようにしてください。
テキスト	テクストはコピーで配布します。
参考文献	授業で適宜、指示します。
評価方法	授業への参加度と毎回配布するコメントペーパー（60%)、および個人発表（40%）による平常点評価。

09 年度以降	テクスト研究（芸術・文化） a	担当者	髙橋　輝曉

講義目的、講義概要	授業計画
【水・5】ドイツ中世の教会建築 I（数の秩序） ヨーロッパの多くの都市には，中世のロマネスク様式やゴシック様式の教会建築がある。これを知らずしてはドイツの芸術・文化も語れない。そこで，本学の協定校があるHil-des¬heimで世界遺産（Welt¬kul¬tur¬er¬be）に登録された聖ミヒャエリス教会（St. Mi¬chae¬lis）のドイツ語解説文により，ドイツ中世の教会建築について学びながら，文章ドイツ語を読めるようになろう。そのためには，文章ドイツ語の文法構造と意味とを精確に把握する必要がある。最初の数回で文章ドイツ語読解用に開発された高橋文法を習得する。続くテクスト読解にあたっては，日本語とドイツ語における意味のずれに着目するので，そのずれを隠蔽する訳読はしない。そうすれば，学習用の手軽な日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かるだろう。	01. 文章ドイツ語解読入門 02. 文章ドイツ語解読のための語形変化を考える 03. 文章ドイツ語解読のための構文を考える 04. 神は世界を数の秩序によって創造した 05. 正方形の秩序 06. 塔の幾何学 07. 神の砦としての教会 08. 神の砦を讃える雅歌 09. オットー朝時代の聖ミヒャエリス崇拝 10. 大天使ミヒャエルの祈念碑としての教会 11. 地下礼拝堂 12. 祭壇で神に祈りを捧げる聖職者たち 13. ベルンヴァルト司教 14. 聖ミヒャエリス教会の完成と聖別

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	【事前学習】テクストの予定箇所を予め読んでおく。【事後学習】当該授業の内容について，指定の要領（学期冒頭にプリント配付）でリアクションメールを担当教員に送る。【宿題】授業で提示の課題に基づく自習。
テキスト	プリント
参考文献	1. 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）/ 2. Duden Deutsches Universalwörterbuch.
評価方法	授業での貢献度と事後学習のリアクションメール（60%），授業内小テスト（30%），宿題ノート（10%）の総合による平常点評価。

09 年度以降	テクスト研究（芸術・文化） b	担当者	髙橋　輝曉

講義目的、講義概要	授業計画
【水・5】ドイツ中世の教会建築 II（方位と象徴） ヨーロッパの多くの都市には，中世のロマネスク様式やゴシック様式の教会建築がある。これを知らずしてはドイツの芸術・文化も語れない。そこで，本学の協定校があるHil-des¬heimで世界遺産（Welt¬kul¬tur¬er¬be）に登録された聖ミヒャエリス教会（St. Mi¬chae¬lis）のドイツ語解説文により，ドイツ中世の教会建築について学びながら，文章ドイツ語を読めるようになろう。そのためには，文章ドイツ語の文法構造と意味とを精確に把握する必要がある。最初の数回で文章ドイツ語読解用に開発された高橋文法を習得する。続くテクスト読解にあたっては，日本語とドイツ語における意味のずれに着目するので，そのずれを隠蔽する訳読はしない。そうすれば，学習用の手軽な日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かるだろう。	01. 文章ドイツ語解読入門 02. 文章ドイツ語解読のための語形変化再考 03. 文章ドイツ語解読のための構文再考 04. 東に向かって礼拝する 05. いくつもの祭壇 06. 教会建築の幾何学的秩序 07. 女性司祭マルゴット・ケースマン 08. 数の象徴性 09.「天使の礼拝堂」 10. 天使のエンブレム 11. ９つの正方形 12. ４という数の神秘主義 13. 十字架の意味するもの 14. 教会空間の調和

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	【事前学習】テクストの予定箇所を予め読んでおく。【事後学習】当該授業の内容について，指定の要領（学期冒頭にプリント配付）でリアクションメールを担当教員に送る。【宿題】授業で提示の課題に基づく自習。
テキスト	プリント
参考文献	1. 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）/ 2. Duden Deutsches Universalwörterbuch.
評価方法	授業での貢献度と事後学習のリアクションメール（60%），授業内小テスト（30%），宿題ノート（10%）の総合による平常点評価。

09 年度以降	テクスト研究（芸術・文化） a	担当者	前田　智

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1） 教材の Richard Wagner の *Die Meistersinger von Nürnberg*『ニュルンベルクのマイスタージンガー』を通して芸術や文化の理解を深める。 2）教材を通してさらなるドイツ語の構文解析を習得する。 3） ドイツ語によるオペラ作品を鑑賞する。 講義概要 一昨年度及び昨年度に続き台本及び評論を精読する。ドイツ語によるオペラ作品を扱う。作品の一部を映像又は音源で鑑賞する。受講者自身の調査によるレポート提出も実施の予定。 尚、オペラや音楽の知識は問わないが、音楽や芸術を愛好する学生、並びに積極的に受講できる学生を希望する。	1. 講義の概要 2. Der Meister Tön(e) und Weisen. (S.41) 3. Was macht ihr denn da? (S.47) 4. Die Einrichtung ist nun folgendermaßen beendigt. (S.51) 5. Kunz Vogelgesang und Konrad Nachtigall. (S.55) 6. Immer bei Sachs. (S.61) 7. Das heißt ein Wort! (S.67) 8. Freund Sachs, was ich mein(e). (S.71) 9. Ein guter Meister! (S.77) 10. Ein jedes Meistergesanges Bar. (S.83) 11. Man hört aus dem Gemerk. (S.89) 12. Herr Merker, was doch solch ein Eifer? (S.95) 13. Sachs beobachtet Walther entzückt. (S.101) 14. まとめ

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	教材の指定された箇所を必ず予習しておくこと。また授業後はノート整理等の復習を必ず行うこと。
テキスト	Kurt Pahlen 著 *Die Meistersinger von Nürnberg*　Schott Music GmbH 2010 年 / 教材はプリントで配布。
参考文献	吉田真著『作曲家◎人と作品　ワーグナー　*Richard Wagner*』音楽之友社　2010 年
評価方法	期末試験 60%、授業への参加度 20%、個人研究 20%

09 年度以降	テクスト研究（芸術・文化） b	担当者	前田　智

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1） 教材の Ludwig van Beethoven の *An die Freude Notizen zu Beethovens Neunter Sinfonie*『アン･ディ･フロイデ「第9」のすべて』を通して芸術や文化の理解を深める。 2）教材を通してさらなるドイツ語の構文解析を習得する。 3） ドイツ語による作品を鑑賞する。 講義概要 教材の『アン･ディ･フロイデ「第9」のすべて』を精読する。作品の一部を映像又は音源で鑑賞する。受講者自身の調査によるレポート提出も実施の予定。 尚、クラシック音楽の知識は問わないが、音楽や芸術を愛好する学生、並びに積極的に受講できる学生を希望する。	1. 講義の概要 2. Vom Konzert zum Ritus 3. Beethovens Biographie: Jugend und Familie 4. Beethovens Biographie: Ruhm und Leiden 5. Beethovens erste Sinfonien 6. Beethovens Sinfonien auf dem Weg zur Neunten 7. Entstehung der Neunten 8. Von Plänen und Vorbereitungen 9. Zum Tag der Uraufführung 10. Wirkung 11. Folgen 12. Der Freudenhymnus der Neunten 13. Schiller, Beethoven und die Nachwelt 14. まとめ

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	教材の指定された箇所を必ず予習しておくこと。また授業後はノート整理等の復習を必ず行うこと。
テキスト	Günter Zobel 著、高辻知義編『アン･ディ･フロイデ「第 9」のすべて』　第三書房　2009 年 4 版
参考文献	矢羽々崇著『「歓喜に寄せて」の物語』&『第九 祝祭と追悼のドイツ 20 世紀史』　現代書館　2007 年&2018 年
評価方法	期末試験 60%、授業への参加度 20%、個人研究 20%

09 年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 a	担当者	古田　善文

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　この講義の目的は、現代ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）の社会と文化を理解するために必要な基本情報を、わかりやすく受講生に提供することである。 　また、ドイツ語圏諸国で現在何が問題となっているかについても検討する。 講義概要 　この講義では、政治・経済だけではなく、多様な視角からドイツ、オーストリアに加えてスイスの事情を明らかにする。毎回授業の冒頭でドイツ語圏の最新ニュースを受講生に紹介する。	1.　ガイダンス 2.　ドイツ語圏の基本情報 3.　ドイツの地形と自然 4.　オーストリアおよびスイスの地形と自然 5.　ドイツの政党 6.　ドイツの政治システム 7.　オーストリアの政党と政治システム 8.　スイスの政党と政治システム 9.　EUや世界との関係 10.　経済と産業 11.　メディア 12.　食文化 13.　ドイツのスポーツ 14.　まとめ

到達目標	ドイツ語圏の現代社会に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料や参考文献を予め読んでおくこと。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習すること。
テキスト	資料は適宜プリントを配布する。参考文献は必要に応じて指示する。
参考文献	特になし。
評価方法	①学期末試験 70%、②レポート 30%

09 年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 b	担当者	古田　善文

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　この講義の目的は、現代のドイツとオーストリア（秋学期はスイスを除く）の社会と文化を理解するために必要な基本情報を受講生にわかりやすく提供することである。 　また、ドイツ、オーストリア両国で現在何が問題となっているかについても検討する。 講義概要 　秋学期ではまずドイツ、オーストリア両国の戦後史を概観する。その後、多様な視角からドイツ、オーストリア両国の実情を明らかにしていく。春学期に続いて今学期も、授業の冒頭でドイツ語圏の最新ニュースを受講生に紹介する。	1.　ガイダンス 2.　ドイツの戦後史（1）分割占領から東西ドイツの成立 3.　ドイツの戦後史（2）ドイツ統一まで 4.　ドイツの戦後史（3）現代まで 5.　オーストリアの戦後史（1）分割占領から永世中立まで 6.　オーストリアの戦後史（2）現代まで 7.　若者と教育 8.　雇用と労働 9.　社会福祉と医療 10.　ジェンダーと家族関係 11.　宗教 12.　移民・難民問題（1990年代まで） 13.　移民・難民問題（21世紀） 14.　まとめ

到達目標	ドイツ語圏の現代社会に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料や参考文献を予め読んでおくこと。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習すること。
テキスト	資料は適宜プリントを配布する。参考文献は必要に応じて指示する。
参考文献	特になし。
評価方法	①学期末試験 70%、②レポート 30%

09 年度以降	ドイツ語圏歴史概論 a	担当者	古田　善文

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　講義の目標は、近代以降のドイツ語圏（ドイツ以外にオーストリアも含む）の歴史の流れを受講生にわかりやすく解説することである。受講生は、主にフランス革命以降、この地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識と歴史的な「ものの見方」の習得をめざす。 講義概要： 　春学期は、フランス革命期から第一次世界大戦までを主要な対象時期に設定し、近代ドイツ国家成立のプロセスとその問題点を整理していく。授業では毎回レジュメを配布するほか、映像資料を使用し、解りやすい解説を心がける。	1. 授業計画、評価方法、参考文献等について 　歴史とは何か？ 2. 「記憶」をめぐる論争（1）ドイツ 3. 「記憶」をめぐる論争（2）オーストリア／日本 4. ビデオ上映と解説：映画『ショア』関連 5. マリア・テレジア以前 6. マリア・テレジア時代 7. 19世紀史（1）：ナポレオンとドイツ語圏 8. 19世紀史（2）：1848年革命 9. 19世紀史（3）：若きヒトラーと世紀末ウィーン 10. 現代の開幕（1）：ドイツ統一と世界帝国への夢 11. 現代の開幕（2）：第一次世界大戦（原因） 12. 映像で見る第一次世界大戦 13. 現代の開幕（3）：第一次世界大戦（経過） 14. まとめ

到達目標	ドイツ語圏の歴史に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の指定された箇所を事前に精読しておくこと。授業後は指示された関連文献を読みすすめ授業テーマについての理解を深めること。
テキスト	授業時に指示する。
参考文献	増谷英樹・古田善文 『図説オーストリアの歴史』河出書房新社 2011
評価方法	定期試験 70%　レポート 30%

09 年度以降	ドイツ語圏歴史概論 b	担当者	古田　善文

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　講義の目標は、ドイツ語圏（ドイツ以外にオーストリアも含む）の現代史（第一次世界大戦以降）を受講生にわかりやすく解説することである。受講生は 20 世紀にこの地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識と歴史的な「ものの見方」の習得をめざす。 講義概要： 　秋学期は、（1）ドイツ革命とワイマール共和国、（2）ヒトラーの独裁体制、（3）第二次世界大戦、（4）戦後ドイツの歩み、を主要なテーマとして、ドイツ語圏の激動の現代史を検討する。春学期と同様、授業では毎回レジュメを配布するほか、映像資料を使用し、解りやすい解説を心がける。	1. 革命の時代：ドイツ革命とオーストリア革命 2. ヴェルサイユ条約、サン・ジェルマン条約 3. ファシズムの誕生：イタリアのファシズム運動 4. ナチ運動の誕生 5. 危機の30年代（1）：民主政治システムの崩壊 6. 危機の30年代（2）：戦間期の国際政治 7. ビデオ上映と解説：「ナチズム」関連 8. 受容と抵抗（1）：ナチによる民衆統轄 9. 受容と抵抗（2）：反ナチ抵抗運動の諸相 10. 第二次世界大戦 11. 連合国によるドイツ占領改革 12. 東西ドイツの成立から「ベルリンの壁」建設 13. 「新東方外交」からドイツ統一まで 14. まとめ

到達目標	ドイツ語圏の歴史に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の指定された箇所を事前に精読しておくこと。授業後は指示された関連文献を読みすすめ授業テーマについての理解を深めること。
テキスト	授業時に指示する。
参考文献	増谷英樹・古田善文 『図説オーストリアの歴史』河出書房新社 2011
評価方法	定期試験 70%　レポート 30%

09 年度以降	ドイツ語圏の政治・経済 a	担当者	大重　光太郎

講義目的、講義概要	授業計画
2017年秋の連邦議会選挙では二大政党が大きく議席を減らすなか、極右政党が大きく伸長し初めて国会に議席を獲得しました。政権合意は難航し、今後も政治的な不安定化が予想されます。ドイツはEU最大の経済大国ですが、ドイツの帰趨はイギリスのEU離脱、難民問題で揺れるヨーロッパや国際政治に大きな影響を及ぼすことになるでしょう。ドイツ政治はどのような方向に動こうとしているのでしょうか。 春学期はこうした動きを横目に見ながら、政治領域に注目し、様々な切り口から考えていきます。毎回のテーマごとにドイツのあり方を国際比較のなかで特徴づけ、歴史と現状、現在の問題点などを見ていきます。 日本との比較を意識しながら進めていきます。参加者には時事問題に関するアンテナを広げておくことを期待します。	1. ガイダンス 2. 連邦主義：連邦制－単一国家、中央集権－地方自治 3. 立法：間接民主主義－直接民主主義 4. 行政：大統領制－議院内閣制 5. 司法：一元性－多元性、憲法裁判所 6. メディア：第四権力のあり方 7. 中央銀行：行政からの自立か、従属か 8. コーポラティズム：国際比較とドイツの特徴 9. 社会国家：ドイツの福祉国家の特徴は？ 10. 選挙：小選挙制か、比例代表制か 11. 政党：どのような政党があるか？ 12. 社会主義－共産主義－社会民主主義、東ドイツ 13. ポピュリズム：民主主義と何が違うか？ 14. まとめ

到達目標	ドイツ語圏の政治・経済に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義の後、プリントならびに授業で紹介した文献を読み、自分で関心を持ったテーマを調べてほしい。
テキスト	特定のテキストは使用しない。テーマごとに適宜指示する。
参考文献	西田慎・近藤正基『現代ドイツ政治　統一後の 20 年』ミネルヴァ書房、2014 年。
評価方法	毎回コメントペーパーを提出してもらう。学期末試験（70%）と平常点（30%）により評価する。

09 年度以降	ドイツ語圏の政治・経済 b	担当者	大重　光太郎

講義目的、講義概要	授業計画
一般にドイツは高度な福祉国家として知られています。ドイツでは福祉国家を表す場合、Sozialstaat（社会国家）という言葉がよく用いられています。ところがドイツにおいても、グローバル化の進展と国際競争の激化のなか、雇用の不安定、貧困率の増大、社会的格差の拡大が大きな経済的・社会的問題となっており、伝統的な社会国家が揺らいできています。 秋学期は、経済・社会の領域を対象とし、様々な切り口から考えていきます。毎回のテーマごとにドイツのあり方を国際比較のなかで特徴づけ、歴史と現状、現在の問題点などを見ていきます。 日本との比較を意識しながら進めていきます。参加者には時事問題に関するアンテナを広げておくことを期待します。	1. ガイダンス――講義の概要 2. 職業教育：職業資格の意味 3. 大学教育：勉強と就職の関係は？ 4. 教育と雇用へのつながり：日本との比較 5. 雇用システム：内部労働市場か、外部労働市場か 6. ワーク・ライフ・バランス：働き方の比較 7. 女性の就労：ドイツの特徴は？何が課題か？ 8. 労働組合：ドイツの特徴は？ 9. 経済民主主義、共同決定、コーポレート・ガバナンス 10. グローバリズム：メリットか、デメリットか？ 11. ネオ・リベラリズム：市場は善か、悪か？ 12. 少子・高齢化：どのように対応すべきか？ 13. 外国人（移民、難民）：統合に限界はあるか？ 14. まとめ

到達目標	ドイツ語圏の政治・経済に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義の後、プリントならびに授業で紹介した文献を読み、自分で関心を持ったテーマを調べてほしい。
テキスト	特定のテキストは使用しない。テーマごとに適宜指示する。
参考文献	西田慎・近藤正基『現代ドイツ政治　統一後の 20 年』ミネルヴァ書房、2014 年。
評価方法	毎回コメントペーパーを提出してもらう。学期末試験（70%）と平常点（30%）により評価する。

09 年度以降	ドイツ語圏の歴史 a	担当者	上村　敏郎

講義目的、講義概要	授業計画
外国に旅行したりして異文化に接すると、ちょっとした違和感を覚えることがあります。小さなあれっという感覚は私たちの社会常識の新しい側面に気づくきっかけになるかもしれません。歴史研究は、ある種の異文化研究です。過去という異文化に遭遇し、その理解を通じて自分たちの常識を見つめ直すことにつながっています。 本講義では文化史や社会史を中心としたさまざまなトピックを紹介します。一つ一つのトピックから歴史的な思考力を育み、物事を多面的に見る力をつけていくことを目的としています。また、その過程でドイツ語学科の学生が（ドイツ語圏の）歴史を学ぶ意義について考えていきます。 授業は講義形式で進行しますが、受講生には適宜、課題を出したり、グループワークを求めたりします。	第1回　授業ガイダンス　*受講生は原則参加必須 第2回　イントロダクション 第3回　歴史学の歴史：ランケとアナール学派etc. 第4回　身の周りにある歴史：娯楽作品と歴史 第5回　小括：物語と歴史、フィクションと歴史学 第6回　過去に異文化を見る文化史 第7回　中世という異文化：動物裁判、魔女裁判 第8回　ミクロヒストリー（小さな対象を深掘りする） 第9回　グローバルヒストリー（地球全体を視野に収める） 第10回　戴冠式の政治文化：マリア・テレジアを事例に 第11回　伝統は創造される？ドイツ帝国の伝統 第12回　陰謀論と歴史学、ユダヤ、フリーメイソン 第13回　○○が歴史を学ぶ意義とは？ 第14回　全体のまとめ *この授業計画は予定です。実際の構成はガイダンスで説明します

到達目標	ドイツ語圏の歴史に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義内で指示した課題をおこなう。講義内で取り上げた参考文献を読む。
テキスト	講義内で資料を配布する。
参考文献	講義内で適宜紹介する。
評価方法	課題（実施した場合は期末レポート、試験を含む）85%、講義への積極的な参加 15%

09 年度以降	ドイツ語圏の歴史 b	担当者	上村　敏郎

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期はハプスブルク君主国の歴史をテーマにします。目的は春学期同様、歴史的な思考力を育むことです。 テーマは ・啓蒙期の印刷メディアはハプスブルク君主国の社会にどのような影響を与えたのか？ ・なぜハプスブルク君主国は崩壊してしまったのか？ ・記憶がもたらす現代への影響、なぜ記念日を祝うのか？ 【例、2019年=日墺修好150周年】 の三本を考えています。 ただし、取り上げるテーマは変更する可能性があります。授業ガイダンスに必ず出席してください。 授業は講義形式で進行しますが、受講生には適宜、課題を出したり、グループワークを求めたりします。	第1回　授業ガイダンス　*受講生は原則参加必須 第2回　メディアと社会変化：導入講義 第3回　メディアと社会変化：発展講義 第4回　メディアと社会変化：アクティビティ 第5回　メディアと社会変化：小括 第6回　ハプスブルク君主国崩壊の理由：導入講義 第7回　ハプスブルク君主国崩壊の理由：発展講義 第8回　ハプスブルク君主国崩壊の理由：アクティビティ 第9回　ハプスブルク君主国崩壊の理由：小括 第10回　記憶をめぐる問題：導入講義 第11回　記憶をめぐる問題：発展講義 第12回　記憶をめぐる問題：アクティビティ 第13回　記憶をめぐる問題：小括 第14回　全体のまとめ *この授業計画は予定です。実際の構成はガイダンスで説明します

到達目標	ドイツ語圏の歴史に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義内で取り上げたテーマに関する参考文献を読む。指示された課題に取り組む。
テキスト	講義内で資料を配付する。
参考文献	ハプスブルク君主国の通史：岩﨑周一『ハプスブルク帝国』講談社、2017 年
評価方法	課題（実施した場合は期末レポート、試験を含む）85%、講義への積極的な参加 15%

09 年度以降	ドイツ語圏の地域・環境問題 a	担当者	岡村　りら

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　ドイツは「環境先進国」と言われていますが、どのようにして環境分野での成功を収めてきたのでしょうか。 そしてドイツは本当に「環境先進国」なのでしょうか。 　各分野でのドイツの取り組みを概観することにより「ドイツにおける環境問題と環境政策」についての理解を深めます。 　テレビやメディアで接する環境問題は、ほんの一部の情報でしかありません。この授業では環境問題を総体的、多角的に考察します。日本との比較なども織り交ぜながら、原因や解決方法を見出す知識を養うことも目標としています。 ＜講義概要＞ 　ドイツの環境問題・環境政策についての概観を学びます。 　春学期は主に、身近な問題である廃棄物・リサイクルを通じて環境問題への理解を深めます。	1. ガイダンス 2. 環境問題・環境政策の概要 3. ドイツ環境行政の歴史としくみ 4. 各主体（緑の党・企業・NGO・市民など）の役割 5. 廃棄物・リサイクル（概説） 6. 廃棄物・リサイクル（DSD） 7. 廃棄物・リサイクル（デポジット） 8. 放射性廃棄物・核燃料サイクル（概説） 9. 放射性廃棄物・核燃料サイクル（低・高レベル） 10. 放射性廃棄物・核燃料サイクル（核燃料サイクル） 11. 自然/動物保護 12. 食と環境（有機農業） 13. エコマーク 14. まとめ

到達目標	ドイツ語圏の地域・環境問題に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料を予習してください。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習をして下さい。
テキスト	資料は適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は必要に応じて指示します。
評価方法	学期末試験 70%、平常点、授業への参加度 30%に基づいて評価します。

09 年度以降	ドイツ語圏の地域・環境問題 b	担当者	岡村　りら

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　ドイツは「環境先進国」と言われていますが、どのようにして環境分野での成功を収めてきたのでしょうか。 そしてドイツは本当に「環境先進国」なのでしょうか。 　各分野でのドイツの取り組みを概観することにより「ドイツにおける環境問題と環境政策」についての理解を深めます。 　テレビやメディアで接する環境問題は、ほんの一部の情報でしかありません。この授業では環境問題を総体的、多角的に考察します。 日本との比較なども織り交ぜながら、原因や解決方法を見出す知識を養うことも目標としています。 ＜講義概要＞ 　ドイツの環境問題・環境政策についての概観を学びます。	1. ガイダンス 2. 旧東ドイツの環境問題 3. グローバル化と環境問題 4. 地球環境問題とは 5. 国際交渉と日独の役割（京都議定書） 6. 国際交渉と日独の役割（パリ協定） 7. 気候変動とエネルギー政策 8. 再生可能エネルギー 9. 再生可能エネルギーとビジネスチャンス 10. 気候変動と大気汚染・交通政策 11. 環境と観光 12. 環境教育 13. 環境意識 14. まとめ

到達目標	ドイツ語圏の地域・環境問題に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料を予習してください。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習をして下さい
テキスト	資料は適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は必要に応じて指示します。
評価方法	学期末試験 70%、平常点、授業への参加度 30%に基づいて評価します。 詳細は第 1 回の授業（ガイダンス）に説明をします。

09 年度以降	ドイツ語圏と EU a	担当者	伊豆田　俊輔

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ地域論 現在のEUやドイツ連邦共和国、ヨーロッパはどのように作られたでしょうか。本講義では、ドイツ語圏とEU（ヨーロッパ連合）について、歴史的な背景から考察します。 春学期では、二つの世界大戦と東西冷戦、および戦後のヨーロッパ統合史（現在のEU, 欧州連合）の三つを中心に扱います。この中でも、ヨーロッパ統合のはじまりから現在のEUに至るまで、中心的役割を果たしている「ドイツ」の歴史に的を絞り、ヨーロッパ統合とドイツの関係を見ていきます。 なお、この講義では、毎回短いコメントを書くことを求めています。これが「参加度」として評価される部分です。課題や質問に返答することができて、はじめて出席と見做されますので、ただ「来るだけ・いるだけ」では欠席扱いになります。	1. シラバスに基づいた授業ガイダンス 2. ドイツ帝国と第一次世界大戦 3. ヴァイマル共和国とヨーロッパ 4. ナチ・ドイツと第二次世界大戦 5. ドイツの敗戦と第二次世界大戦の帰結 6. 占領時代のドイツと冷戦のはじまり 7. 西ドイツ国家の誕生と西欧統合の始まり 8. 西ドイツの「長い60年代」と 西欧社会 9. ブラントの東方外交とヨーロッパ 10. 東ドイツ国家とヨーロッパ1949-1985 11. 1960-80年代の欧州統合の危機と進展 12. 冷戦終結と1989年の東欧革命 13. 東西ドイツ統一 14. 統一ドイツとEUの課題

到達目標	「ドイツ語圏と EU」に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	常に復習を心がけてください。また授業中に紹介した文献を自発的に読み進めることが好ましい。
テキスト	教科書は指定しない。
参考文献	参考文献は毎回レジュメに記載する。
評価方法	期末テスト 70%, 授業への参加度 30%を目安に、総合的に判断する。

09 年度以降	ドイツ語圏と EU b	担当者	伊豆田　俊輔

講義目的、講義概要	授業計画
ヨーロッパ地域論 現在のドイツ連邦共和国とEUは、それぞれどのような構造を持ち、どのような「危機」に直面しているのでしょうか。本講義では、ドイツ連邦共和国とEUの制度や問題について考えることを目的にしています。講義は3部構成です。最初に、ドイツとEUの基本的な政治制度について概説します（1-4回）。続いて、EUを結びつけている価値観や文化的な連帯について考察します（5-6回）。三番目に、冷戦終結以後の「ドイツ」と欧州の変容(7-9回)、および現在EUの「危機」と呼ばれている諸現象を取り扱います（10-14回）。なお、この講義では、毎回短いコメントを書くことを求めています。これが「参加度」として評価される部分です。課題や質問に返答することができて、はじめて出席と見做されますので、ただ「来るだけ・いるだけ」では欠席扱いになります。	1. シラバスに基づいた授業ガイダンス 2. 概説①―ドイツの政治制度 3. 概説②―EUの制度と課題 4. 概説③―ドイツのEU内における「大国化」？ 5. 「ソフト」な統合①―教育と歴史 6. 「ソフト」な統合②―EU市民権 7. 変容と「危機」①―東ドイツ問題 8. 変容と「危機」②―ドイツの移民国化 9. 変容と「危機」③―ドイツの「新右翼」 10. EUの「危機」①―EUの東方拡大 11. EUの「危機」②―憲法条約の失敗 12. EUの「危機」③―Brexit 13. EUの「危機」④―「欧州難民危機」 14. EUの「危機」⑤―ポピュリズム

到達目標	「ドイツ語圏と EU」に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	常に復習を心がけてください。また授業中に取り扱ったトピックスに関するニュースを見てください。
テキスト	教科書は指定しない。
参考文献	参考文献は毎回レジュメに記載する。
評価方法	期末テスト 70%, 授業への参加度 30%を目安に、総合的に判断する。

09 年度以降	テクスト研究 （現代社会・歴史） a	担当者	D．フジサワ

講義目的、講義概要	授業計画
Können wir anhand von Texten den Wandel in der Gesellschaft feststellen? Wie konstruieren wir Geschichte mit Hilfe von Texten? Wie haben sich Texte im Laufe der Zeit verändert? All diese Fragen sollen in diesem Kurs mit einer breiten Auswahl von Texten beantwortet werden. Im Zentrum stehen vor allem Texte aus der Nachkriegszeit. Die Texte werden in Partnerarbeit bzw. Gruppenarbeit gelesen und besprochen. Zudem wird eine Präsentation zu einem aktuellen Nachrichtenthema vorbereitet. In einer Projektarbeit wird sich dem Thema „Form, Bedeutung und die Olympiade 2020“ gewidmet. Der Roman „Die Weiße Rose“ wird zu Hause gelesen und eine zusammenfassende Präsentation zum Buch bildet den Abschluss des Kurses.	1. Semestereinführung 2. Der Roman „Die Weiße Rose“ 3. Fotos lesen 4. Sprache in der DDR vs BRD I - Recherche 5. Sprache in der DDR vs BRD II - Diskussion 6. Zensur 7. Politische Korrektheit 8. Gender Mainstreaming 9. „Schreiben im Netz der Sprachen“ 10. Symbole und die Olympiade 2020 I - Vorbereitung 11. Symbole und die Olympiade 2020 II - Vorstellung 12. Präsentation I - Gruppe A, B und C 13. Präsentation II - Gruppe D, E und F 14. Kursabschluss

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Alle Texte müssen zu Hause vorbereitet werden. Fragen zu den verschiedenen Texten dienen der Nachbreitung. Der Roman „Die Weiße Rose“ ist außerhalb des Unterrichts zu lesen.
テキスト	Die Texte werden im Unterricht zur Verfügung gestellt.
参考文献	特になし
評価方法	Vorbereitung der Texte und Mitarbeit im Unterricht 40%; die Vorstellung einer aktuellen Nachricht 20%; Präsentation und Zusammenfassung des Romans „Die Weiße Rose“ 40%

09 年度以降	テクスト研究 （現代社会・歴史） b	担当者	D．フジサワ

講義目的、講義概要	授業計画
Welche Rolle Spielen eigentlich Kinderbücher und Comics/ Mangas in einer modernen Gesellschaft? Wie kann Geschichte durch Texte manipuliert werden. Diesen Themen werden in diesem Kurs mit einer breiten Auswahl von Texten behandelt. Im Zentrum stehen vor allem Texte aus der Nachkriegszeit. Die Texte werden in Partnerarbeit bzw. Gruppenarbeit gelesen und besprochen. Zudem wird eine Präsentation zu einem beliebigen Text vorbereitet. In einer Projektarbeit wird sich dem Thema „Fake News“ gewidmet. Der Roman „Die Wolke“ wird zu Hause gelesen und eine zusammenfassende Präsentation zum Buch bildet den Abschluss des Kurses.	1. Semestereinführung 2. Der Roman „Die Wolke“ 3. Vater & Sohn I - Interpretation 4. Vater & Sohn II - Diskussion 5. Janosch I - Analyse 6. Janosch II - Vergleich mit Original 7. Moderne Kommunikation I - Soziale Netzwerke 8. Moderne Kommunikation II - Sprachwandel 9. Fake News I - Recherche und Vorbereitung 10. Fake News II - Gruppe A, B und C 11. Fake News III - Gruppe D, E und F 12. Präsentation I - Gruppe A, B und C 13. Präsentation II - Gruppe D, E und F 14. Kursabschluss

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Alle Texte müssen zu Hause vorbereitet werden. Fragen zu den verschiedenen Texten dienen der Nachbreitung. Der Roman „Die Wolke“ ist außerhalb des Unterrichts zu lesen.
テキスト	Die Texte werden im Unterricht zur Verfügung gestellt.
参考文献	特になし
評価方法	Vorbereitung der Texte und Mitarbeit im Unterricht 10%; die Vorstellung einer aktuellen Nachricht 10%; Projekt „Fake News“ 40%; Präsentation und Zusammenfassung des Romans „Die Wolke“ 40%

09 年度以降	テクスト研究 （現代社会・歴史） a	担当者	H．W．ラーデケ

講義目的、講義概要	授業計画
Schwerpunkt des Kurses ist das Arbeiten mit Texten und damit die Verbesserung des Leseverstehens. Dabei verwenden wir Lesetexte mit einem breiten Spektrum von Themen aus verschiedenen Bereichen der modernen Gesellschaft, wie Politik, Sport, Geistesleben, Kunst, Umweltschutz u.s.w. Die Auswahl der Texte geht in erster Linie von aktuellen Ereignissen und vom Tagesgeschehen aus. Deshalb können hier noch keine konkreten Texte erwähnt werden. In der Liste rechts finden sich Themen-Beispiele. Geographisch liegt der Schwerpunkt auf den deutschsprachigen Ländern, es können aber auch Themen vorkommen, die sich auf andere Regionen beziehen. Neben dem eigentlichen Textverständnis werden auch Wortschatz und grammatische Strukturen geübt, die in den Texten vorkommen.	1. Einstieg, Präsentation der Kursinhalte mit Textbeispiel. 2. Beginn der Arbeit mit Texten (2 pro Unterrichtseinheit): Erstes Thema z.B.: Wie Landwirtschaft der Umwelt schadet 3. Diskriminierung im deutschen Film? 4. Donald Trumps deutsche Wurzeln 5. Karneval für Nicht-Rheinländer 6. Dada – Eine Antwort auf den Krieg 7. Test 1 + kurze Textarbeit 8. Partnerwahl von heute 9. Deutschland und seine Königinnen 10. Arm in einem reichen Land 11. BMW: NS-Vergangenheit und Verantwortung 12. Wahl in Deutschland – AfD gewinnt Stimmen 13. Test 2 + kurze Textarbeit 14. Die Geschichte des Nussknackers

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben in Art und Umfang variabel, abhängig von den jeweiligen Kursinhalten.
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.
参考文献	Der Kursleiter erhält die aktuellen Texte Woche für Woche aus dem Internet. Die Themen oben sind Beispiele.
評価方法	50%: Aktive Mitarbeit während des Kurses. 50%: Mindestens zwei schriftliche Tests zum Leseverstehen.

09 年度以降	テクスト研究 （現代社会・歴史） b	担当者	H．W．ラーデケ

講義目的、講義概要	授業計画
Formal ähnelt dieser Kurs dem des letzten Semesters, d.h. es geht vor allem um Leseverstehen, Wortschatz und grammatische Strukturen bei Texten aus einem breiten Themenkreis des modernen Gesellschaftslebens, vor allem in den deutschsprachigen Ländern. Da die Texte aktuelle Vorgänge bzw. das Tagesgeschehen beschreiben, unterscheiden sie sich natürlich erheblich von denen des Sommersemesters. Auch hier lässt sich naturgemäß nicht vorhersagen, welche Texte die konkrete Grundlage des Kurse bieten. Deshalb in der Liste rechts weitere Beispiele für mögliche Themen.	1. Einstieg, Präsentation der Kursinhalte mit Textbeispiel 2. Beginn der Textarbeit (2 Texte pro Unterrichtseinheit) Im Folgenden Themenbeispiele: Zum Tod von Hans-Dietrich Genscher 3. Umweltschützer gegen Kaffeekapseln 4. Die Geheimdienstakten einer Diktatur 5. Jüdische Biertradition 6. Was tun mit dem Atommüll? 7. Test 1 + kurze Textarbeit 8. Der ESC: Europas größte Musikshow 9. Die „Stolpersteine“: Ein einzigartiges Denkmal 10. Aufregung um den Brexit 11. Graffiti – mehr als nur Schmierereien 12. Morddrohungen gegen Politiker 13. Test 2 + Kurze Textarbeit 14. Der Vernichtungskrieg der Wehrmacht

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben in Art und Umfang variabel, abhängig von den jeweiligen Kursinhalten.
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.
参考文献	Der Kursleiter erhält die aktuellen Texte Woche für Woche aus dem Internet. Die Themen oben sind Beispiele.
評価方法	50%: Aktive Mitarbeit während des Kurses. 50%: Mindestens zwei schriftliche Tests zum Leseverstehen.

09 年度以降	テクスト研究（現代社会・歴史） a	担当者	M. ビティヒ

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs werden wir uns mit der Lektüre einer Erzählung des deutschen Schriftstellers Fred Uhlman beschäftigen. Es handelt sich dabei um die Novelle „Der wiedergefundene Freund“. Sie handelt von zwei 16-jährigen Jungen, deren Freundschaft am Nationalsozialismus zerbricht. Neben der Lektüre des Textes wird es insbesondere auch um dessen inhaltliche Kontextualisierung vor dem Hintergrund des politischen Geschehens in Deutschland zu Beginn der 1930er Jahre gehen. Im Unterricht werden die Kapitel des Textes von den Studierenden vorgestellt und besprochen bzw. gemeinsam gelesen. Darüber hinaus hält jede/r Studierende ein Referat zu einem lektürerelevanten Thema.	1. Kurseinführung, Autoren- und Textvorstellung 2. Besprechung von Kapitel 1 und 2 (S. 11-25) 3. Besprechung von Kapitel 3, 4 und 5 (S. 25-37) 4. Besprechung von Kapitel 6 und 7 (S. 38-53) 5. Besprechung von Kapitel 8 und 9 (S. 54-61) 6. Besprechung von Kapitel 10, 11 und 12 (S. 62-73) 7. Besprechung von Kapitel 13, 14 und 15 (S. 74-93) 8. Besprechung von Kapitel 16 und 17 (S. 93-107) 9. Besprechung von Kapitel 18 und 19 (S. 108-116) 10. Referatssitzung I (Teil A: Themen Kapitel 1-9) 11. Ansehen der Verfilmung von Jerry Schatzberg 12. Diskussion der Verfilmung 13. Referatssitzung II (Teil B: Themen Kapitel 10-19) 14. Abschlussdiskussion

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参加者全員が事前にプリントを熟読して授業に臨むこと。事後学修としては、授業中に紹介された参考文献を読むことが求められる。
テキスト	Fred Uhlmann (1998): Der wiedergefundene Freund. Zürich: Diogenes.
参考文献	コピーを配付する。
評価方法	訳担当（30%）、研究発表（20%）、期末レポート（50%）により評価

09 年度以降	テクスト研究（現代社会・歴史） b	担当者	M. ビティヒ

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs werden wir uns anhand verschiedener Darstellungen der Geschichte Deutschlands, Österreichs und der Schweiz aber auch Monographien zur Weltgeschichte mit Themen des Zweiten Weltkriegs beschäftigen. Zu den verschiedenen Themen werden Texte verteilt, die jeweils vor dem Unterricht zu lesen sind. Im Unterricht werden diese dann von den Studierenden vorgestellt und besprochen bzw. gemeinsam gelesen. Darüber hinaus hält jede/r Studierende ein Referat zu einem der behandelten Themen.	1. Kurseinführung, Autoren- und Textvorstellung 2. Zum Ausbruch des Zweiten Weltkriegs 3. Die Achsenmächte: Deutschland, Italien, Japan 4. Der Holocaust 5. Kriegsende in Europa 6. Österreich im nationalsozialistischen Deutschen Reich 7. Täter oder Opfer? Österreicher im Dritten Reich 8. Österreichischer Widerstand 9. Die bewaffnete Neutralität der Schweiz 10. Nationalsozialismus in der Schweiz? 11. Die Flüchtlingspolitik der Schweiz 12. Referatssitzung I (Deutschland) 13. Referatssitzung II (Österreich / Schweiz) 14. Abschlussdiskussion

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参加者全員が事前にプリントを熟読して授業に臨むこと。事後学修としては、授業中に紹介された参考文献を読むことが求められる。
テキスト	コピーを配付する。
参考文献	授業時に指示する。
評価方法	担当（30%）、研究発表（20%）、期末レポート（50%）により評価

09 年度以降	テクスト研究 (現代社会・歴史) a	担当者	R．メッツィング

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs werden wir Videosequenzen (etwa 4 Minuten) über das gesellschaftliche Leben in Deutschland sehen. Die Filmaufnahmen kommen von der Deutschen Welle. Dazu gibt es Fragen, die gelöst werden sollen. Niveau (A2) B1. In der vorletzten Stunde im Semester wird ein Test geschrieben.	1. Einführung und Erklärung des Kurses 2. Schule 3. Mode 4. Fußball 5. Lesen 6. Wandern 7. Wohnen 8. Organisieren 9. Musik 10. Auto 11. Migration 12. Geld 13. Test. Urlaub 14. Spiele

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Die Hausaufgabe besteht darin, die Aufgaben zum Video noch einmal zu wiederholen.
テキスト	Es werden Kopien im Unterricht verteilt.
参考文献	特になし。
評価方法	Die mündliche Beteiligung wird mit 40% und der Test mit 60% bewertet.

09 年度以降	テクスト研究 (現代社会・歴史) b	担当者	R．メッツィング

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs geht es weiter wie im Sommersemester 2019 mit neuen Videosequenzen. Zu jedem Video gibt es Textaufgaben, die im Unterricht bzw. zu Hause gelöst werden sollen. Ab der neunten Unterrichtseinheit wird ein neues Buch, „Alltag in Deutschland“ benutzt. Hieraus werden die Themen mit Dialogen genommen. (Niveau B1) In der vorletzten Stunde wird ein Test geschrieben.	1. Einführung und Erklärung des Kurses 2. Kuscheltiere 3. Biolebensmittel 4. Mentalität 5. Kälte 6. Kunst 7. Wurst 8. Bier 9. Medikamente und Hilfsmitte 10. Freizeitangebote 11. Sport 12. Kommunikationsmittel 13. Test. Ausländeramt 14. Ärzte und Adressen

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Die Hausaufgabe besteht darin, die Aufgaben vom Unterricht zu wiederholen und den Wortschatz zu lernen
テキスト	Es werden Kopien im Unterricht verteilt.
参考文献	特になし。
評価方法	Die mündliche Beteiligung wird mit 40% und der Test mit 60% bewertet.

09 年度以降	テクスト研究 （現代社会・歴史） b	担当者	S．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs lesen wir deutsche Märchen, und beantworten die Textfragen dazu. Wir machen Partnergespräche zu Themen, die in den Märchen angesprochen warden. Mit Märchentexten　kann man eine Sprache gut lernen! Wir wollen nicht übersetzen, sondern den Text durch Fragen erschliessen.	1. Der Wolf und die sieben Geisslein, S. 19 2. Der Wolf und die sieben Geisslein, S. 20 3. Der Wolf und die sieben Geisslein, S. 21 4. Der Wolf und die sieben Geisslein, S. 22 5. Der Wolf und die sieben Geisslein, S. 23 6. Der Wolf und die sieben Geisslein, S. 24 7. Der Zaubererwettkampf, S. 11 8. Der Zaubererwettkampf, S. 12 9. Der Zaubererwettkampf, S. 13 10. Der Zaubererwettkampf, S. 14 11. Der Zaubererwettkampf, S. 15 12. Der Zaubererwettkampf, S. 16 13. Hoeruebungen zu den Maerchen, Videos 14. Mündliche und schriftliche Referate zu den Märchen

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	3mal im Semester schreiben Sie zu Hause einen Aufsatz mit 200 Wörtern, oder Sie halten im Unterricht ein Referat.
テキスト	Wir benutzen FÜNF MÄRCHEN von H.von Eckardstein, F.Kawanishi）
参考文献	特になし
評価方法	Es gibt Punkte für die schriftlichen Hausaufgaben und einen Test am Ende des Semesters.1:1:1:1.

09 年度以降	テクスト研究 （現代社会・歴史） a	担当者	T．マイヤー

講義目的、講義概要	授業計画
Im Kontext der regelmäßig wiederkehrenden Diskussion um eine so genannte „deutsche Leitkultur“, erschien 2011 das Buch „Die deutsche Seele“ von Thea Dorn, einer Philosophin und Literaturwissenschaftlerin, und Richard Wagner, einem aus Rumänien stammenden Schriftsteller (Ehemann der Literaturnobelpreis-trägerin Herta Müller). Anhand verschiedener Themen versuchten sie herauszuarbeiten, was im 21. Jahrhundert eigentlich noch “typisch deutsch” ist. Die Texte geben Einblick in die deutsche Alltagskultur und Geschichte. Im Unterricht sollen einige Kapitel aus dem Buch gelesen und diskutiert werden. Es können je nach Interessenlage und Diskussionsentwicklung noch Themenänderungen vorgenommen werden.	1. Einführung / Abendbrot 2. Kleinstaaterei 3. Rabenmutter 4. Schadenfreude 5. Sozialstaat I (S. 425-427) 6. Sozialstaat II (S. 428-430) 7. Kitsch 8. Freikörperkultur I (S. 152-156) 9. Freikörperkultur II (S. 157-161) 10. Wiedergutmachung I (S. 535-537) 11. Wiedergutmachung II (S. 538-540) 12. Winnetou 13. Prüfung im Rahmen des Unterrichts 14. Was ist die „deutsche Seele“? / Zusammenfassung

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Die Texte werden in der Regel im Unterricht gelesen und sind bisweilen zu Hause vorzubereiten. Im Unterricht unerledigte Aufgaben sind eventuell als Hausaufgabe zu beenden. Dies sollte sich jeweils in einem Rahmen zwischen 15 und 30 Minuten bewegen.
テキスト	Die Texte werden digital übermittelt oder als Kopien ausgeteilt.
参考文献	Thea Dorn/Richard Wagner: Die deutsche Seele. München 2011.
評価方法	Die Note setzt sich zusammen aus der Mitarbeit im Unterricht (60%) und einem Multiple-Choice-Test (40%), der sich auf die bearbeiteten Themen und daran anschließenden Diskussionen bezieht.

09 年度以降	テクスト研究 （現代社会・歴史） b	担当者	T．マイヤー

講義目的、講義概要	授業計画
Selbst für Atheisten ist die Bibel in Deutschland immer noch ein wichtiger Metatext, der wirkungsmächtige Urbilder von ethischem und sozialem Verhalten bereithält, die nach wie vor virulent sind – auch dann, wenn man die entsprechenden Bibeltexte gar nicht genau kennt. Im Unterricht sollen einige zentrale Bibeltexte (in vereinfachter Form einer Kinderbibel-Version) gelesen und auf ihren sozialethischen Gehalt hin untersucht werden. Die Teilnehmer sollen dabei die Möglichkeit erhalten zu verstehen, wie Mythen, Geschichten und Literatur sich im kollektiven Gedächtnis von Gesellschaften niederschlagen und allgemeine Denk-, Sprech- und Handlungsweisen beeinflussen können.	1. Einführung / Schöpfungsgeschichte 2. Paradies 3. Kain und Abel 4. Turmbau zu Babel 5. Abrahams Opfer 6. Josef und Seine Brüder / Als Sklave in Ägypten 7. Der Traum des Pharao / Josef rettet die Ägypter 8. Das Goldene Kalb 9. David und Goliath 10. Jesus‘ Wundertaten 11. Abendmahl / Der Verrat / Die Nacht am Ölberg 12. Gefangennahme / Urteil / Tod am Kreuz 13. Prüfung im Rahmen des Unterrichts 14. Schlussbetrachtung

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Die Texte werden in der Regel im Unterricht gelesen und sind bisweilen zu Hause vorzubereiten. Im Unterricht unerledigte Aufgaben sind eventuell als Hausaufgabe zu beenden. Dies sollte sich jeweils in einem Rahmen zwischen 15 und 30 Minuten bewegen.
テキスト	Die Texte werden digital übermittelt oder als Kopien ausgeteilt.
参考文献	Erich Jooß: Die Bibel erzählt für Kinder. Freiburg/Basel/Wien 2007
評価方法	Die Note setzt sich zusammen aus der Mitarbeit im Unterricht (60%) und einem Multiple-Choice-Test (40%), der sich auf die bearbeiteten Themen und daran anschließenden Diskussionen bezieht.

09 年度以降	テクスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	秋山　大輔

講義目的、講義概要	授業計画
2009年にノーベル文学賞を受賞したヘルタ・ミュラー（1953-）のエセー「Jedes Wort weiß etwas vom Teufelskreis」（あるいはエセー「Gelber Mais und keine Zeit」）を精読した上で、短篇「Die Meinung」を精読し（たいと考えてい）ます。上記のテクストから抽出しうる問題は、「ドイツの戦後社会」「(ルーマニアのドイツ語を母語とする）少数民族」「ドイツの戦争責任」「(ナチスとソ連の）強制収容所」「戦争と記憶」「秘密警察（警察国家）」「監視社会」「暴力」などが考えられます。また彼女は短篇・長篇小説を書き、コラージュを拵えるため、「言葉」や「文学」の問題も関係するのは言うまでもありません。したがって（学年や）専修を問わず、ドイツ語で書かれたまとまった分量のテクストを精確に読めるようになりたいというドイツ語基礎の内容をすでに一通り学習した学生であればどなたでも歓迎します。	1. Einführung 2. *Jedes Wort weiß etwas vom Teufelskreis* S. 7 L. 1-17 3. desgl. S. 7 L. 18-S. 8 L. 20 4. desgl. S. 8 L. 21-S. 12 L. 3 (Referat mit Resümee) 5. desgl. S. 12 L. 4-S. 14. L. 24 (Referat mit Resümee) 6. desgl. S. 14 L. 25-S. 17 L. 15 (Referat mit Resümee) 7. desgl. S. 17 L. 16-S. 19 L. 2 (Referat mit Resümee) 8. desgl. S. 19. L. 3-S. 20 L. 19 (Referat mit Resümee) 9. desgl. S. 20 L. 20-S. 21 L. 25 (Referat mit Resümee) 10. Zusammenfassung des Essays 11. *Die Meinung* S. 157 L. 1-23 12. desgl. S. 157 L. 24-S.159 L. 2 13. desgl. S. 159 L.3-24 14. Zusammenfassung der Erzählung

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業に臨むにあたり、時間を充分にかけて予習することを前提にします、と言いたいくらいそれを期待しています。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	授業内で紹介します。
評価方法	講座の性格上、平常点を極めて重視します（100%)。ただしこれは出席すればそれで事足りるという安易なものではありません。毎回出来る限りの準備をした上で授業に臨むことが必須です。その準備の成果をレジュメを用意した上での口頭発表や、それを受けての議論の中で披露していただきます。万が一履修者があまりにも多い場合には、学期末テストを実施するか、レポートを課します。

09 年度以降	テクスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	秋山　大輔

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同様に、2009年にノーベル文学賞を受賞したヘルタ・ミュラー(1953-)を取り上げます。彼女のエセー「Gelber Mais und keine Zeit」（あるいはエセー「Der Fremde Blick oder Das Leben ist ein Furz in der Laterne」を精読した上で、時間にゆとりがあれば、短篇「Die Grabrede」、「Meine Familie」、「Herr Wultschmann」の中からいずれか一篇を精読し（たいと考えてい）ます。上記のテクストから抽出しうる問題もやはり春学期と同様です。物語の舞台はどれも、チャウシェスク独裁政権の時代の、ルーマニアの、しかもドイツ語を母語とする人々が暮らしていた地域を彷彿させます。このようにわたしたちから時間的にも距離的にも離れている上に環境が特殊であっても、（日本でいまこの現代社会を生きる）わたしたちにとっても普遍的なことが読み取れ、有益な議論ができるのではないかと考え、これらのテクストを用意しました。	1. *Gelber Mais und keine Zeit* S. 125 L. 1-17. 2. desgl. S. 125 L. 18-S. 126 L. 30 3. desgl. S. 126 L. 31-S. 128 L. 28 4. desgl. S. 128 L. 29-S. 129 L. 20 (Referat mit Resümee) 5. desgl. S. 129 L. 21-S.132 L. 4 (Referat mit Resümee) 6. desgl. S. 132 L. 5-S. 133 L. 10 (Referat mit Resümee) 7. desgl. S. 133 L. 11-S. 135 L. 9 (Referat mit Resümee) 8. desgl. S. 135 L. 10-S. 137 L. 8 (Referat mit Resümee) 9. desgl. S. 137 L. 9-S. 140 L. 18 (Referat mit Resümee) 10. desgl. S. 140 L. 19-S. 141 L. 19 (Referat mit Resümee) 11. desgl. S. 141 L. 20-S. 143 L. 3 (Referat mit Resümee) 12. desgl. S. 143 L. 4-S. 144 L. 15 (Referat mit Resümee) 13. S. 144 L. 16-S. 145 L. 23 (Referat mit Resümee) 14. Zusammenfassung des Essays

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業に臨むにあたり、時間を充分にかけて予習することを前提にします、と言いたいくらいそれを期待しています。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	授業内で紹介します。
評価方法	講座の性格上、平常点を極めて重視します（100%)。ただしこれは出席すればそれで事足りるという安易なものではありません。毎回出来る限りの準備をした上で授業に臨むことが必須です。その準備の成果をレジュメを用意した上での口頭発表や、それを受けての議論の中で披露していただきます。万が一履修者があまりにも多い場合には、学期末テストを実施するか、レポートを課します。

09 年度以降	テクスト研究（現代社会・歴史） a	担当者	井上　周平

講義目的、講義概要	授業計画
マイノリティをはじめとする特定の社会集団に対する差別や迫害は、時代や地域にかかわらず大きな問題であり続けています。過去の現象に目を向けることで、そうした問題を考える糸口を得ることができるかもしれません。 この授業では「前近代ヨーロッパにおける迫害」をテーマとして、概説的な内容のテクストを講読します。春学期は、「黒死病流行期のユダヤ人迫害」についてのテクストを取り上げます。 まとまった分量のドイツ語の内容を正確に理解し、議論の展開を把握する力を養うだけでなく、記述の背景や関連事項、専門用語を調べ、可能であれば史資料の日本語訳などを参照して、読解を深めていくことも訓練します。 初回で講読の分担や成績評価についての説明を行いますので､欠席の場合は必ず事前に sinoue@dokkyo.ac.jp まで連絡して下さい。	1. 導入（授業の進め方とテクストの概要の説明） 2. 講読の基礎の確認 3. 邦語文献紹介発表（基本文献） 4. 講読①（鞭打ち苦行者とユダヤ人迫害・前半） 5. 講読②（鞭打ち苦行者とユダヤ人迫害・後半） 6. 講読③（14世紀の年代記・前半） 7. 講読④（14世紀の年代記・後半） 8. 中間まとめ 9. 邦語文献紹介発表（関連文献） 10. 講読⑤（中世都市とユダヤ人・前半） 11. 講読⑥（中世都市とユダヤ人・後半） 12. 講読⑦（黒死病流行期のユダヤ人に対する偏見） 13. 講読⑧（15世紀のユダヤ人追放） 14. 全体のまとめ ※実際の進度に応じて計画が前後する場合があります。

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	分担を決めるので、担当者は担当分の訳文を事前に提出し、文法と内容について解説できるよう準備します。担当者以外も全員が予定分のテクストを読み、担当者の解説に基づいて討論できるようにします。
テキスト	コピーを配付します。
参考文献	授業中に紹介します。
評価方法	講読への参加（担当部分の解説・発表）50%、討論への参加 50%

09 年度以降	テクスト研究（現代社会・歴史） b	担当者	井上　周平

講義目的、講義概要	授業計画
マイノリティをはじめとする特定の社会集団に対する差別や迫害は、時代や地域にかかわらず大きな問題であり続けています。過去の現象に目を向けることで、そうした問題を考える糸口を得ることができるかもしれません。 この授業では「前近代ヨーロッパにおける迫害」をテーマとして、概説的な内容のテクストを講読します。秋学期は、「近世の魔女迫害」についてのテクストを取り上げます。 まとまった分量のドイツ語の内容を正確に理解し、議論の展開を把握する力を養うだけでなく、記述の背景や関連事項、専門用語を調べ、可能であれば史資料の日本語訳などを参照して、読解を深めていくことも訓練します。 初回で講読の分担や成績評価についての説明を行いますので、欠席の場合は必ず事前に sinoue@dokkyo.ac.jp まで連絡して下さい。	1. 導入（授業の進め方とテクストの概要の説明） 2. 講読の基礎の確認 3. 邦語文献紹介発表（基本文献） 4. 講読①（魔女迫害前史） 5. 講読②（15世紀） 6. 講読③（魔女への鉄槌） 7. 講読④（カール五世刑事裁判令） 8. 中間まとめ 9. 邦語文献紹介発表（関連文献） 10. 講読⑤（16世紀・前半） 11. 講読⑥（16世紀・後半） 12. 講読⑦（17世紀・前半） 13. 講読⑧（17世紀・後半） 14. 全体のまとめ ※実際の進度に応じて計画が前後する場合があります。

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	分担を決めるので、担当者は担当分の訳文を事前に提出し、文法と内容について解説できるよう準備します。担当者以外も全員が予定分のテクストを読み、担当者の解説に基づいて討論できるようにします。
テキスト	コピーを配付します。
参考文献	授業中に紹介します。
評価方法	講読への参加（担当部分の解説・発表）50%、討論への参加 50%

09 年度以降	テクスト研究（現代社会・歴史） a	担当者	黒田　多美子

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツの学校ではどのような教科書で歴史を学んでいるのでしょうか。またどのような学習目標とコンセプトで教科書が編集されているのでしょうか。この授業では、実際にドイツの中学校で使われている教科書から、ドイツの歴史認識を特徴づける部分を抜粋して講読します。 ドイツの中学校の歴史教育では、現代に近づけば近づくほど詳しく、資料も多くなってきます。そして資料解釈と討論が歴史授業での重要な要素になっています。日本の中学校や高等学校で、事項の説明や年号の暗記を中心に歴史を学んできた学生にとっては、資料の豊富なドイツの教科書を読解することで歴史への新しい視点を得る契機となることでしょう。 授業では、ドイツの歴史の教科書の講読や自主的な調査・発表を通してドイツ史に関する知識を習得するとともに、単にドイツ語を日本語に翻訳するのではなく、内容を正確に把握して著者・編者の意図を解析することに重点を置いています。	1. ガイダンス（授業の進め方・評価方法・テクストについて） 2. ドイツの教育制度／歴史教育／教科書について 3. Jüdisches Leben in Früher Neuzeit und Absolutismus 4. Der Kampf um Emanzipation von der Aufklärung bis 1848/49 5. Zwischen Emanzipation und Antisemitismus im Kaiserreich 6. Krisenbewusstsein und kultureller Aufbruch 7. Jüdisches Leben in Deutschland seit 1945 8. Historiengemälde deuten 9. Kriegerdenkmäler in Niedersachsen erkunden 10. Fotos analysieren 11. Versailles- Symbol der deutsch-französischen Geschichte 12. Die Revolution 1918/19 13. Politische Plakate untersuchen 14. まとめ

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業には予習をして臨むことが前提で、自発的に発表することが求められます。
テキスト	Forum Geschichte (Niedersachsen) 9/10, Cornelsen, 2010. プリント配布します。 Band 4 für die Jahrgangsstufen 9 und 10, C.C. Buchners Verlag, 2013.
参考文献	特になし。
評価方法	試験 70%、授業中の発表 30%を目安に総合的に評価します。

09 年度以降	テクスト研究（現代社会・歴史） b	担当者	黒田　多美子

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツの学校ではどのような教科書で歴史を学んでいるのでしょうか。またどのような学習目標とコンセプトで教科書が編集されているのでしょうか。この授業では、実際にドイツの中学校で使われている教科書から、ドイツの歴史認識を特徴づける部分を抜粋して講読します。 ドイツの中学校の歴史教育では、現代に近づけば近づくほど詳しく、資料も多くなってきます。そして資料解釈と討論が歴史授業での重要な要素になっています。日本の中学校や高等学校で、事項の説明や年号の暗記を中心に歴史を学んできた学生にとっては、資料の豊富なドイツの教科書を読解することで歴史への新しい視点を得る契機となることでしょう。 授業では、ドイツの歴史の教科書の講読や自主的な調査・発表を通してドイツ史に関する知識を習得するとともに、単にドイツ語を日本語に翻訳するのではなく、内容を正確に把握して著者・編者の意図を解析することに重点を置いています。	1. ガイダンス（授業の進め方・評価方法・テクストについて） 2. Die „Machtergreifung“ im Reich 3. Machtsicherung und „Gleichschaltung“ 4. Herrschaft durch Propaganda－Feier-und Festkultur 5. Propaganda-Medien analysieren 6. Das Ideal der “Volksgemeinschaft” 7. Frauen in der “Volksgemeinschaft” 8. Freizeit im NS-Staat 9. Propaganda und Politik gegen Juden 10. Der Novemberpogrom 1938 11. Die Sprache der Verschleierung und Aggression 12. Polotische Reden analysieren 13. Rechtsextremismus heute 14. まとめ

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業には予習をして臨むことが前提で、自発的に発表することが求められます。
テキスト	Forum Geschichte (Niedersachsen) 9/10, Cornelsen, 2010. プリント配布します。
参考文献	特になし。
評価方法	試験 70%、授業中の発表 30%を目安に総合的に評価します。

09 年度以降	テクスト研究 （現代社会・歴史） a	担当者	中川　純子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業ではドイツの新聞またはインターネットで配信された時事ニュースを読むこと、さらにテーマに基づいて各自がレポートを書き、学期の最後までに完成させることの二本立てで進めます。春学期のテーマは「多文化共生」を予定しています。本授業のレポートはただ調べてまとめるものではなく、問題意識を持ち、自分なりの主張や解決策を具体的に提案するものです。テーマは多文化共生に関するものであれば自由です。社会・文化・言語・教育など多角的な検討を通じて、様々な問題について考えていきたいと思います。授業では各自のテーマ選びから文献収集、アウトライン執筆、第1稿から第2稿提出まで段階的に行います。全てのプロセスは授業内でグループワーク、発表などを通じ、ディスカッションしながら行います。レポートは2500字～3000字程度、授業内で中間発表、最終発表など随時発表と検討の機会を設けます。	毎回のテキスト読解のほか、レポート作成は以下の段階で進めます。 1. イントロダクション 2. レポートテーマ整理 3. 資料整理 4. 用語の定義 5. レポートの主張を整理 6. テーマ講評 7. 中間発表 8. アウトライン構想 9. アウトライン完成 10. アウトライン講評 11. 第1稿チェック 12. 第1稿発表 13. 第2稿発表 14. 第2稿講評・まとめ

到達目標	専門的なドイツ語テクストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。レポートは家での準備と執筆が中心になります。本講座の参加は資料を調べ、執筆を行う時間があることを前提とします。
テキスト	テキストはプリントにて授業内で配布します。
参考文献	特になし。
評価方法	アウトライン 10 % 第 1 稿 20% 第 2 稿 30%　小テスト 30% 授業への参加度 10%

交 流 文 化 論

13 年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、多様化など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的な知識の習得を目的としている。 講義概要： 　本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。また、様々なビジネス理論の解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。タイミングが合えば、航空関係者を招聘し特別講演を実施する。	1. オリエンテーション 2. 最近の航空産業の動きなど 3. 航空産業とキャリアデザイン 4. 航空とは何か 5. 航空の歴史 6. LCC（低コスト航空会社）が世界を変える 7. 航空事業の特性と運賃 8. 米国チャプター11（連邦破産法第 11 章） 9. JAL の破綻と復活 10. 規制緩和とオープンスカイ政策 11. 航空機製造ビジネス 12. 三菱リージョナルジェット（MRJ）飛翔 13. 空港 14. 国際航空法

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習の実施。
テキスト	教科書：『最新・航空事業論（第 2 版）』（2016 年 12 月、日本評論社）
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画 30%、最終試験 70%。

13 年度以降	交流文化論（ツーリズム特殊講義 （紛争事例から学ぶ旅行契約法入門)）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、旅行契約に関わる具体的な紛争事例の解決策を検討することを通じて、旅行契約に関わる法（主に民法）のあり様と基本的な考え方を学びます。全部で3つの紛争事例を課題として取り上げる予定ですが、各事例の解決に向けて、グループで活動をしながら、課題の解決に必要な知識や技能、態度を協調的・自立的に学習していきます。最後に総仕上げとして、口頭発表会を開催して、各自（履修者数によってはグループごと）の学習成果を発表したうえ、それをレポートにまとめて提出します。 この授業を通じて、旅行契約において生じる法的問題のうち、少なくとも1つについて、法律学を学習したことのない人に対して、分かりやすく、自分の言葉で、簡潔に（口頭5分、文書2000字程度)、ただし法的思考の作法に従って解答することができるようになることを目指します（これがこの授業の獲得目標の一つになります)。 具体的な授業の進め方や成績評価の方法などについては、第1回のオリエンテーションで詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。	1. オリエンテーション 2. PBL ガイダンスと練習 3. IRAC エクササイズ 4. 第 1 事例（その 1)：事例を検討して学習課題を抽出。 5. 第 1 事例（その 2)：学習事項を共有したうえで、事例を再度検討し、追加の学習課題を抽出。 6. 第 1 事例（その 3)：学習事項を共有したうえで、解決策を検討。教員による解説・解題。 7. 第 2 事例（その 1)：第 1 事例（その 1）に同じ。 8. 第 2 事例（その 2)：第 1 事例（その 2）に同じ。 9. 第 2 事例（その 3)：第 1 事例（その 3）に同じ。 10. 第 3 事例（その 1)：第 1 事例（その 1）に同じ。 11. 第 3 事例（その 2)：第 1 事例（その 2）に同じ。 12. 第 3 事例（その 3)：第 1 事例（その 3）に同じ。 13. 口頭発表会 14. 最終レポートのピア評価、授業全体のまとめと振り返り ＊各事例の内容は、事例を検討する際の手がかりとなるので、授業当日までのお楽しみとします。

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業 3 回に 2 回の割合で「予習メモ」、各事例の検討後は、グループでの検討結果をまとめたメモ（グループメモ）の提出を求めます。全事例の検討後は、受講者各自が授業全体を通じて学習した成果を口頭で発表のうえ、レポートにまとめて提出します。
テキスト	学習に必要な文献や資料は、原則として受講者自身が協力し合って調査・収集するものとします。
参考文献	必要に応じて適宜、授業中に紹介します
評価方法	①正当な事由のない欠席 2 回以内、②正当な事由のあるものを含め欠席 4 回以内、③宿題提出率 70%以上、④口頭発表を行い、最終レポートを提出していること、⑤最終レポートのピア評価 70 点以上、⑥ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の自己採点 70 点以上、のすべて満たしていることを単位認定（C 以上）の必要条件とします。その他、AA～C の基準を含む成績評価方法について詳細は、第 1 回のオリエンテーションで説明します。

13 年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。 本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方を理解する視点を身につけることを目標とする。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。 講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。	1. ガイダンス 2. ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 3. ツーリズム商品の特徴②：イメージとパフォーマンス 4. パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 5. パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 6. パッケージツアー③：身体化される団体旅行 7. パッケージツアー④：商品企画における「知識の管理」 8. 空間の管理とテーマ化 9. テーマ化された空間とハイブリッド消費 10. 感情労働 11. 舞台としての観光地 12. 生活とツーリズム 13. スピリチュアリティの商品化は可能か 14. 「ツーリズムの終焉」とツーリズム産業

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト	指定しない。
参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への参加／講義内小課題 30%　期末試験 70%

13 年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
日本の敗戦から70年以上が経ち、戦争について語られる機会も少なくなりました。この授業では、慰霊祭、メディアや学校、ミュージアムなどで、戦争がどのように表象されているかを調べ、記憶の継承や表象の可能性について、皆さんと議論していきます。 1945年、秋田県の花岡鉱山（現・大館市）で、中国から強制連行されていた人たちが蜂起し、鎮圧されて400人以上が犠牲になりました。蜂起のあった6月30日（今年は日曜日）に、現地慰霊祭にあわせ課外授業をおこないます。片道料金で夜行バス10000円、新幹線17000円ですが、往復割引やより安い便などもあるようなので、各自で調べてください。 やむを得ない事情で、大館・花岡での課外授業に参加できない受講生は、春の連休を利用して、『忘却された支配』で取り上げられている地方か、あるいは最低でも、靖国神社、女たちの戦争と平和資料館（wam）など都内周辺で各自フィールドワークをおこなうことが、単位取得の条件になります。	1. イントロダクション（3.1 事件 100 周年、平田オリザ『ソウル市民 1919』を観て考える） 2. 中国人強制連行の政策と思想 3. 花岡事件とは 4. 花岡事件と和解、記憶の継承 5. 強制を思い出す（宇部、北海道） 6. 骨と碑の戦後史（筑豊） 7. 追悼と謝罪の間（紀州） 8. 朝鮮人の特攻（万世・知覧） 9. 朝鮮ジェノサイド（四国） 10. 総督府官僚たち 11. 松代大本営（長野） 12. 沖縄（沖縄戦） 13. 沖縄（慰霊のかたち） 14. まとめのディスカッション

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを必ず精読して予習し、背景となる歴史や社会状況についても調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。
テキスト	杉原達『中国人強制連行』（岩波新書、2002）、伊藤智永『忘却された支配：日本のなかの植民地朝鮮』（岩波、2016）
参考文献	NHK 取材班、『NHK スペシャル 幻の外務省報告書―中国人強制連行の記録』（NHK 出版、1994）ほか。
評価方法	毎週の予習復習、課外授業の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（40%）、毎週のクラス・フェイスブックへの投稿（30%）、最終レポート（30%）。授業では毎週、積極的な発言が求められます。

13 年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
開発とは何か。何のために、誰に対して開発支援をするのか。この問いについて、現代の地球社会を考える重要な視座であるグローバルとローカルなものの対抗・交渉から考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、アジア、アフリカなどその他の国・地域の事例も交え、普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えます。とりわけ、構造的暴力に翻弄される存在（農民、先住民、マイノリティ）の対抗的開発として活発化する、ローカルな文化や環境を重視した現代の内発的発展を展望していきます。	1. 開発とは何か、貧困とは何か　教科書 1 章 2. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） 3. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 3 章 4. 教育・学び・文化 4 章、5 章 5. ジェンダーとフェミニズム 6 章 2（ビデオ『女の町ツチタン』） 6. 宗教と社会開発 NGO　7 章 2 7. ローカルメディアとアイデンティティ戦略　7 章 3 8. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 9. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 10. 新自由主義・構造調整と農民の自己防衛 8 章 2 11. 巨大開発計画と地域住民・NGO　8 章 3 12. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『S.サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』） 14. まとめ、試験対策

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読。
テキスト	北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。※学内書店で各自購入してください。
参考文献	北野収『国際協力の誕生［改訂版］』創成社新書。
評価方法	期末試験（60%）、学期中課題（ネパール村落開発、30%）、教室内ワークショップ貢献（10%）。

13 年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
食と農を題材にしたグローバリゼーション研究の授業です。食べ物は私達にもっとも身近で不可欠なものです。人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。このような現状を踏まえ、「食」を手がかりに、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えます。	1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー 12. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 13. ビデオ『未来の食卓』フランス映画（予定） 14. まとめと試験対策 ※ビデオ　フランス映画『未来の食卓』

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。
テキスト	特に定めない。
参考文献	トーマス・ライソン『シビック・アグリカルチャー：食と農を地域にとりもどす』農林統計出版。
評価方法	期末試験 80%、学期中レポート（シビック・アグリカルチャー）20%

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義（グローバリゼーションと子ども)）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
世界では約1億7000万人の子どもが児童労働に従事している。こうした子どもたちが抱える問題やその背景を理解すると同時に、グローバリゼーションや私たちがどのようにかかわっているのかを理解する。また、問題を解決するために、国際機関やNGOの取り組みについて理解する。 この授業を通じて、世界の子どもの問題について単に「かわいそう」というだけでなく、社会科学的に理解し説明できるようになります。また、「子どもの権利条約」を理解して、現状を分析し、解決方法について考えることができるようになります。また、国際社会の規範の変容における国連の役割、国家・社会の規範や政策の変容プロセスを理解し、説明することができるようになります。	1. ガイダンス（概要と、予習・復習について） 2. アジアの児童労働 3. タイのストリート・チルドレン 4. 赤ちゃんの値段－国際養子縁組問題 5. ヒューマン・トラフィックの実態 6. ヒューマン・トラフィックの対応 7. 国際犯罪としてのヒューマン・トラフィック 8. 日本の子どもの貧困 9. 在日外国人の子どもの問題 10. アフリカの子ども兵士 11. イラク戦争と子どもたち 12. 国連の安全保障と子どもの保護 13. 子どもの権利の実現に向けての国連の役割 14. 今学期のまとめ（質疑応答など）

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと、授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組むこと。
テキスト	テキスト　初瀬龍平・戸田真紀子・松田哲編『国際関係の中の子どもたち』（晃洋書房、2015 年）
参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	大福帳 15%、期末試験 85%

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。 この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。 メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。	1. ガイダンス：「トランスナショナル」と「メディア」とは？ 2. メディアの源流①：メディアとしての「本」 3. メディアの源流②：宗教戦争とナショナルな想像力 4. 近代とメディア①：オラリティとリテラシーの転換 5. 近代とメディア②：「個人」の誕生と「国家」の変容 6. 近代とメディア③：「新聞」以前・以後 7. 近代とメディア④：ニューヨーク・タイムズの時代 8. 近代日本のメディア：なぜ一万円札は福澤諭吉なのか？ 9. 20世紀とメディア①：広告、宣伝、プロパガンダ 10. 20世紀とメディア②：ヒッピーとニュー・ジャーナリズム 11. 20世紀とメディア③：“Media War”のリアリティ 12. 国際報道の現在形①：「ライブ」という問題 13. 国際報道の現在形②：ネット時代のメディア変容 14. まとめ：トランスナショナル・メディアとわたしたち

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト	各回講義で適宜提示します。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

13 年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムがそれを受け入れる社会にもたらす影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など多岐にわたっています。それゆえツーリズムを学術的に考察する際の方法論も多様です。 本講義では、文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶことを目的としています。具体的には、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指します。同時に、ツーリズム研究に関連する現代人類学における主要な問題意識・諸概念についても理解を深めていきます。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ありませんが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となります。	1. 趣旨説明 2. 映画『海と大陸』 3. グローバル化の中の民族文化 4. マクドナルドの民族誌 5. 観光と異文化理解 6. 表象の政治学―情報資本主義と観光 7. メディアと観光―「楽園」ハワイの文化史 8. 文化装置としてのホテル 9. 世界遺産の窮状―カンボジアの事例 10. ジェンダー論からみる客室乗務員の文化史 11. セックス・ツーリズム―タイの事例 12. エスニック・ツーリズム―タイの事例 13. 先住民文化の商品化と著作権―北欧サーミの事例 14. 「記憶の場」と観光―広島および西アフリカの事例

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』『観光人類学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。
テキスト	特に定めない。
参考文献	『観光学キーワード』（有斐閣）、『よくわかる観光社会学』（ミネルヴァ書房）、『観光人類学』（新曜社）
評価方法	授業毎の小レポート（30%）、期末レポート（70%）。ただし、4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （東南アジアのナショナリズム、民主主義と平和)）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
2000年代に入り中国や東南アジアの成長はめざましい。中国はいまや世界第二位のGDPとなり、東アジアの平和のカギを握る存在となった。また、2015年に成立したASEAN共同体は6億人の巨大市場としても注目されている。また、インドもICT産業を牽引する国家である。みなさんは将来、出張先として、ビジネスパートナーとして中国、東南アジア、インドと向き合うことになる。したがって、この授業では、将来みなさんが向き合うことになるアジアの政治や社会―ナショナリズム、戦後の国民国家建設の歩み、そして紛争や平和の課題を理解し、日本との関係について、東南アジア地域研究の観点から考えることを目的とする。それはみなさんが将来、何らかの形でアジアと良い信頼関係を築き、東アジアの平和や安定を創り出す一端を担ってほしいからである。	1. ガイダンス（予習・復習）東南アジア地域の特徴 2. 近代以前の東南アジア 3. 帝国主義と植民地政策 4. 中国、ベトナム、インドのナショナリズム（民族運動） 5. 日本軍政と東南アジア 6. 冷戦と東南アジアの独立 7. 中国の文化大革命と改革開放 8. ベトナム戦争とアメリカ 9. ベトナム戦争とカンボジアのポルポト（大虐殺） 10. タイの国民国家―国王・軍・政治家・中間層 11. フィリピンの権威主義体制と民主化、NGO 12. インドネシアの権威主義体制とアジア通貨危機 13. マレーシア・シンガポールの国民統合と多文化主義 14. ASEANの地域統統合と今学期のまとめ

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストを事前に熟読すること、復習については授業の最後で述べるポイントに従って、テキストを振り返ること。
テキスト	中野亜里・遠藤聡ほか『入門　東南アジア現代史（改訂版)』福村出版、2016 年。
参考文献	授業で紹介します。
評価方法	大福帳　15%、期末テスト　85%。

13 年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 2020年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントの歴史、現状などについて学習する。 講義概要： オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議などについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。	1. オリエンテーション 2. イベント・コンベンションの歴史 3. イベント・コンベンションの意義 4. 国際博覧会 5. 2020年東京オリンピック・パラリンピック 6. 障害者スポーツとパラリンピックについて 7. 国際会議・イベントについての「ディスカッション」 8. 古代オリンピック 9. オリンピック商業主義の歴史 10. 商業主義の発展 11. プレゼンテーション：「2020年オリパラの成功」グループA 12. プレゼンテーション：「2020年オリパラの成功」グループB 13. プレゼンテーション：「2020年オリパラの成功」グループC 14. プレゼンテーション：「2020年オリパラの成功」グループD

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞、関連文献などを事前に読むこと。配布した資料の復習。
テキスト	適宜個別資料を配布する。
参考文献	特に指定無し。
評価方法	授業での発言、受講姿勢、講義参画 70%、プレゼンテーションとレポート 30%。

13 年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的としている。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、グローバル化が進展する今日その重要性がさらに高まっている。このような現状を踏まえながらマーケティングの視点も含め多様な視点からツーリズム政策を分析する。同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。 講義概要： 　ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション等を通して受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して理解を深めていく。	1. オリエンテーション 2. ツーリズムの基本構造―定義など 3. ツーリズムの基本構造―経済の面からの分析 4. マーケティングとは何か？ 5. ツーリズム政策とマーケティング理論 6. ツーリズム政策の変遷 7. ツーリズム政策における我が国の課題 8. （ツーリズム政策に関する）ディスカッション 9. 世界のツーリズム政策（シンガポール） 10. 世界のツーリズム政策（北欧、ドイツ） 11. 世界のツーリズム政策（スイス） 12. 世界のツーリズム政策（フランス） 13. 日本各地のツーリズム政策（地域振興など） 14. ツーリズムとキャリアデザイン

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞などメディアを通して、ツーリズムに関する情報を事前に予習しておくこと。
テキスト	適宜個別資料を配布する。
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』(丸善プラネット)
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画 30%、最終試験 70%。

13 年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ考察する。おみやげという身近な存在を通じて、グローバルな人とモノの移動と文化をめぐる動態について考える視野を身につけることを目標とする。 講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげもの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。	1. ガイダンス 2. ツーリズムにおけるモノの文化的消費 3. おみやげとスーベニア 4. 観光みやげの近代 5. 「民芸品」をめぐるまなざし 6. 観光みやげと「ものがたり」 7. 観光みやげのギフト性 8. 観光みやげと真正性 9. 観光みやげの儀礼的倒錯性 10. こけしと木彫り熊 11. マトリョーシカのルーツ 12. マトリョーシカのルート 13. 民芸品としてのアジアン雑貨 14. アジアン雑貨が創る旅

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト	指定しない。
参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への参加／講義内小課題 30%　期末試験 70%

13 年度以降	交流文化論（地域開発論）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
地域や町が発展するということはどういうことでしょうか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、イベントにより集客を図り商店街を活性化させる等々いろいろな捉え方があります。本授業では、「地域づくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。草の根レベル、ミクロの視点から、地域づくりについて、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。行政と市民の協働、外部者（よそ者）の関わり方、地域リーダー／キーパーソン、住民の参加のあり方について、人々がコミュニケーションする場と空間という観点から考察していきます。取り上げる事例は、生ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、NY のドッグランと防犯、インドネシアでの NGO 活動、ブラジルのスラム開発など多岐にわたります。	1. 地域の発展を理解するための視座（教科書 1 章） 2. 住民参加（participation）の意義と多義性（2 章） 3. 生ごみリサイクルにみる町づくり制度構築：山形県（3 章） 4. 地域づくり・環境教育におけるキーパーソン：兵庫県（4 章） 5. つながりを育む仕組み（ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』） 6. 共益から公益の創出へ：NY と東京のドッグラン（10 章） 7. スラムとコミュニティ開発：ブラジル（ビデオ） 8. 地域づくりと外部者のまなざし：島根県（7 章） 9. 参加型開発：熊本の事例（教室内ワークショップ） 10. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 支援（11 章） 11. 百年先を考えたまちづくり（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』『ドイツの持続可能な村づくり』） 12. アクセシブル観光・ユニバーサル交流：北海道、山梨、岩手等の事例（8 章） 13. ソーシャルキャピタル・社会関係資本 14. まとめ、試験対策

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読。
テキスト	北野収編『共生時代の地域づくり論』農林統計出版　※学内書店で各自購入のこと。
参考文献	適宜、授業内で提示する。
評価方法	期末試験（60%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（10%）。

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の実際を知ること、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の３点を目的とします。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。	1. 授業の概要 2. 社会学とは 3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ　※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. 民際協力としての自治体国際協力 13. まとめと試験対策 14. 試験対策

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。
テキスト	特に定めない。
参考文献	定義、授業中に提示する。
評価方法	期末試験 80%、学期中レポート（在日コリアン文献）20%

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義（グローバル経済とジェンダー)）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
経済のグローバル化が進展しているが、女性はどのような役割を果たし、影響を受けているのだろうか。それを知るためには、現在経済成長が著しいアジアに着目するとよいだろう。アジア開発銀行は『アジア2050－アジアの世紀の誕生』（2012）の中で、現在のアジアの成長が続けば、その名目GDPは世界全体の50%を超えるとし、21世紀はまさしくアジアの世紀だと述べた。授業では、このアジア経済の成長を牽引する中心に女性の労働があると位置づけ、グローバル経済の実態－古典的国際分業から今日のグローバル経済を構成している3つの新国際分業を再解釈する。 日本女性の労働の問題もその観点から考える。女性の労働の在り方を考えることは、男性の労働や家族との関係についても考えるきっかけとなると考えている。	1. ガイダンス－授業の内容、進め方、予習復習について 2. 古典的国際分業とグローバル経済 3. 新植民地主義について『バナナの逆襲』から考える 4. 途上国ななぜ貧しいのか一従属論 5. 途上国はなぜ貧しいのか一世界システム論 6. でも、中国はなぜ成長したのか一新国際分業（1） 7. 『トゥルーコスト』から考える経済成長とジェンダー 8. 今日のグローバル経済（2）移住労働の女性化 9. フィリピン女性の移動と　家事・育児・介護 10. 香港で働くフィリピン女性とその家族 11. 資本主義の発展と再生産領域についてのまとめ 12. 今日のグローバル経済（3）サービス業の新国際分業 13. グローバル経済の結果としての、「グローバルシティ」（N.Y、ロンドン、東京）の誕生と格差社会 14. 授業のまとめと質疑応答など

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組み、予習復習する。
テキスト	授業でプリントを配布します。
参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	大福帳 15%、期末テスト 85%。

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義（「観る」ことの文化史))	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
旅するとき、人はなぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆にSNSへアップするためにフォトジェニックな場所へ旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています――いったい「撮る」という行為は、いかなる意味を持つのでしょうか？ 「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ＆ラースン、2011＝2014)。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。 そのためこの講義では、(1) 海外の研究成果を日本の社会文脈に導入し、(2) 写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、(3) また「自撮り（Selfie)」や「絶景」や「SNSフォト」など最近のトランスナショナルな社会現象を考えること、を試みます。そうして「観る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探り、近代社会におけるイメージとイマジネーションの諸問題を考えることを目的とします。	1. ガイダンス：「観る」ことと「まなざし」 2. 写真の歴史①：遠近法と写真術 3. 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化 4. 写真の歴史③：写真が「写真」になるとき 5. 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術 6. 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」 7. 海外の「まなざし」③：天皇のイメージとイマジネーション 8. 「撮る」の政治学①：「動く画」の衝撃（映画の誕生) 9. 「撮る」の政治学②：映画が「映画」になるとき 10. 「撮る」の政治学③：ディズニー映画とdomestication 11. 「撮る」の政治学④：「まなざし」の政治と主体 12. 写真とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々 13. 写真とツーリズム②：「自撮り」とセルフ・ポートレイト 14. 写真とツーリズム③： SNS時代の「観る」体験

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト	各回講義で適宜提示します。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （シティズンシップ教育論)）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
シティズンシップ教育とは、citizenship（市民性)、すなわち、市民社会の一員としての知識、技能、態度や価値観を育む教育のことです。「主権者教育」と呼ばれることもあります。もっとも、そもそも「市民性」とは何かについては議論のあるところですし、主権者教育と同じなのかについても議論があります。さらには、法教育との関係も問題となります。それらの点も含めて、この授業では、シティズンシップ教育とは何か、どうあるべきか、その教育方法などについて、協同学習の手法の1つである「LTD話し合い学習法」により学習していきます。そのうえで、最終的には、受講者が協同して、中学3年生～高校1年生程度向けのシティズンシップ教育用教材（2時限分）を作成することを目指します。 第1回のオリエンテーションでは、授業の目的と概要、成績評価の方法などについて詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。	1. オリエンテーション 2. グループ分け、LTD を支える教育理論と技法 3. 予習及びミーティングの解説と練習 4. LTD ウォーミングアップ（練習用教材使用） 5. LTD（短縮型）：シティズンシップ教育論① 6. LTD（1）：シティズンシップ教育論② 7. LTD（2）：シティズンシップ教育の課題 8. LTD（3）：シティズンシップの授業 9. LTD（1）～（3）の振り返り 10. シティズンシップ教育用教材作成（その 1）： 授業計画の検討 11. シティズンシップ教育用教材作成（その 2）： 教材の検討 12. シティズンシップ教育用教材作成（その 3）： 模擬授業のリハーサルと最終調整 13. 教材発表会（受講者作成教材による模擬授業） 14. 授業全体のまとめと振り返り

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修では、LTD の方法に従って、教材となる文献につき予習ノートを作成します。事後学修では、授業での LTD ミーティングの結果を受けてノートを整理します。また、教材作成では、素材の選定や原案の作成、発表会の準備などを授業外で行うことがあります。
テキスト	教材は、必要に応じてその都度配布します。
参考文献	LTD 話し合い学習法について予め知りたい人は、安永悟・須藤文『LTD 話し合い学習法』（ナカニシヤ出版、2014 年）を参照してください。
評価方法	①正当な事由のない欠席 2 回以内、②正当な事由のあるものを含め欠席 4 回以内、③宿題提出率 70%以上、④教材作成及び模擬授業の実施に平均以上の貢献をしていること、⑤ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の自己採点 70 点以上、のすべて満たしていることを単位認定（C 以上）の必要条件とします。その他、AA～C の基準を含む成績評価方法について詳細は、第 1 回のオリエンテーションで説明します。

13 年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空事業、クルーズ事業のビジネスの現状と課題について学習する。 講義概要： 　旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらにオンライン旅行市場について学習する。宿泊産業においては、ホテル、旅館のビジネスの概要及び課題、さらに将来について学習する。航空事業、及び大きく成長しているクルーズ事業においては、最近の動向を中心に学習する。最後の「プレゼンテーション」では、各産業への提案を各自パワーポイント使用によって行う。	1.　オリエンテーション 2.　旅行産業-歴史と現状 3.　オンライン旅行市場 4.　旅行産業-将来 5.　ホテル、旅館等宿泊産業-歴史 6.　ホテル、旅館等宿泊産業-現状、将来 7.　ツーリズム産業におけるキャリアデザイン 8.　ディスカッション（テーマ：各産業の課題等） 9.　航空事業の最近の動向 10. クルーズ事業の最近の動向 11. プレゼンテーション　グループ A 12. プレゼンテーション　グループ B 13. プレゼンテーション　グループ C 14. プレゼンテーション　グループ D

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞や関連文献から各産業の最近の動向を事前に調べておくこと。講義内容の復習。
テキスト	適宜個別資料を配布する。
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）
評価方法	受講姿勢、発言、講義参画 70%、プレゼンテーションとレポート 30%。

13 年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
オルタナティブ・ツーリズムとは、観光の大衆化（マス・ツーリズム）がもたらす様々な弊害(生活文化の形骸化や自然環境の破壊、新植民地主義等)を克服するために登場した新たな観光開発の理念です。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれた歴史的・社会的背景について概説します。その上で、エコツーリズムやコミュニティ・ベース・ツーリズム、場所性を取り入れたリゾートなど、オルタナティブな観光実践の諸事例を、文化人類学的・社会学的視点から検討し、その可能性について考えます。 本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたいと思います。その際に扱う事例としては、東南アジアをはじめとする「第三世界」や、先住民族や少数民族などの「第四世界」的状況の事例が中心となります。	1. 趣旨説明 2. ビデオ上映 （ジャマイカの観光開発） 3. 場所性の商品化―アマンリゾーツの戦略 4. 環境主義の商品化―エコリゾート 5. 世界遺産と観光1―ラオス・ルアンパバンの事例 6. 世界遺産と観光2―中国・麗江の事例 7. 貧困の商品化―都市貧困とツーリズム 8. バックパッカーの歴史と現状 9. 先住民とアート―北米イヌイットの事例 10. 先住民とミュージアム―アイヌの事例 11. エコツーリズムと先住民1―環境主義とは何か 12. エコツーリズムと先住民2―持続可能な開発とは何か 13. コミュニティ・ベース・ツーリズム―タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。
テキスト	特に定めない。
参考文献	『観光学キーワード』（有斐閣）、『よくわかる観光社会学』（ミネルヴァ書房）等。
評価方法	授業毎の小レポート（30%）、期末レポート（70%）。ただし、4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

13 年度以降	交流文化論（ツーリズム特殊講義 （ツーリズム・メディア論)）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム)」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。 「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」や「観光くにづくり（観光立国)」のシンボルにもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的発展や地域再生などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を根本から造り替えたりすることがあります。 ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性とメカニズムを検討します。	1. ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係 2. グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった 3. グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「節合」 4. グアムから考える③：「日本人の楽園」が埋立てた記憶 5. 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする 6. ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック 7. ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化 8. ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者 9. 理論編②：真正性とアーティキュレーション 10. メディア・ツーリズム①：観光地とメディア 11. メディア・ツーリズム②：映画観光の特徴 12. メディア・ツーリズム③：「歴史」と「記憶」の観光資源化 13. 理論編③：複製技術時代の真正性と観光 14. 理論編④：メディア・ツーリズムのメカニズム

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト	各回講義で適宜提示します。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

外国語学部共通科目シラバス

13 年度以降	総合講座	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
モビリティの世紀：文化、メディア、ツーリズム 年間で12億人もの人々が国境を超える今日、「移動」は重要なキーワードです。テレビや新聞では観光者をはじめ、移民や難民など、さまざまなツーリスト（移動者）たちのニュースを連日、目にします。そうしたヒトの移動に加え、モノや情報（コト）の移動を考慮すれば、21世紀は「移動（モビリティ）の世紀」といえます。 この総合講座では、モビリティという切り口から、われわれの社会と文化の特徴を考えます。 各回のテーマは21世紀の最新状況に限定せず、またモビリティと深い関わりをもつメディアや文化現象にも着目し、現代に至るまでの歴史や、さまざまな時代や地域の「モビリティ」を取り上げることで、多様な事例から「モビリティ」の世紀の課題と可能性を考えるための知見を学びます。	1. 4/10 ガイダンス：モビリティとは何か？（山口誠） 2. 4/17 モビリティが作り出す文化:タイ国プーケットを事例に（須永和博） 3. 4/24 表象のモビリティ（柿田秀樹） 4. 5/8 移動・観光からみる民俗芸能（鈴木涼太郎） 5. 5/15 移民社会日本のチャレンジ（高橋雄一郎） 6. 5/22 カレーのジャングルをめぐって（藤田朋久） 7. 5/29 ことばの移動（田中善英） 8. 6/5 留学しない留学：トランスナショナル教育の可能性と課題（工藤和宏） 9. 6/12 18世紀のシェイクスピア・ツーリズム（前沢浩子） 10. 6/19 アフリカにおけるヒトのモビリティ：ディアスポラの役割（佐野康子） 11. 6/26 ドイツと移民：その歴史的展開（古田善文） 12. 7/3 グローバル化･ツーリズムと異文化間コミュニケーション（マティアス・ビティヒ） 13. 7/10 モビリティと環境（岡村りら） 14. 7/17 まとめ（山口誠）

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト	各回講義で適宜提示します。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	各講義後コメントペーパーを試験解答として提出するため、出席と講義の内容の復習が不可欠である。 75 分の講義の後、担当の先生の各テーマについて 15 分ほどのテストを毎回行う。このテストをもとに成績を評価する。

13 年度以降	総合講座	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
今期のテーマは「私たちの暮らしとジェンダー」とする。 ジェンダーとは生物学的に分類された男性や女性ではなく、その国家や地域の歴史や社会、文化によって規定される「男らしさ」、「女らしさ」である（今日では生物学的に分類された男性・女性（セックス）もまた、文化によって構築されたという議論もあるが）。このジェンダー観やジェンダー規範は、政治や経済、そして私たちの暮らしにどのような影響を与えているのだろうか。今日ジェンダーに関する研究は、文学や社会学、人類学、政治学や経済学、国際関係論にまでおよんでいる。また、昨年の＃Me too運動のように、世界では様々なムーブメントも起こっている。そこで、本講義ではさまざまな分野の研究者だけでなく、国際協力の現場で活躍しているNGOスタッフらも招き、いろいろな角度からジェンダーについての講義を行うこととする。	1. ガイダンス 2. 平成の日本経済、労働、結婚、家族の変容（堀芳枝） 3. デート DV について考えよう（狛潤一） 4. 世界の難民問題とジェンダー（UNHCR 協会・滝澤三郎） 5. 東チモールのフェアトレードと女たち（NGO/野川未央） 6. グローバルアジェンダとしての女性の権利の問題（水本義彦） 7. ボーヴォワールの女性論 ―『第二の性』、サルトルとの関係から考える（根木昭英） 8. 昔話とジェンダー（渡部重美） 9. 妊娠中絶について考える：文学研究の立場から（片山亜紀） 10. Family, Life, Work and Being a Woman: What Does It Take?（英語）（本橋エレン） 11. ドイツ近代史とジェンダー（伊豆田俊輔） 12. 19 世紀フランスの女性像－経済史と美術史の観点から（廣田愛理・阿部明日香） 13. ジェンダー福袋（上野直子） 14. 男性ヌードの神話（青山愛香）

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布プリントや授業内で紹介された参考文献をもとに、自分が関心をもった点について調べて理解を深める。
テキスト	授業で指示します。
参考文献	授業で指示します。
評価方法	期末テストは行わず、毎回提出するコメントペーパー（1 回 10 点）とし、 最終的に 14 回分を 100 点に換算して評価することとする。

13 年度以降	総合講座	担当者	永本　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の主な目的は、古代から中世までのキリスト教と社会の関係を概観することにあります。ユダヤ教の影響を受けて中東で生まれたキリスト教は、その後地中海地方全域へと広がっていきました。中世を通じてヨーロッパもまた、次第にキリスト教化されていきます。 政教分離も信教の自由もまだ実現していなかった前近代社会において、宗教は、政治や文化など社会の全域に大きな影響を及ぼしていました。そのため、ヨーロッパの歴史、文化、社会を理解するためには、キリスト教に関する知識が必要不可欠だと言えるでしょう。 本講義では、キリスト教が、いかに生まれ、広がり、変質し、地中海世界、そしてヨーロッパの社会を大きく変えていったかを学んでいきます。	1. 講義の概要 2. キリスト教とはどのような宗教か？ 3. ユダヤ教 4. 史的イエス 5. 使徒たちの宣教 6. 聖書 7. キリスト教の広がり 8. 古代末期のキリスト教と社会 9. 初期中世の教会と国家 10. カトリックと正教会の分裂 11. 修道院 12. 教会改革 13. 教会と生活 14. 中世のまとめ

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の該当個所を事前に精読しておいてください。また、授業中に配付するプリントを用いて、復習を行ってください。凡そ 4 時間分の学修時間になります。
テキスト	テキストは使用せず。
参考文献	松本宣郎編『キリスト教の歴史 1 初期キリスト教～宗教改革』山川出版社、2009 年
評価方法	定期試験 100%

13 年度以降	総合講座	担当者	有信　真美菜

講義目的、講義概要	授業計画
「ヨーロッパ」はどのようにして形成されたか 現在のヨーロッパにあるもの（大学、言語、「ヨーロッパらしい」町並み、今のヨーロッパ諸国）の多くが、おそらく多くの人が学ぶ機会のなかった中世に作られています。この講義では、一般に「ヨーロッパ的なもの」として知られているものが、いつどのようにして出来たのかを、歴史をたどってテーマごとに話していきます。「歴史」と聞くと、中学・高校の退屈な歴史の授業を思い出すかもしれませんが、外国に旅行に行った際、ガイドブックに書いてあるその町や古い建物の歴史は興味を持って楽しく読むと思います。そのような話をする予定です。 ここでは、簡単に読める概説書を参考文献で挙げておきます。各テーマに関する文献は、授業時に提示します。	1. ガイダンス 2. EU以前のヨーロッパ「統合」―ヨーロッパ前史― 3. ヨーロッパ史のイメージ―ファッションの変遷― 4. ヨーロッパの街並みはいつできたのか 5. 流行先進国はどこか 6. 昔の題材にのっとって―ヴァーグナーのオペラ― 7. 歴史と文学 8. どこで何語が話されたか1（古代～中近世） 9. どこで何語が話されたか2（近世～現代） 10. 中世の残滓―ギリシャ語とラテン語― 11. 食文化とテーブルマナー 12. 海外で働く―ハンザ都市と貿易― 13. まとめ 14. 質疑、授業内試験

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の内容を復習し、必要に応じて参考文献を読んで下さい。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	服部良久（他）編『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』（ミネルヴァ書房、2006 年）
評価方法	授業内試験 70%、授業への参加 30%（最低 3 分の 2 以上要出席）

13 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1. 講義の概要と目標、情報のデジタル化 2. オペレーティングシステムとは 3. データ構造入門 4. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 5. プログラミング言語入門 6. コンピュータ・ハードウェア 7. 言葉と言語処理の仕組み 8. 言語処理ための構文解析と言語資源 9. 言葉の意味解析と知識表現 10. 情報検索における言語処理 11. 質問応答システムと対話システム 12. 機械翻訳の原理 13. 講義のまとめ（前半部分の復習） 14. 講義のまとめ（後半部分の復習と演習課題の提出）

到達目標	コンピュータの基礎理論およびコンピュータ言語に関する知識を習得し、コンピュータの基本的操作ができるようにする。
事前・事後学修の内容	サーバー上に開示するテキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出します。
テキスト	使用しません。
参考文献	随時紹介します。
評価方法	定期試験の成績 60%、課題の完成度 30%、授業への参加度 10%を併せて評価します。

13 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［総合］	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1 人 1 台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100%

13 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［総合］	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1 人 1 台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100%

13 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［英語］	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 　コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	題等の平常点：100%

13 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［英語］	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 　コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100%

13 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［ヨーロッパ言語］	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 　コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100%

13 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［ヨーロッパ言語］	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 　コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100%

13 年度以降	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 　実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数とは 6. 基本的な関数 7. 応用的な関数 8. マクロの基礎 9. マクロの利用 10. プレゼンテーション実習（1）-作成 11. プレゼンテーション実習（1）-発表 12. プレゼンテーション実習（2）-作成 13. プレゼンテーション実習（2）-発表 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100%

13 年度以降	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 　実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数とは 6. 基本的な関数 7. 応用的な関数 8. マクロの基礎 9. マクロの利用 10. プレゼンテーション実習（1）-作成 11. プレゼンテーション実習（1）-発表 12. プレゼンテーション実習（2）-作成 13. プレゼンテーション実習（2）-発表 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100%

13 年度以降	［応用］情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際の発表（質疑応答も含む）を通じて、「わかりやすいプレゼンテーションとは何か」を考えていく半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、課題（演習）が締め切り日までに提出されなかったり、また提出はあっても、発表の準備をしていない場合は、実際の発表ができません。	1. ガイダンス、基本知識と操作の確認 2. プレゼンテーションとは 3. スライドの作成法－入力 4. スライドの作成法－実行、印刷 5. 演習 1：時間の意識 6. 発表－第 1 グループ 7. 発表－第 2 グループ 8. 演習 2：配布資料の利用 9. 発表－第 1 グループ 10. 発表－第 2 グループ 11. 演習 3：「言葉」の定義 12. 発表－第 1 グループ 13. 発表－第 2 グループ 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。
参考文献	随時紹介。
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 演習（作成・発表・振り返り）90%、平常点（練習問題等）10%。

13 年度以降	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 　実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組など設定方法 3. 段落、段組、その他書式設定 4. アウトラインに沿った編集方法 5. アウトラインに沿った編集の実践 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用方法 9. 図形の利用の実践 10. 図形の利用および組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との基本的な連携 13. Excel との応用的な連携 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100%

13 年度以降	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 　実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組など設定方法 3. 段落、段組、その他書式設定 4. アウトラインに沿った編集方法 5. アウトラインに沿った編集の実践 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用方法 9. 図形の利用の実践 10. 図形の利用および組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との基本的な連携 13. Excel との応用的な連携 14. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	課題等の平常点：100%

13 年度以降	［応用］情報科学各論（Office 中級）	担当者	松山　恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Office（Word、Excel、PowerPoint）の実践的・統合的な使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 　実習を中心とする授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1.　ガイダンス・基本操作の確認 2.　Word　オブジェクトを使った文書の作成 3.　Word　アウトラインを使った文書の作成 4.　Word　長文の作成（Word習熟度の確認） 5.　Excel　相対・絶対参照での計算式 6.　Excel　シート間の作業。グラフの編集 7.　Excel　基本関数の利用 8.　Excel　応用関数の利用 9.　Excel　関数・グラフの習熟度の確認 10. WordとExcel 統合的な使い方 11. PowerPoint　目的に合わせた表現方法 12. PowerPoint　テーマに沿ったプレゼン作成 13. PowerPoint　プレゼンの発表 14. まとめ　Word、Excelの習熟度の復習

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の内容に合わせた事前・事後学修を指示する。欠席した学生も必ず提出すること。
テキスト	「情報活用とアカデミック・スキル　Office2016」　共立出版
参考文献	適宜指示する。
評価方法	3 分の 2 以上の出席をした学生を対象に以下に従い評価を行う。 Word および Excel の習熟度、プレゼン発表　50%、授業内課題　20%、事前・事後課題　30%

13 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 初級）（月 5）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際のWebページの作成を通じて、Webページの仕組みとインターネットにおける情報の発信、著作権等について学んでいく半期完結授業である。 まず、コンピュータとネットワークの基本構成、ファイル・フォルダ・ドライブといったコンピュータに関する基本知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである「WWW（World Wide Web）」における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML（Hyper-Text Markup Language）」を学ぶ。更に自分自身のWebページ（ホームページ）も作成する。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 コンピュータの言語（Language）を習得するには、外国語を習得するのと同様に、「繰り返し（復習）」が極めて重要です。	1. ガイダンス、基本知識と操作の確認 2. Webページとは、情報倫理、著作権 3. 文字中心のページ、リンク 4. 画像 5. 表 6. FTP 7. 課題－表紙（目次） 8. 課題－枠組み（リンク） 9. 小鑑賞会、企画書の作成 10. CSS 11. 総合課題－表紙（目次） 12. 総合課題－枠組み（リンク） 13. 作品紹介のプレゼンテーション 14. 鑑賞会・まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。
参考文献	随時紹介。
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）40%、平常点（課題、著作権のレポート等）60%。

13 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 初級）（木 4）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際のWebページの作成を通じて、Webページの仕組みとインターネットにおける情報の発信、著作権等について学んでいく半期完結授業である。 まず、コンピュータとネットワークの基本構成、ファイル・フォルダ・ドライブといったコンピュータに関する基本知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである「WWW（World Wide Web）」における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML（Hyper-Text Markup Language）」を学ぶ。更に自分自身のWebページ（ホームページ）も作成する。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 コンピュータの言語（Language）を習得するには、外国語を習得するのと同様に、「繰り返し（復習）」が極めて重要です。	1. ガイダンス、基本知識と操作の確認 2. Webページとは、情報倫理、著作権 3. 文字中心のページ、リンク 4. 画像 5. 表 6. FTP 7. 課題－表紙（目次） 8. 課題－枠組み（リンク） 9. 小鑑賞会、企画書の作成 10. CSS 11. 総合課題－表紙（目次） 12. 総合課題－枠組み（リンク） 13. 作品紹介のプレゼンテーション 14. 鑑賞会・まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。
参考文献	随時紹介。
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）40%、平常点（課題、著作権のレポート等）60%。

13 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、「情報科学各論（HTML初級）」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「HTMLを用いたWebページ作成技術を習得した人（FTPの理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページの作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 まず、コンピュータとネットワーク（インターネット）の基礎知識の確認、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意：授業内容や評価方法等を詳しく説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。原則として、HTML初級を履修済みであること。プログラミングの授業なので、特に欠席や遅刻はしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 抽象度が高いので、準備と復習をしっかり行い、こまめにメモを取ることが必須です。	1. ガイダンス 2. HTMLとFTPの復習 3. インタラクティブなページとは 4. プログラミングの基礎知識 5. JavaScript－順次 6. JavaScript－選択 7. JavaScript－繰り返し 8. JavaScript－イベントハンドラ 9. JavaScript－画像の切り替え 10. CGIの利用 11. 総合課題－表紙（目次） 12. 総合課題－枠組み（リンク） 13. 総合課題－JSの活用 14. 鑑賞会・まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。
参考文献	随時紹介。
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）70%、平常点（課題等）30%。

シラバス ドイツ語学科

2019年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048-946-1656

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	